

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期） 施策検証結果報告書（令和4年度）



▲綿向山青年の塔 50 周年記念事業～過去から未来へ 100 年プロジェクト～

昭和 45 年（1970 年）、日野青年団を中心に青年が結集し、後世の青年に何か残そうと、町のシンボルである綿向山の頂上に 50 年後の町の発展に夢を託してタイムカプセルを埋設した「青年の塔」が建設されました。

コロナ禍により延期を余儀なくされた令和 4 年 9 月 17 日、夢を託された日野町連合青年会を中心とした若者の手によって、52 年ぶりにタイムカプセルが姿を現しました。

令和 5 年 1 1 月
日野町総合計画懇話会

目 次

1. はじめに.....	1
2. 検証方法.....	3
3. 基本目標別検証結果.....	7
4. 施策検証結果一覧.....	17
基本目標（１）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	18
基本目標（２）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる.....	21
基本目標（３）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる.....	23
基本目標（４）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる.....	25
5. 施策別検証内容（施策検証シート）.....	29
基本目標（１）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	30
基本目標（２）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる.....	41
基本目標（３）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる.....	49
基本目標（４）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる.....	55
6. 地方創生交付金事業の検証.....	70
7. 検証のまとめ.....	72
1) 量的（KPI）検証のまとめ.....	73
2) 質的（取組内容）検証のまとめ.....	74
3) 基本目標別のまとめ.....	75
4) 総合戦略の検証の実施について ～PDCA サイクルの確立～.....	78
5) まとめ.....	79
8. 資料編.....	86
1) 用語解説	87
2) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会の開催.....	90
3) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会委員名簿.....	90

1. はじめに

1) 総合戦略の検証の実施について

日野町では、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定される市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として、平成27年10月に「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」（以下「総合戦略」）を策定しました。

第2期総合戦略は、人口減少が進むなか、安心して暮らせるまちをつくりそのまちの魅力で交流人口および定住者人口を増やし、持続的に発展する日野町をつくることを目指し、平成27年度からの6年間の基本的な方向と施策の取り組みを定めた第1期総合戦略の取り組みを踏まえ、まちづくりの指針として策定した第6次日野町総合計画の取り組みのなかから、人口減少、超高齢社会対策に特化した施策を総合戦略の取り組みとしています。

総合戦略の取り組みは、その効果を定期的・多角的に評価し、検証結果を踏まえ、さらに効果的・効率的な取り組みを推進していくことが求められます。このことから、毎年度の事業完了後に基本目標と施策についての取り組み状況を外部有識者等の参画のもとに効果検証することにより、その検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行うPDCAサイクルを確立し、総合戦略を着実に推進するために実施するものです。

2) 検証にあたっての着目点など

総合戦略の検証を進めるにあたって、次の着目点により検証を実施しました。

- ① 総合戦略に掲げる「めざす姿」の実現に向けて、4つの基本目標の総合的な自己点検が実施され、事業の見直しも含めた今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。

（めざす姿）

人と人がつながり、顔の見える関係のもと、結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえるとともに、本町の強みや魅力を活かした取り組みを進めることで、暮らしを支える雇用をつくります。

また、歴史文化や町並み等を活かし、地域の魅力を育むことで、新たな人の流れをつくるとともに、住民が自ら考え自ら行動することで、人が集い安心して暮らせる地域をつくることをめざします。

さらに、観光、農業、商工業などの本町の特性を活かし、本町の外ともつながり、域外からも活力を呼び込むとともに、地域内経済循環につなげ、地域の経済を強く保っていくことをめざします。

また、人口減少は、その歯止めには時間を要し、歯止めをかけたとしても一定の人口減少が進行していくと見込まれます。地域での暮らしや教育・福祉が確保され、まち全体の生産性の向上を継続していく等、人口減少に適応した地域を着実に作っていくことをめざします。

- ② 施策の取り組みについて、基本目標および基本的方向性を踏まえた取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ③ 施策の取り組みについて、施策の内容を十分に理解したうえで取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ④ 施策の取り組みについて、重要業績評価指標（KPI）の実績だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実ができているか。

2. 検証方法

1) 施策の検証方法

施策の検証については、施策毎に取り組み状況等をまとめた「施策検証シート」を作成し、懇話会委員の合議性により検証を実施しました。

「施策検証シート」の検証項目には、施策毎の目標値にあたる「重要業績評価指標（KPI）の達成度」だけでなく、施策の取り組み内容の質について検証を行うため、「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」を加えた5項目としました。

2) 施策の検証結果

検証結果については、30点満点とし、「施策の検証基準」に基づき、量的検証項目として重要業績評価指標（KPI）の達成度、質的検証項目として4項目の採点を行い、5項目の合計点数により5段階の検証結果としました。

【量的検証項目】・・・点数配分10点

量的な検証として、年度別の重要業績評価指標（KPI）の目標値に対する実績値の達成度を検証しました。なお、重要業績評価指標（KPI）が複数設定されている施策については、平均点を点数としました。

検証による点数配分は、次のとおりです。

点数	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
KPIの達成度	100%	100% 未満～ 90%以上	90% 未満～ 80%以上	80% 未満～ 70%以上	70% 未満～ 60%以上	60% 未満～ 50%以上	50% 未満～ 40%以上	40% 未満～ 30%以上	30% 未満～ 20%以上	20% 未満～ 10%以上	10% 未満～ 0%以上

年度別の重要業績評価指標（KPI）に関する検証結果を次のとおり5段階としました。

KPIの検証結果	重要業績評価指標（KPI） の達成度	重要業績評価指標（KPI） の検証点数
量S	100% ～ 90%以上	10点 ～ 9点
量A	90%未満 ～ 70%以上	8点 ～ 7点
量B	70%未満 ～ 50%以上	6点 ～ 5点
量C	50%未満 ～ 30%以上	4点 ～ 3点
量D	30%未満 ～ 0%以上	2点 ～ 0点

【質的検証項目】・・・点数配分20点

「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」の4項目について検証を行った。

検証による点数配分は、次のとおりです。

検証項目	5点	4点	3点	2点	1点
【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証ができているか	施策の内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	施策の内容を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	施策の内容を理解し取り組みができている	概ね施策の内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	施策の内容を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	施策の内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	施策の内容を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね施策の内容を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない
【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、取り組みにより達成している	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	基本目標と基本的方向を理解し取り組みができている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	基本目標と基本的方向を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない

質的検証を行った4項目の合計点数により、質的な検証結果を次のとおり5段階としました。

質的検証結果	質的検証結果の内容	質的検証を行った4項目の合計点数
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	20点 ～ 17点
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている	16点 ～ 13点
質B	内容を理解し、取り組みができている	12点 ～ 9点
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	8点 ～ 5点
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	4点 ～ 1点

【検証結果】

量的検証項目（K P I）および質的検証項目（4項目）の検証点数の合計点数により次のとおり、施策の検証結果とすることとしました。

検証結果	検証結果内容	5項目の合計点数
S	目標を達成している	30点 ～ 25点
A	優れている	24点 ～ 19点
B	実施できている	18点 ～ 13点
C	工夫が必要	12点 ～ 7点
D	改善が必要	6点 ～ 1点

【施行策の検証基準】

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略													
施策の検証基準													
30点満点			達成		優		良		発展途上		改善が必要		
数量的検証	①	KPIの達成度 ※KPIが複数の場合は、平均点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
			100%	100%未満 ～90%以上	90%未満～ 80%以上	80%未満～ 70%以上	70%未満～ 60%以上	60%未満～ 50%以上	50%未満～ 40%以上	40%未満～ 30%以上	30%未満～ 20%以上	20%未満～ 10%以上	10%未満～ 0%以上
質的検証	検証観点		5点		4点		3点		2点		1点		
	②	【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた 取り組みと検証ができ ているか	施策の内容を十分に理 解し、取り組みにより達 成している		施策の内容を理解し、課 題解決と達成に向け取 り組みができている		施策の内容を理解し取 り組みができている		概ね施策の内容を踏ま えているが、取り組みが 不十分		あまり施策の内容を踏ま えて取り組めていない		
	③	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策 の内容を踏まえ、改善策 等を明記しているか	施策の内容を十分に理 解し、達成した取り組み を維持、または更に改善 しようとしている		施策の内容を理解した 取り組みを実施し、課題 解決や達成に向けた取 組みが明示されている		施策の内容を理解し、課 題解決や達成に向けた 取り組みが明示されて いる		概ね施策の内容を踏ま えているが、課題解決や 達成に向けた取り組み が不十分		あまり施策の内容を踏ま えず、課題解決や達成 に向けた取り組みが示 されていない		
	④	【取り組み状況】 基本目標と基本的方向 を踏まえた取り組みと検証 ができているか	基本目標と基本的方向 を十分に理解し、取 組みにより達成している		基本目標と基本的方向 を理解し、課題解決と達 成に向け取り組みがで きている		基本目標と基本的方向 を理解し取り組みがで きている		概ね基本目標と基本的 方向を踏まえているが、 取り組みが不十分		あまり基本目標と基本 的方向を踏まえて取 組めていない		
	⑤	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本 目標と基本的方向性を 踏まえ、改善策等を明記 しているか	基本目標と基本的方向 を十分に理解し、達成した 取り組みを維持、または 更に改善しようとして いる		基本目標と基本的方向 を理解した取り組みを 実施し、課題解決や達成 に向けた取り組みが明 示されている		基本目標と基本的方向 を理解し、課題解決や達 成に向けた取り組みが 明示されている		概ね基本目標と基本的 方向を踏まえているが、 課題解決や達成に向け た取り組みが不十分		あまり基本目標と基本 的方向を踏まえず、課題 解決や達成に向けた取 り組みが示されていない		
合計検証点数													
													
合計検証点数		30点～25点		24点～19点		18点～13点		12点～7点		6点～1点			
⑥検証結果	S		A		B		C		D				
	目標を達成している		優れている		実施できている		工夫が必要		改善が必要				

3）基本目標別の検証

基本目標の検証については、めざす姿の実現に向けて、基本目標別にまとめられた取り組み状況と今後の取り組み、基本目標を構成する施策の検証結果を踏まえ、総合的に基本目標を検証し、その検証内容をコメントとしてまとめました。

4）地方創生交付金事業の検証

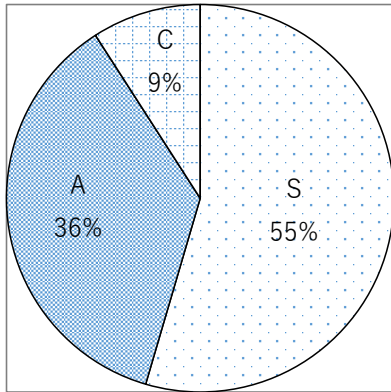
地方創生交付金事業の検証については、国から外部有識者による効果検証が求められていることから、総合計画懇話会で検証を行うこととしました。効果検証については、重要業績評価指標（K P I）の達成度に加え、関連する施策の検証結果を踏まえ、事業として有効であったかを検証することとしました。

3. 基本目標別検証結果

No.	基本目標	年度	検 証 結 果					
			達成度 100%～90%以上	達成度 90%未満～70%以上	達成度 70%未満～50%以上	達成度 50%未満～30%以上	達成度 30%未満～0%以上	
			量S	量A	量B	量C	量D	合計
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	R3	7	1	2	1	0	11
		R4	6	4	0	1	0	11
		R5						
		R6						
		R7						
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	R3	7	0	0	0	1	8
		R4	7	1	0	0	0	8
		R5						
		R6						
		R7						
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	R3	4	1	0	0	1	6
		R4	3	2	0	0	1	6
		R5						
		R6						
		R7						
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	R3	7	6	2	0	0	15
		R4	8	4	2	1	0	15
		R5						
		R6						
		R7						
総 合 計		R3	25	8	4	1	2	40
		R4	24	11	2	2	1	40
		R5						
		R6						
		R7						

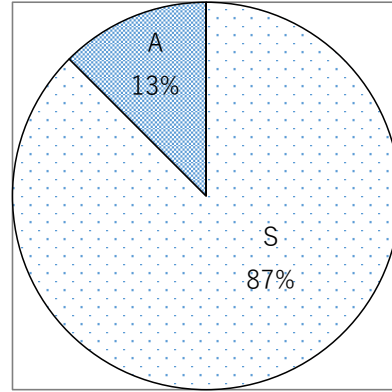
基本目標別量的（KPI）検証結果

1. 結婚・出産・子育ての希望を
みんなで支えてかなえる



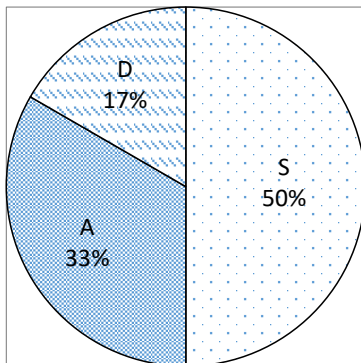
□ S
■ A
■ B
□ C
■ D

2. 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らし
を支える雇用をつくる



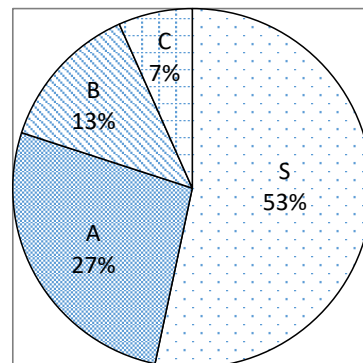
□ S
■ A
□ B
□ C
□ D

3. まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の
流れをつくる

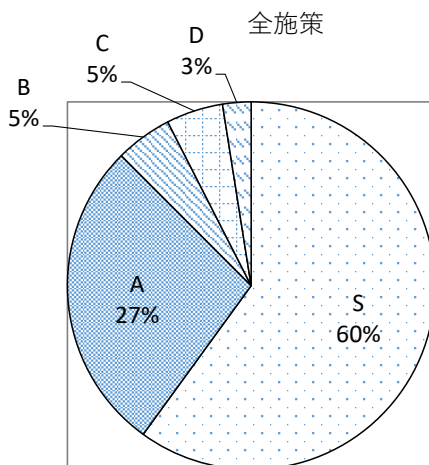


□ S
■ A
□ B
□ C
□ D

4. しやすい地域を育み、安心して住み続け
られるまちをつくる



□ S
■ A
■ B
□ C
■ D



□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

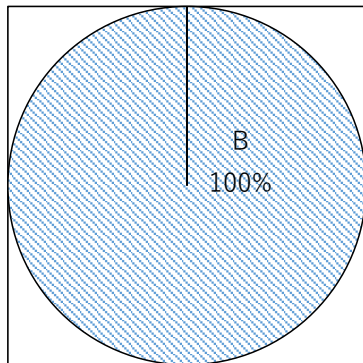
全施策の量的（KPI）検証結果では、量S（達成度100%～90%）が24施策、60%と最も多く、次いで、量A（達成度90%～70%）が11施策、27%となりました。

また、基本目標別の量的（KPI）検証結果でも、4つの基本目標とも、量S（達成度100%～90%）が最も多くなりました。

No.	基本目標	年度	検 証 結 果					合計
			内容を十分に理解し、取組みにより達成している	内容を理解した取組みを実施し、課題解決や達成に向けた取組みができています	内容を理解し、取組みができています	概ね内容を踏まえているが、取組みが不十分	あまり内容を踏まえて取組みしていない	
			質S	質A	質B	質C	質D	
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	R3	0	0	7	4	0	11
		R4	0	0	11	0	0	11
		R5						0
		R6						0
		R7						0
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	R3	0	0	5	3	0	8
		R4	0	0	7	1	0	8
		R5						0
		R6						0
		R7						0
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	R3	0	0	6	0	0	6
		R4	0	1	4	1	0	6
		R5						0
		R6						0
		R7						0
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	R3	0	0	13	2	0	15
		R4	0	1	14	0	0	15
		R5						0
		R6						0
		R7						0
総 合 計		R3	0	0	31	9	0	40
		R4	0	2	36	2	0	40
		R5						
		R6						
		R7						

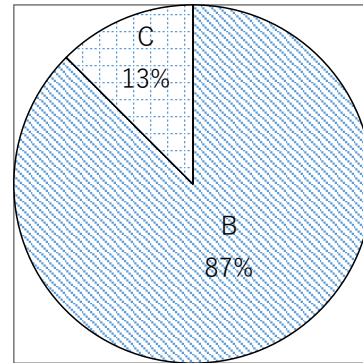
基本目標別質的（取組内容）検証結果

1. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えて
かなえる



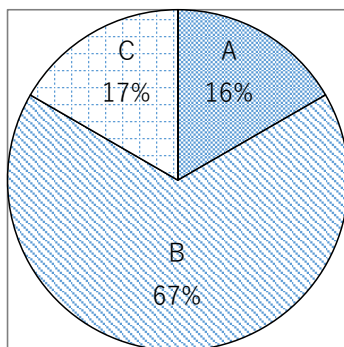
□ S
□ A
■ B
□ C
□ D

2. 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らし
を支える雇用をつくる



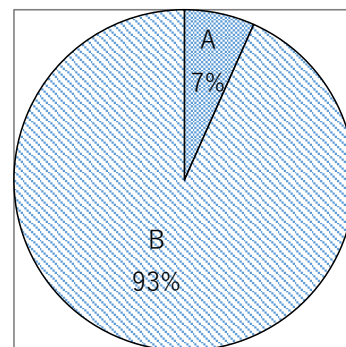
■ S
■ A
■ B
□ C
■ D

3. まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の
流れをつくる

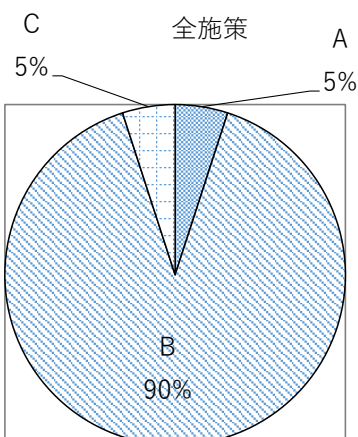


□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

4. 暮らしやすい地域を育み、安心して住み続け
られるまちをつくる



□ S
■ A
■ B
□ C
□ D



□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

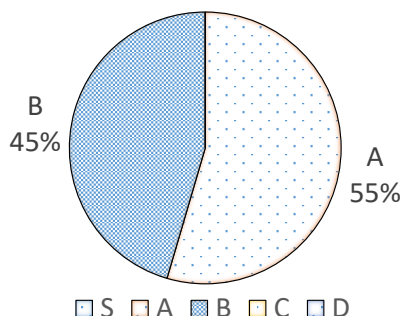
全施策の質的（取組内容）検証結果では、質B（内容を理解し、取り組みができています）が36施策、90%と最も多く、次いで、質A（内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができています）が2施策の5%、および質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）も2施策の5%となりました。

また、基本目標別の質的（取組内容）検証結果でも、4つの基本目標とも、質B（内容を理解し、取り組みができています）が最も多くなりました。

基本目標 (1)	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる
地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	

重要業績評価指標（KPI）								
指標名		基準値（R1）		R3	R4	R5	R6	目標値（R7）
1	出生数（住民基本台帳）過去3年平均	149 人	目標	156 人	160 人	163 人	166 人	170 人
			実績	135 人	122 人			
			達成率	86.5%	76.3%			
取り組みに関する基本的方向			○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。					
施策の検証結果状況		年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
			S	A	B	C	D	
		R3	0	5	5	1	0	11
		R4	0	6	5	0	0	11
		R5						0
		R6						0
		R7						0

1. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる



基本目標①「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が6施策、55%となりました。また、B（実施できている）も5施策、45%となりました。

基本目標に対するコメント
(まどめはP.75参照)

- ・KPIの出生数は、全国の出生率が低下していることを踏まえて見る必要があります。
- ・社会情勢の変化にあわせた子育て施策の工夫が必要です。（例：働き方改革が進み、育児休業で復帰先が決まっている方が多く就労セミナーの参加者が減少しているなかで、時代のニーズにあわせたセミナーの開催を検討するなど）
- ・子育て経験者の力を借りながら次の世代が育っていくような「助け合いのサイクル」をつくることを意識する必要があります。（例：ファミリーサポートセンターで、サポートされた側がサポートする側に変わっていくといった局面をつくっていく）
- ・スポーツやカルチャー教室などの地域内における学びのなかで、レスリングや合唱などの好循環に学びながら、そのほかのスポーツやカルチャーも充実していきましょう。そのときに、個人の学びにとどまらず、その学びが地域づくり・社会づくりに繋がるように成熟させて下さい。
- ・情報発信の意識改善が必要です。情報発信の際は、町内に留まらず、近隣市町に住む人や企業なども巻き込んで実施することで、日野町の魅力発信にもつながります。
- ・生涯学習事業の全体として、個別事業でサービスの提供ができていることは評価しますが、次世代を育てて好循環を作っていく取組が弱いように感じます。実施事業が人材育成やまちづくりにつながっていく道筋が見えるようにして下さい。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

基本目標別検証結果

基本目標（2）

地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる

まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。

重要業績評価指標（KPI）								
指標名		基準値（R1）	R3	R4	R5	R6	目標値（R7）	
1	創業件数	12 件	目標	15 件	17 件	19 件	22 件	25 件
			実績	16 件	20 件			
			達成率	100.0%	100.0%			
2	町内企業への新規学卒就職者の町内在住者比率	19.9 %	目標	20.3 %	20.7 %	21.1 %	21.5 %	22.0 %
			実績	23.9 %	25.6 %			
			達成率	100.0%	100.0%			

取り組みに関する基本的方向

○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。
○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。
○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。

施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	R3	0	4	3	1	0	8
	R4	0	6	2	0	0	8
	R5						0
	R6						0
	R7						0

2. 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる

Category	Count	Percentage
A (優れている)	6	75%
B (実施できている)	2	25%

基本目標②「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が6施策、75%となりました。

また、B（実施できている）は2施策、25%となりました。

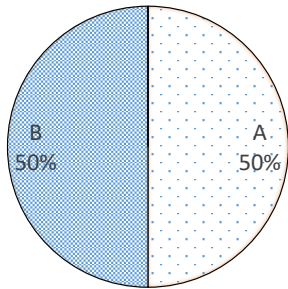
基本目標に対するコメント
(まとはめはP.75～P.76参照)

- ・地域内経済循環の実態調査に着手して下さい。
- ・実態調査の成果をもとに、住民自身が町内経済の活性化につながる消費行動を行うなど、補助金に頼らずとも、地域内経済循環が起きるような工夫をして下さい。
- ・工業団地の工場誘致（企業誘致）のような町内雇用を大きく創出する取組はもちろんのこと、コミュニティビジネスの促進やサテライトオフィスを起点とした新しい町の雇用創出につながる取組を促進して下さい。
- ・基本目標で設定している「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」という目標は極めて重要な目標です。一方で、個別の取組が基本目標との間で乖離があるようなので、各個別の施策を着実に進めるとともに、基本目標の達成に向けて個別施策のレベルアップを図って下さい。

基本目標（3）	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる
まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。	

重要業績評価指標 (KPI)								
指標名		基準値 (R1)		R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)
1	観光入込客数（年間）過去3年平均	623,900 人	目標	550,000 人	550,000 人	580,000 人	610,000 人	650,000 人
			実績	535,948 人	458,202 人			
			達成率	97.4%	83.3%			
2	転入者数（住民基本台帳）過去3年平均	777 人	目標	778 人	778 人	779 人	779 人	780 人
			実績	746 人	764 人			
			達成率	95.9%	98.2%			
3	転出者数（住民基本台帳）過去3年平均	760 人	目標	744 人	735 人	727 人	719 人	710 人
			実績	766 人	793 人			
			達成率	97.1%	92.7%			
取り組みに関する基本的方向			○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。					
施策の検証結果状況		年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		R3	0	4	1	1	0	6
		R4	0	3	3	0	0	6
		R5						0
		R6						0
		R7						0

3. まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる



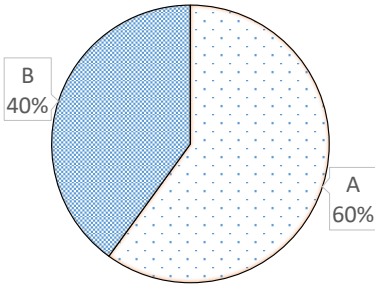
基本目標③「まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が3施策、50%となりました。
次いで、B（実施できている）が3施策、50%となりました。

基本目標に対するコメント （まとはP.76参照）	• 全体的に町外への発信に重点があるように見えます。町外向けの取組に加えて、住民自身がまちの魅力を認識していくことが必要です。住民が日野町での暮らしの良さを知る・楽しむための方法を検討してください。住民主体の取組を大切にしながら、日野町に訪れた方と住民との交流により移住・定住に結びつくまちづくりを検討してください。 • また、SNSやアプリが乱立すると、発信する情報に濃淡が生じたり、受け手に混乱を招いたりする恐れがあります。組織を横断して、総合的・戦略的な検討を行い、住民の使用するSNSの多様化に対応してください。SNS等の情報発信に限らず、実施している施策の先にあるビジョンを描きながら取組を進めてください。 • まちの「だから」は住んでいるところ（地区）によって異なるため、まずは、それぞれ（地区）で考えてみるのが大切です。 • 日野の魅力である、日野ならではの取組・住民の長きにわたる取組を町民が知ること、まちを知ることによりよく暮らし、いく実感につながります。 • コロナ前に戻りたくないと思われるため、交流について抜本的に変えることも必要。人と人がつながる取組について、みんなで考えていくことが大切です。 • 住民主体の取組が住民自身でまちを守ることにつながるため、住民自身の関わる取組を大切にしたい。
-----------------------------	---

基本目標（4）	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる
家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活弁な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	

重要業績評価指標（KPI）									
指標名		基準値（R1）		R3	R4	R5	R6	目標値（R7）	
1	人と人（複数の地域コミュニティ）をつなぐ場の創出	20 か所	目標	22 か所	24 か所	26 か所	28 か所	30 か所	
			実績	21 か所	23 か所				
			達成率	95.5%	95.8%				
取り組みに関する基本的方向			○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。						
施策の検証結果状況			年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
				S	A	B	C	D	
			R3	0	7	8	0	0	15
			R4	0	9	6	0	0	15
			R5						0
			R6						0
	R7						0		

4. くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる

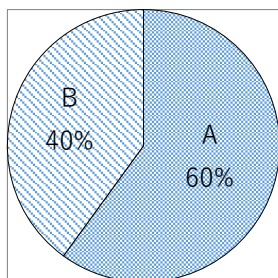


基本目標④「くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が9施策、60%となりました。
次いで、B（実施できている）が6施策、40%となりました。

基本目標に対するコメント （まとはめはP.77参照）	・住民の主体性を引き出す工夫や、ボランティアや生活支援コーディネーターに参加する人の裾野を広げるための工夫が必要です。 ・高齢者の主体性を引き出していくためにも、若い世代のうちから「自分達の課題を自分達で解決していく」という気風を育てる工夫をする必要があります。 ・地域における自治活動を基盤とした様々な取組が、高齢化によって弱体化している状況です。機械化等で効率化をすると同時に、様々な取組の質的な転換を行い、次世代を育てる・つなげることに注力をして下さい。 ・超過達成しているKPIの設定の見直しが必要です。
-------------------------------	--

No.	基本目標	めざす姿		検証結果						検証委員からのコメント
				目的を達成している S	優れている A	実施できている B	工夫が必要 C	改善が必要 D	合計	
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	R3	0	5	5	1	0	11	・社会情勢の変化にあわせた子育て施策の工夫が必要です。 ・子育て経験者の力を借りながら次の世代が育っていくような「助け合いのサイクル」をつくることを意識する必要があります。 ・情報発信の意識改善が必要です。 ・生涯学習事業の全体として、実施事業が人材育成やまちづくりにつながっていく道筋が見えるようにして下さい。
			R4	0	6	5	0	0	11	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	R3	0	4	3	1	0	8	・地域内経済循環の実態調査に着手して下さい。 ・実態調査の成果をもとに、住民自身が町内経済の活性化につながる消費行動を行うなど、地域内経済循環が起きるような工夫をして下さい。 ・コミュニティビジネスやサテライトオフィスを起点とした町の雇用創出につながる取組を促進して下さい。 ・基本目標の達成に向けて個別施策のレベルアップを図って下さい。
			R4	0	6	2	0	0	8	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付き、魅力あるまちをめざします。	R3	0	4	1	1	0	6	・住民が日野町での暮らしの良さを知る、楽しむための方法を検討してください。日野ならではの取組や住民の長きにわたる取組を町民が知ることでよりよく暮していく実感につながります。 ・住民主体の取組を大切にしながら、日野町に訪れた方と住民との交流により移住、定住に結びつくまちづくりを検討してください。 ・住民の使用するSNSの多様化に対応してください。
			R4	0	3	3	0	0	6	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	R3	0	7	8	0	0	15	・ボランティア等に参加する人の裾野を広げるための工夫が必要です。 ・若い世代のうちから「自分達の課題を自分達で解決していく」という気風を育てる工夫をする必要があります。 ・自治活動を基盤とした様々な取組が、高齢化によって弱体化している状況です。機械化等で効率化すると同時に、様々な取組の質的な転換を行い、次世代を育てる・つなげることに注力して下さい。
			R4	0	9	6	0	0	15	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
総 合 計			R3	0	20	17	3	0	40	
			R4	0	24	16	0	0	40	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	

全施策



総合戦略の全施策の検証結果では、A（優れている）が24施策、60%と最も多くなりました。次いで、B（実施できている）が16施策、40%となりました。

基本目標別の検証結果では、基本目標①「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」、基本目標②「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」、基本目標④「くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる」ではA（優れている）が最も多くなりました。

一方、③「まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる」では、A（優れている）およびB（実施できている）が同数となりました。

4. 施策検証結果一覧

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	1	安心して妊娠・出産・子育てができるための支援	・妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援を行うために、母子とのつながりを保とうと努力していることが良く判り評価します。 ・③（施策の今後の取組）によると、育児不安の強い妊産婦の相談できる知り合いをつくる取組を今後推進されるようですが、基本目標、基本的方向を踏まえ「子育てにやさしい風土づくり」「地域のつながりを深める」ことでも相談できる環境をつくって下さい。妊産婦とその家族のつながりに加え、子育ての先輩の人たちの力を借りられるとか、世代を少しずつつないでいくとか、経験者が支える側にまわるような仕組みを工夫して下さい。住民が自分たちの課題を他者と協力しながら解決する経験をすることは次の別の課題に地域で取り組む力になるでしょう。 ・③（施策の今後の取組）における「安心して妊娠期を過ごし、出産をしていただけるよう、引き続き妊婦健診の費用助成を行います」との表現ですが、「安心して」のためには①不安を解消することのできる相談相手がいること、②費用負担の心配がないことなどだと思います。費用助成は大切な仕事ですが、それ以外の非貨幣的な安心をつくることについて認識が弱そうにみえるので、表現も含めて工夫して下さい。支援を経済的支援としかせまく捉えているようにみえます。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）において「まさに愛着を持つ子どもを育てる」「ワークライフバランスの実現」を視野に入れて施策を再検討して下さい。 ・個別の支援の充実だけでなく、まちぐるみでの支え合いをつくる施策を検討して下さい。 ・基本目標①施策No.4との連携を検討して下さい。 ・日野町には「ほけっと」に限らず子育て支援ができる施設がいくつかあります。ただ、「1人で初めて来る」というのは勇気があると考えられるため、施設に来るきっかけづくりや取組が必要です。	R3	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				R4	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	2	様々な保育ニーズへの対応	・保育ニーズを提供するために施設を整備し、保育者を確保することが必要ですから基本的には適切な施策を進めていると評価します。R4は「あり方検討懇話会」を設置して、具体的な方向性について検討が進められる体制ができたことと評価します。しかしながら、保育施設による保育以外の「子育てにやさしい風土づくり」など基本目標、基本的方向に関わる部分への取組は大変弱いようにみえます。 ・懇話会の活動が充実することを支持しますが、④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）で内部検証の求められている内容を踏まえて内部検証を行うとともに、懇話会でも議論して下さい。内部検証を読むと保育ニーズへの量的充足に重点があり、保育内容の高度化、例えば「地域社会全体でまさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進める」に保育がどうからめるのかなどの検討も必要ではないでしょうか。「みんなで支えてかなえる」視点が弱いと思います。 ・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で「意見収集が出来ていない」と率直に認めています。子育て世帯の意見を集めて「あり方懇話会」での議論に反映させて下さい。子育て世代の声や意見を集めて、子育て世代の希望や願いを適確にとらえて下さい。そして、それを「みんなで支えてかなえる」ためには何が必要なのかを検討して下さい。 ・近年、全国的に保育ニーズが高まっています。なかには利用しなくても良いような状況の方もおられ、そうした方が「もう1年子どもと一緒にいようかな」となるためには、子育て施設や地域のつながり、子育て支援団体などが必要です。「子育ては皆で一緒にしていける」と思ってもらえるような工夫があれば、保育ニーズも少し減っていくのではないのでしょうか。 ・（公立の）保育の場において、それぞれの地域特性を活かし、特有の取組を進めていく観点も必要ではないでしょうか。	R3	9	2	3	2	3	19
				量S	質B				A	
				R4	8	3	3	2	3	19
				量A	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	3	コミュニティ・スクールの導入	・CSを2校実施できたことを高く評価します。R5には全小中学校でCSが開始されることに大いに期待します。 ・②③④⑤の内部検証がKPIの達成に引きずられた検証になっています。ボランティア登録がなされ、CSが実施できることが目的ではなく、まちづくりの手段であることを見失わないで下さい。基本目標①施策No.3が「切れ目のない支援」の中でも子ども自身が小中学生の頃、まちに守られ、育てられていると感じ「まちに愛着を持つ子ども」に育つことが期待されていると思います。④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）で内部検証ではCS実施とボランティアの確保にとどまっており、政策の構想力が貧弱です。 ・CSは手段であり、目的は基本目標①施策No.3の取組内容の前段「地域づくり・教育活動を実践」して、基本目標①を実現するのですから最終的に地帯を考えてボランティアを組織したり、「子育てにやさしい風土づくり」になるように施策の工夫が必要です。CS、地域学校協働活動についての行政側の理解度、その地域への落とし込み、埋め込みの見通しを持つ必要があります。 ・地域学校協働活動の取組内容を、児童たちが意思決定することも取り入れてはどうでしょうか。	R3	4	2	2	2	2	12
				量C	質C				C	
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
	4	子育て支援のネットワークづくり	・子育てボランティアの活躍する場が十分確保されていますか？②③（施策の取組状況、今後の取組）では「ボランティア募集の周知をすれば人は集まる」と想定しているようですが、ボランティアを掘り起こす工夫が必要です。ボランティアの募集周知だけでなく、ボランティアをしても良いと思える人を増やし、ボランティアのすそ野を広げることが大切です。 ・KPIに引きずられて内部検証が行われています。KPIにあらわれた数の達成が目的ではありません。基本目標①施策No.4の取組内容にある「地域の子育て支援のネットワークを構築」する姿がみえてきません。また、「ネットワーク」を作ることが目的ではなく、「ネットワーク」が地域における子育て支援機能を発揮して「切れ目のない支援を実現」することではないでしょうか。 ・昨年の外部検証を参考に施策を見直し、工夫して下さい。 ・基本目標①施策No.1、2、4の相互の連携も考えて施策を工夫して下さい。 ・「ファミリーサポートセンターの会員数が増えた」イコール「ネットワークづくりが増えた」というわけではなく、数字よりも内容が大切です。 ・最近では、ファミリーサポートセンターを通さずに、自主的にできるといったつながりが増えてきたと実感しています。 ・子育て経験者の力を借りながら、次の世代が育っていくような「助け合いのサイクル」をつくることを意識する必要があります。（例：ファミリーサポートセンターで、サポートされた側がサポートする側に変わっていくといったサイクルをつくっていくなど）	R3	9	2	2	2	2	17
				量S	質C				B	
				R4	9	3	2	2	2	18
				量S	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	5	地域ぐるみでの 子どもの居場所 づくり	・KPIに設定されている「子育てサポーター数」は10人が日野町に必要な数でしょうか？実現可能性より、日野町の必要数で設定すべきだと考えます。 ・基本目標①施策No.5は取組内容が4項目あるので、これに合わせて内部検証を行ってみたい下さい。「地域の教育力の向上」について行ったことが判るように記述して下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）で大学生・高校生の短期雇用を利用していると書いています。安定的運営のためでもあります。「地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりをすすめる」ためにもと位置づけ直すと、職務上の指示・指導も変わるのではないのでしょうか？④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）では「町への愛着と今後の正規支援員確保につなげる」と想定していることは高く評価します。正規支援員の待遇改善も検討して下さい。 ・「町内で働いている人が地域社会のなかにいる」ということが、町にとっての戦力だという意識を持たなければいけません。その意識に則って給与施策などを考えていく必要があります。	R3	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R4	10	3	3	3	2	21
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						
	6	青少年の社会参 画の促進	・KPIが達成できているのは良いのですが、KPIの達成と「青少年の社会参画」をどのように関連づけて考えているのかが不明です。 ・②③④（内部検証）がKPIに引きずられて、ミニスポーツとカルチャー教室のこと中心の検証になっています。このことは、昨年の外部検証でも指摘しています。昨年の外部検証を読んでから内部検証することをおすすめします。大変残念な検証です。ミニスポーツ教室、カルチャー教室から青少年の社会参画にどうつながるのかみえません。 ・基本目標①施策No.6は取組内容が2項目ありますが、②③（施策の取組状況、今後の取組）の検証からは何をしているのか全く判りません。 ・⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）における商工会青年部が中心となった実行委員会方式の取組に行政がどのような支援を行ったかが良かったのか教訓を示して検証して下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）は基本目標、基本的方向を踏まえて検証します。「青少年の社会参画の促進」の観点から基本的方向でクロス項目を定め、施策を検討して下さい。ボランティア、地域活動等の機会の提供と「まさに愛着を持つ子どもを育てる」ことをクロスさせ、基本目標①施策No.5とも関連づけて検討して下さい。 ・社会教育の範疇のなかで、社会参画をもう少し広く捉えようと、やるべきことの幅が広がるのではないのでしょうか。ボランティア活動や地域活動だけでなく、町民性を育むような教育を含めて工夫が必要です。	R3	9	2	2	1	1	15
				量S	質C				B	
				R4	9	2	2	2	3	18
				量S	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						
	7	社会教育の人材 育成と活躍の推 進	・KPIは71.7%とコロナ禍の影響がまだ続いているものと推測します。R5は、コロナも5類になり通常モードになっていくと考えられますが、ポストコロナの社会教育のあり方を検討して下さい。 ・②③（施策の取組状況、今後の取組）で基本目標①取組No.6のKPIにもなっているミニスポーツ、カルチャー教室のことも言及されています。基本目標①施策No.6、7、8などともうまく関連づけ、施策の工夫を行って下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証からは、基本目標、基本的方向と結びつけての検討に苦労しているように推察します。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）において「サークルとして活動できるようサポート」の部分は、②③（施策の取組状況、今後の取組）の領域でしょう。さらに②③（施策の取組状況、今後の取組）としても、人材育成で活躍の場づくりとつなげて下さい。 ・③（施策の今後の取組）において「読書ボランティアの活躍の場」について言及されており、具体的な場づくりとして評価しますが、④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）へ発展させる工夫が必要です。例えば、読書ボランティアの研修への支援を行うにしても「上手に朗読ができる」だけでなく、「読み聞かせの場」「絆支援事業での出番」を通じて、保護者や地域づくりにつなげる力量を養うなど工夫して下さい。「生涯にわたる学びと活躍の推進」することで「まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくり」につなげる工夫をしましょう。 ・日野スリリングクラブなどの、「学び側から人材育成をする立場に変わり、新たに学ぶ人につながる」という良いサイクルができています事例に着目し、様々な分野で拡げて下さい。	R3	6	3	3	3	3	18
				量B	質B				B	
				R4	7	3	3	2	3	18
				量A	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						
	8	子どもの読書活 動と学習活動の 支援	・内部検証がKPIに引きずられてない点は評価しますが、KPIの値の変化（低下していること、目標値に達していないこと）も検証して評価して下さい。 ・読み聞かせなどのボランティアの育成、スキルアップの必要性が認識され取組がすすめられていることを評価します。しかし、現状ではボランティア等に参加する人を増やすという課題を解決するために施策の工夫が必要です。 ・放課後図書館クラブ活動を開催し、図書館を拠点とした子ども同士のつながりづくりや子どもを主体とした活動がなされていることを高く評価します。放課後図書館クラブ活動の小中高生と読み聞かせボランティアの方々と交流する機会をつくるなど、図書館を拠点とした交流の輪をつくることも検討して下さい。 ・基本目標①施策No.8の具体的な取組は「子どもの読書活動と学習活動の支援」ですが、基本目標の取組の方向は「生涯にわたる学びと活躍の推進」です。子ども達が生涯学び続ける力を身につけることに加え、全ての世代において、人生のステージに応じた学びの支援拠点としての図書館を考えると、保護者向けの施策も必要になるでしょう。 ・読み聞かせボランティアの役割を子どもの読書への誘いに限定せず、保護者も含めた読書推進、まちづくりへの入口となるように施策を工夫して下さい。 ・貸出冊数の低下をいかに反転させ増やせるのか検討して下さい。	R3	6	3	3	3	3	18
				量B	質B				B	
				R4	4	3	3	3	3	16
				量C	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数	
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
					量的検証	質的検証				検証結果	
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	9	住民の主体的な文化芸術活動への支援	・基本目標①施策No.6、7、9で青少年カルチャー教室について言及されていますが、青少年の社会参画を促したり、社会教育の人材育成につながったりするには何が必要なのか、あわせて、住民の主体的な文化芸術活動を盛んにする起点にするにはどのような工夫が必要なのか総合的に検討して下さい。個別事業の中で閉じるのではなく、関連する領域に広がりを持たせて下さい。 ・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）にて、教室から1年でサークル化して活動の継続をしている点を高く評価します。サークル化したグループの学びが、若者（青少年）のカルチャー教室との接点を持ちたりするなど、若者（青少年）の社会参画の入口となる施策の工夫を行って下さい。 ・文化芸術活動や社会教育活動を住民が主体的に取り組むことを通じて、まちづくりの担い手としての力量を高める契機となるように施策の工夫を行って下さい。 ・「生涯にわたる学びと活躍の推進」を行うことが、基本目標①の施策No.7～11の取り組みの方向性となっています。文化祭に多くの町民と多世代の町民が参加することは、まちづくりのエネルギーとなるでしょう。しかし、その個々の学びの取り組みが、自らの学習欲求の充足に留まれば、社会づくりの契機ではなく、「個人化」の契機になりかねません。学習が個別化・個人化するのではなく、まちづくりの原動力となる工夫を行って下さい。	R3	8	3	3	3	3	20	
				量A	質B				A		
				R4	9	2	3	2	3	19	
				量S	質B				A		
				R5							
				R6							
				R7							
	10	ふるさと学習の充実	・KPIは、目標を超過して達成していることを高く評価します。次の総合戦略では、アウトプットの指標だけのKPI設定はやめ、アウトプットとアウトカムの両方を設定しましょう。 ・超過達成をしている現状から「ふるさと学習」の充実といえますが、その成果として「郷土意識・文化財保護意識の醸成」「文化の伝承と情報発信」にもつながるだろうかと内省して下さい。一方で、本内部検証が、KPIに引きずられた回数増のみに焦点をあてるような検証ではないことも評価します。 ・内部評価の文章から、様々な学習の機会を提供していることが判りました。しかし、少し気になるのが、受講者が学びの消費者（受け身の学び）になっていないだろうかという点です。住民の主体性を引き出す施策の工夫が必要です。 ・日野のたから大発掘ワークショップの開催を拡大しようとしている点は高く評価します。高く評価する理由は、アクティブ・ラーニングの要素があり、主体的で深い学びが期待できるからです。日野地元学づくりの基礎として、まちについて調べる力・考える力を養い、主体性を涵養する学びとなるように工夫して下さい。あわせて④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で「実施が困難」としている保護者世代も巻き込んで下さい。公民館・図書館も共同して取り組みと事業効果は高くなるでしょう。 ・保護者世代を巻き込むためには、仕事の時間外で、かつ時間が合うこと、内容が魅力的であることが条件となるため、発信の仕方にも工夫が必要です。 ・芸術や文化、スポーツのどの分野でも、指導者の人間としての魅力を通してまちがよくなっていくため、まずはどういった人を輩出していくか考えることが大切です。	R3	10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A		
				R4	10	3	3	2	3	21	
				量S	質B				A		
				R5							
				R6							
				R7							
	11	女性活躍の環境づくり		・地方創生交付金を活用して建物を整備した「ほけっと」は、日野町において女性の社会参画増進の重要な施設です。また、「ほけっと」に子育て親子が行きやすいように健診の後などに連携を強化して下さい。「ほけっと」で多くの親子がつながり、「ほけっと」を起点に子育てのネットワークの強化拡大や女性の復職者・新規就労者が増えるなど、波及効果が大きいと見込めます。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標・基本的方向を踏まえた内部検証を行っていることは評価します。多様なニーズをとらえ、切れ目のない支援を行うことは困難な仕事でもあります。公の役割、地域の役割、家族の役割をどう配分し、分担するのが日野の地方創生につながるのか検討して下さい。 ・近年は、働き方改革も進み育児休業で復帰先が決まっている方が多くいます。そうした社会情勢の変化から、セミナー参加者は限られた人しかいない状況です。時代のニーズにあわせたセミナーの開催や周知方法の検討が必要です。 ・「ほけっと」の利用者は、ハローワークの求人（フルタイム）とはマッチングしづらいため、短時間（パートタイム）の求人など、利用者の希望にあったものが閲覧できると良いのではないのでしょうか。	R3	9	3	3	3	3	21
					量S	質B				A	
					R4	8	3	3	3	3	20
					量A	質B				A	
					R5						
					R6						
					R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
(2) 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	1	農業経営・担い手育成への支援	・②③（施策の取組状況、今後の取組）で、「人・農地プラン」の作成をすることが重要であることは判りますが、プランを作ることが目的化しているようにみえます。昨年のコメントでも「作成するだけを目指とせず、プランが実行され、成果が出るようにフォロー・アップしてください」と述べました。プラン作成・実行によって、担い手の確保・育成の成果が出ているのか可視化して下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標、めざす姿、基本的方向を踏まえてなければなりません。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）の内容は②（施策の取組状況）に移しても良い内容も含まれています。④において、基本目標②のキーワード「地域資源」「住民主体の創業」「地域内経済循環の活性化」「雇用の創出」や基本的方向に示されている内容を踏まえて検証を行います。担い手を確保・育成することが、地域資源を活かし、創業につながる、雇用創出につながる道筋を検討してください。⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）で学校給食にオーガニック米の提供に取り組むことが地域内経済循環の活性化や創業、雇用の創出につながる経路を考えて下さい。	R3	10	2	2	2	3	19
				量S	質B				A	
				R4	10	3	2	2	2	19
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						
	2	農業生産・特産品の振興	・基本目標②施策No.2の取組内容には、日野菜、近江牛、近江米、北山茶等と4つの特産品が挙げられています。内部検証では、日野菜を中心に検証されていますが、他の特産品への支援など振興策を検証して下さい。 ・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）では、日野菜のことしか検証していません。 ・②④（内部検証）の取組状況の検証において、生産への支援はなされていることが判りますが、販路拡大の支援、地域ブランド化への取組が日野菜のGI登録以外にみえません。 ・⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）では、基本的方向を踏まえてJAとの連携をすすめ、生産拡大と販路拡大の両方を見据えているところを評価します。 ・KPIの「インショップ販売額」、「獣肉販売量」が特産品の振興にどう結びつくのか検証して下さい。 ・日野菜、近江牛、北山茶とそれぞれ特性が違います。日野菜は例えばスローフードであるとか、食に関する感性の高い人にどう訴えかけるのかが日野菜のブランド化の一つの戦略ではないでしょうか。 ・日野菜をイベントなどで町外に売りにいくと大変喜んでいただけますが、「どうやって栽培、料理するのか」を説明しなければなりません。「日野菜は自分で作って食べられるものである」と、もっと宣伝が必要です。	R3	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				R4	8	3	3	2	3	19
				量A	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						
	3	林業の振興	・森林環境譲与税を有効に活用して、林業の振興につなげて下さい。森林境界明確化事業が重要であり、林業振興のために必要なことであるのは認めますが、その先の林業振興のビジョンがみえません。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）は基本目標、基本方向を踏まえての検証ですが、②③（施策の取組状況、今後の取組）の繰り返しがあります。また、担当者が専門職でないことが、林業施策が政策的・実践的ではないことを認めています。そのような困難な状況の中でも何ができるのか？何が日野町に必要なのか調査・検討して下さい。 ・林業振興を生産側の施策が中心に組み立てられていますが、需要面での施策として何ができるのか調査・検討して下さい。 ・木質バイオマスや木質ペレットなど、生産から需要までをセット（一体）に考えて取組を進めて下さい。	R3	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				R4	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						
	4	地域内経済循環の推進	・基本目標②施策No.4は、基本目標②の中でも重要な取組です。内部検証はKPIに関わる施策だけが取り上げられているようにみえます。この点は、昨年の外部検証でも指摘していますが、他の施策への言及がないことから、他の施策は取り組めていないものと判断します。今後は、直接的にKPIに関わる施策以外のことも検討し、実施して下さい。 ・重要な取組なのに施策が貧弱です。 ・まず、地域内経済循環の実態調査に着手して下さい。地域内経済循環の実態を調査し、住民が購買行動をする際に町内への波及効果を考えながら購買行動できる情報的基礎も提供して下さい。ポイントによる誘導と情報に基づく行動とは、消費に至るプロセスが違います。住民が自分の利益だけを考えてインセンティブに反応して町内消費するのと、町内波及効果を考えると町内消費するのには、郷土愛の涵養など質的違いがあるはずで	R3	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				R4	10	2	2	2	1	17
				量S	質C				B	
				R5						
				R6						
				R7						
				R8						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量の検証	質の検証				検証結果
(2) 地域資源を活かし、 地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	5	創業・コミュニティ ビジネスへの 支援	・基本目標②施策No.5の取組内容「コミュニティビジネス等の創業者との交流会」がみえません。創業者のニーズ把握もできておらず、ニーズの把握がないので効果的施策がとれていないものと推察します。 ・創業・コミュニティビジネスへの支援を行い、雇用創出などにつながるような工夫が必要です。KPI「創業件数（累計）」でR4実績が累計20件とありますが、創業・コミュニティビジネスの累計20件が、地域経済への貢献度がどの程度なのか調査するなど、地域内経済循環の効果測定を行って下さい。 ・⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において、若者・女性の創業への支援を行うことの意義を検討して下さい。 ・小スペースでお店を出す方が最近増えています。昨年度の創業件数が4件がすごく高い数字だと考えます。増えている要因を探り、今後の取組につなげて下さい。 ・町外からの創業者などに「日野の良さ」等を聞き取りすると、それを吸収して町内の方にも伝えていけるのではないのでしょうか。創業者のニーズ把握等に努めて下さい。	R3	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R4	10	2	3	2	3	20
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	6	企業誘致の推進 と工場用地の確保	・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）における日野高校と地元企業の職業体験への支援、キャリア教育への補助が行ったことは高く評価します。 ・念頭にある企業誘致が工業団地に入る事業所のようなですが、工業団地以外に立地可能な企業がないのか調査・研究して下さい。 ・⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において「工業団地企業協議会との連携促進に努める」とのことですが、基本目標を実現するためにどのような工夫ができるのか検討して下さい。 ・企業は人材確保に非常に苦戦している。この地域を中心としたジョブフェアなどを実施して下さい。 ・町の姿勢として、「待ち」ではなく、「同じ方向に向かってやっていきましょう」という姿勢がないのは残念です。企業協議会などもあるので、ニーズを把握するためのアンケートをとるなどのアクションを起こすだけでも何か一つ取っ掛かりになるのではないのでしょうか。 ・国が作った制度などは、地域の求めるものと少しズレが生じる可能性があります。「国でこういった施策ができたかどうか」というやり方ではなく、企業や地域にとって必要なものをくみ取ることが大切です。	R3	10	2	2	3	2	19
				量S	質B				A	
				R4	10	3	2	3	3	21
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	7	新たな産業分野 の誘致と創出	・サテライトオフィスの設置ができたことは高く評価します。今後は、利用の利便性向上にとどまらず、地域内経済循環の活性化につながるなど、基本目標、基本的方向性を踏まえた施策を検討して下さい。 ・近江日野商人サミットを開催し、ゆかりのある企業とのつながりが持てたことを高く評価します。つながりを大切に育み、まちの力につなげるための工夫が必要です。 ・サテライトオフィスや近江日野商人サミットの今後の展開は行政のコーディネート次第のため、尽力いただきたいと思います。	R3	0	3	3	3	3	12
				量D	質B				C	
				R4	10	3	3	2	3	21
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	8	町内雇用の促進 と雇用機会の拡 充	・②③④（内部検証）が昨年とほぼ同じでした。町内雇用を促進するための施策の工夫を行って下さい。 ・日野高校生採用を促進すること、日野高校におけるキャリア形成教育などに関与していることを評価します。 ・②③（施策の取組状況、今後の取組）のハローワークなどの求人情報を役場1フロアおよび「ほけっと」に配架されていますが、役場以外の公共の場で積極的に配架できるように検討して下さい。 ・製造業の多い滋賀県特有の人手不足もあると推察します。一方で産業構造の転換（サービス経済化）による若者の就業希望先の変化など起きていないか実態把握をする必要があります。地元にある製造業への就職を若者が考えるようなキャリア観形成のためにキャリア教育などに工夫して下さい。 ・企業では、日野高校の生徒も毎年雇用しているが、なかなか人材確保ができず、町内雇用が少ない現状です。 ・町内の企業は技術力が高く、身近な生活に携わっている仕事が多いです。そういった内容を、就職を希望する若い世代に届くような動きが大切です。世の中の最先端技術を支えているという誇りを持って働けるよう町とタイアップを組んで企業雇用を促していきたいと思います。 ・若者が日野町に住んで日野で働こうと思えるよう、受け身ではなく能動的に取り組んでいただきたい。	R3	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R4	9	2	2	2	3	18
				量S	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
(3) まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	5	U・I・Jターン受入の充実	・KPI「定住に関する相談件数」が昨年より12件減っているのは少し気になります。このような時は分析しましょう。移住定住者も目標より超過達成していることは高く評価しますが、空き家不足のためか、移住者も鈍化しているかもしれません。動向をしっかりと分析して下さい。 ・②（施策の取組状況）で日野高校への出前講座を行い、空き家問題を若い人に知ってもらえる機会をつくったことを高く評価します。また、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において、外国人労働者が増加している現実を踏まえ、「誰もが住んで良かった」と思えるまちにしようと考えている点を高く評価します。 ・相談窓口にたどりつく人を増やすために、基本目標・基本的方向を踏まえた移住・定住につながる情報発信に努めて下さい。全体的に町外への発信に重点があるようにみえます。町外への発信そのものが、町内在住の住民の心に響くものとなり、愛着を高め、定住を促すように工夫して下さい。 ・所有者不明の家や住めないような家の処分・活用などを検討して下さい。（お試し居住等） ・住民が「増えること」に重きを置いて、思い切った施策が必要ではないでしょうか。 ・日野高校への出前講座など、空き家の問題や危険性を伝え「どう感じたか」というのも大切です。空き家を早く活用することで地域の財産になり、まちを良くすることにつながるという「まちの可能性」を見つかる場所まで結びつけることが大切です。	R3	10	3	2	2	2	19
				R3	量S	質B				A
				R4	7	4	3	3	4	21
				R4	量A	質A				A
				R5						
				R5						
				R6						
				R6						
	6	地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信	・KPI「日野め～る」の登録者数が214名減っています。電子メールによる情報提供は情報発信メディアの多様化の中でも重要な位置を占めていると思われます。メール登録者数を増やすための工夫をして下さい。行政懇談会や日野高校の出前講座の機会など役場が住民のもとに行った時には登録を呼びかけたりしてみてください。 ・住民の使用するSNSの多様化にも対応して下さい。 ・基本目標③施策No.6の取組内容は、町役場による情報収集と発信にとどまらず、町役場の発信した情報を住民がさらに発信することを想定していたり、SNSを通じて、住民・企業・行政の連携したタイムリーな発信まで考えているようですが、そうした住民側の動きまでは全くみえてこない内部検証です。 ・滋賀県の「SMOUT」を活用した情報発信に注力している点は評価しますが、住民・企業・行政との連携など広がりのある取組を検討し、実施して下さい。 ・移住施策等の情報発信は組織を横断した「横のつながり」が重要です。	R3	10	3	3	2	2	20
				R3	量S	質B				A
				R4	9	3	2	3	3	20
				R4	量S	質B				A
				R5						
				R5						
				R6						
				R6						
				R7						
				R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量の検証	質的検証				検証結果
(4)くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	5	支え合いの仕組みづくりの促進	・R4もコロナ禍の影響から実施できなかった企画・事業が多数あったものと推察します。ボランティアの方と障がいのある方との共同事業も実施できず、KPIが達成できなかったことはいたしかたないと思います。KPIの達成率が低かったこともいたしかたないと思います。 ・KPIの数値目標を達成することを直接的な取り組みによって、実現することも必要でしょうが、「丸ごと」支え合う地域づくりの取組全体から実現できるように視野を広くもち戦略的にすすめて下さい。 ・東桜谷、西大路、西桜谷における先駆的取組を町内全体に地域の特性に合致した形で広められるように様々な取組を工夫して下さい。 ・ひきこもりの実態調査の実施など、サポートの必要な方を適切に把握しようとしていることを評価します。町社協、生活支援コーディネーターの活躍に大いに期待するとともに、基本目標④施策No.1、2とも連携して、支え合いの風風を高め、支え合いに加わる住民の裾野を広げる取組を工夫して下さい。 ・「隠れた引きこもり対象者」発掘のためのインターネットのアンケート調査は、人権に配慮した形で実施して下さい。	R3	6	3	3	3	3	18
				量B	質B				B	
				R4	3	3	3	4	4	17
				量C	質A				B	
				R5						
				R6						
				R7						
	6	食育・地産地消の推進	・基本目標④施策No.6の取組は、生産側に働きかける供給側の施策（生産力の向上、品質向上につなげる施策）、消費者側に働きかける消費者としての住民側への施策（食育等により食習慣の改善に取り組むこと）とに分かれ、後者の消費者側の変化が、町内産を選ぶように需要増大につながらなければなりません。需要増大につながる道すじがみえにくいです。 ・地産地消で、町内産を購入することで地元への経済波及効果を可視化するなど知識から行動につなげるためにも必要な情報を提供して下さい。消費者側への施策は、情報提供などを行って行動変容を促す手法が多いので、一層の工夫が必要です。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）でできていないと認めている「生産者、販売者と消費者をつなぐ取組」は重要です。消費者に町外の方も入ってもらえると交流人口、関係人口の増につなげられますので、マルシェ企画などを住民主体で実施できるように努めて下さい。 ・「すべての世代が望ましい食習慣を実践する」ことは難しい取組でしょうが、食習慣の確立のためにあらゆる機会を上手に活用して下さい。 ・基本目標④施策No.7との連携を検討して下さい。 ・安定した地産地消を進めるため、庁内生産者やJAなどの関係機関と連携を図って下さい。	R3	10	3	3	3	3	22
				量S	質B				A	
				R4	10	3	3	3	3	22
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	7	心身の健康づくり	・基本目標④施策No.6、7を連携させる工夫をして下さい。食生活習慣の改善から心身の健康づくり、そして地域への愛着や誇りにつながるような取組を期待します。 ・特定健診受診率を引き上げる取組は、独自の意味も持つ重要な取組です。未受診者への健康状態の把握の取組も含めてあらゆる方法、効果的な方法を検討し、実施して下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証は、基本目標、基本的方向を踏まえて行います。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）の「実施できていないこと」で挙げている「健診未受診者」の件でも、住民の自主的な学びあい、自治活動を基盤にした取組の中で、健診の受診を促すなど施策の工夫を行って下さい。 ・未受診者へのアプローチは、隠れている「心身の健康」に関わる問題にダイレクトにアプローチできる切り口になります。本KPIは、他のKPIとちがって、この数値の抜本的向上が、様々な取組の効果を引き上げる突破口を提供する可能性があります。 ・昨年の検証でも指摘していますが、未受診者の要因調査をおこない、受診率を向上させるように工夫を行って下さい。	R3	8	2	2	2	2	16
				量A	質C				B	
				R4	9	3	3	2	2	19
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
	8	高齢者のいきがいくづくり	・基本目標④施策No.5とも連携しながら、「高齢者のいきがいくづくり」と「支え合いの仕組みづくり」が行われていることがわかりました。④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）で連携とその効果についても着目し、内部検証されても良いでしょう、重層的支援につながるよう工夫を行って下さい。 ・西大路地区での取組の成果から、他の地区でも実施できるように地道な取組を続けて下さい。 ・昨年の検証でも指摘しましたが、「高齢者のいきがいくづくり」の取組が、交流サロンなど交流の場に偏っているようにみられます。高齢者が受け身になります。高齢者を主体にした「豊かな経験や知識」を活かした取組がみえにくいです。つまり、高齢者の主体性を引き出す取組がみえてきません。 ・高齢者交流サロン開催団体数が増えませんでした。コロナ禍の影響もあり、難しい面もあったかと推察しますが、開催団体を増やしながらも、高齢者の主体性も引き出すようにその質的転換もはかって下さい。 ・基本目標④施策No.8の基本的方向や取組内容では「次代を担う人材づくり」や「高齢者の活躍できる場づくり」となっています。かなり難しい内容かとは思いますが、④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で「実施できていないこと」等が「特にありません」と内部検証されています。これは実施困難なことが無いのではなく、実施困難なことが思い浮かんでいないのではないのでしょうか。 ・地域のなかでも、地域活動に高齢者が自然と関われる機会をつくっているところもあります。そうした取組がない地域に高齢者が活躍できる場づくりを働きかけていくことが大切です。 ・既存の交流の場（交流サロンなど）を、補助金の事業対象に引き上げるための努力を行って下さい。	R3	5	3	3	2	2	15
				量B	質B				B	
				R4	5	3	3	3	3	17
				量B	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
(4)くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	9	健康づくりと介護予防の一体化	・昨年も指摘しましたが、「おたっしゅサポーター」を増やす取組を強化して下さい。基本目標④施策No.8の「高齢者のいきがいつくり」施策No.7「心身の健康づくり」とも関連のある取組です。連携を深め効果的な施策となるように工夫して下さい。おたっしゅサポーターの高年齢化対策にもつなげて下さい。 ・また、より若い世代に参画してもらえると基本目標④施策No.1の「次代の担い手育成」につながると考えられます。④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の検証で、基本目標・方向性を踏まえた検証をする際には、そのようなことなどを検証して欲しいのです。高齢者の健康づくりだけでなく、基本目標④施策No.9を実現するためにも「次代の担い手育成」が必要であるとの認識のもとで参画する裾野を広げる取組を行って下さい。 ・「おたっしゅサポーター」になることが、高齢者のための活動にとどまらず、自身の健康維持につながることをもっとPRしてはどうでしょうか。 ・「おたっしゅサポーター」の研修のなかに、「健康のための研修」だけでなく、「支え合いの地域づくりのための気風づくり」のレクチャーも入れてはどうでしょうか。レクチャーでは、パンフレットに書かれているような標準的な内容ではなく、日野町のローカルな活動を紹介し、「具体的にこんな活動があります」と行動変容につなげるように工夫すると良いでしょう。健康維持だけでなく、地域で支え合うことの理解や元気づけに地域のためにできることをしようという気風が出るような取組が大切です。	R3	10	3	2	2	2	19
				量S	質B				A	
				R4	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	10	障がい者の支援体制の充実	・KPIが超過達成されていることを高く評価します。計画的に整備が進み障がいのある方の生活の場が確保されたことを高く評価します。 ・今後は、一人暮らしの実現や地域全体で支え合えるように次の段階に進むことを期待します。 ・②③（施策の取組状況、今後の取組）では、取組内容に即して評価を行って下さい。拠点整備の現状と今後の取組を「見える化」して下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標④施策No.5「支え合いの仕組みづくり」とも関連づけ、基本目標・方向性を踏まえて検討を行って下さい。 ・社会全体で障がいのある方の理解を促進するために、基本的方向の「顔の見えるつながりの中で、『困りごとを出し合い、支え合う』など、地域のコミュニティ活動を支援します」や「自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取組により、安心・安全なまちづくりを推進します」と結びつけて取り組む必要があります。	R3	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				R4	10	2	2	3	3	20
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	11	住民のくらしを支える知識・情報の提供	・在住外国人の方も含め、住民が必要とする情報が入手できるように多様な資料の収集が行われていること、多言語資料の充実にも努めていることを高く評価します。そうした資料が十分に活用されるように多言語の広報を行うなど大いに活用されるように努めて下さい。 ・図書館利用が増えるように、基本目標・基本的方向を踏まえて、自治活動を基盤とした人材育成、食育、まちづくり等にとって必要な情報を得られるようにサービスの充実を図って下さい。 ・図書館を利用する機会が増えるように、他部署とも連携した取組が必要です。	R3	8	3	3	3	3	20
				量A	質B				A	
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	12	ごみの減量化の実現	・啓発と補助金によって、ごみ減量化を進めるだけではなく、住民の主体的な行動変容による減量化がすすむように施策を工夫して下さい。 ・ごみの減量化の取組が進んでいることを高く評価します。ごみ減量化のためにも生ゴミの堆肥化や3Rの推進、分別回収の推進、廃食油の回収も必要とされるのかと思います。そうした取組は、個々人の取組に大いに依存するわけですが、基本目標④施策No.12取組の方向にある「人と豊かな自然との共生」のためには、地域の絆や自治会活動の展開の中で実現するものでもあります。④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証は基本目標、方向性を踏まえて深める検証を行って下さい。 ・住民の意識の向上のための啓発活動をしていますが、3R、減量化、生ゴミ堆肥化、分別回収など様々な取組の環境への効果も可視化して、住民の単なる知識としてだけでなく、行動変容につながる情報提供など、学びによる行動変容をみずえた取組を行って下さい。 ・住民自らが日野町のごみ問題を発見、解決のために行動する、そういった取組を検討して下さい。 ・ごみの回収量の実態を分析して、地域に情報を返すことで、現状に合った対応を一緒に考えることが大切です。	R3	9	3	2	2	2	18
				量S	質B				B	
				R4	9	3	3	2	2	19
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				検証結果
(4)くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	13	環境保全の推進	・作業への参加者の高齢化が大きな問題のようですが、それへの対応が十分になされているようにはみえません。環境学習の推進が参加者の若がり、若い世代の参加の増につながるよう工夫して下さい。 ・基本目標④施策No.13「環境保全の推進」は幅広い内容があるはずですが、②、③（施策の取組状況、今後の取組）の内部検証では、KPIにあらわれる取組に関わる部分しかみてきませんでした。KPIには関わらない部分の環境保全の取組についても内部検証して下さい。 ・環境学習の推進、環境保全の啓発は、基本目標④のめざす姿の実現に資するように、住民が主体的に考え行動するようになるプログラムになるよう工夫して下さい。 ・除草活動の機械化によって、省略化された河川愛護事業の余った労力を地域の別の活動に生かす工夫の提案を行うことで、共同体意識の醸成や地域力の向上を図って下さい。 ・清掃活動に社会貢献として企業から参加される方は大事な関係人口であり、さらなる関係性づくりを行って下さい。 ・次代を担う人材づくりを進めるため、地域の環境保全の取組から、様々な課や団体と協力して次代につないでいく工夫して下さい。	R3	9	2	3	2	2	18
				量S	質B				B	
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
	14	交通安全対策と防犯体制の推進	・基本目標④施策No.14の取組は、シルバーキャラバン隊の活動に象徴されるように、高齢者に依存する構造によっており、高齢化がすみ、従来のやり方では困難に直面しているように見受けられます。③（施策の今後の取組）において「若い世代にも活動に参画いただけるよう取組を進めます」としていますが、これを実現しなければなりません。④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の検証は、「若い世代の参画」を実現するための検証となり、基本目標と方向性を踏まえたものになると考えられます。 ・交通安全や自主防犯団体の活動に若い世代の参画を進めるための具体的な手立てを考える必要があります。 ・シルバーキャラバン隊の活動は、高齢者が同世代に啓発することに意義があるものであり、老人会に入らない人への意識づけも大切です。	R3	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				R5						
				R6						
				R7						
	15	地域防災力の向上	・②、③（施策の取組状況、今後の取組）では、体制づくり、啓発活動について言及されており、「地域防災力の向上」に向けた取組がなされていることが分かります。KPIも体制の整備を図るので、基本目標④施策No.15の取組内容の2つ目の「住民の防災意識の高揚を図ります」については、啓発活動を行っているの、向上ができていないとみなすしかありません。住民の主体的な活動としてどんなことが行われているのかなども検証して下さい。また、住民側の意識の変化につながるような取組を検討して下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証は、基本目標、基本的方向を踏まえて、住民自らが、日野町の防災上の課題を発見、解決のために行動する、そういう取組を検討して検証を行って下さい。 ・消防団の団員数が定数確保できているのは、団結力の賜物である一方、消防団活動は日常生活の負担となり、まちを離れてしまう人がいる現実があります。”郷土を守る”意識を持った人づくりが大切です。	R3	9	3	3	2	2	19
				量S	質B				A	
				R4	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				R5						
				R6						
				R7						

5. 施策別検証内容（施策検証シート）

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	安心して妊娠・出産・子育てができるための支援	担当部署	福祉保健課			
内容	・地域や関係機関との連携により、妊娠・出産・子育て期を通じた切れ目のない支援体制を構築し、母子健康手帳の交付を初めの機会として、健診等の様々な機会を通して個々の親子の状況に応じたきめ細やかな支援に取り組みます。							

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	母子手帳交付時の面談実施率									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R2】	100 %														
目標値【R7】	100 %														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	100	100	100.0%												
令和4年度	100 %	100 %	100.0%									A	●妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援を行うために、母子とのつながりを保とうと努力していることが良く判り評価します。 ●③（施策の今後の取組）によると、育児不安の強い妊産婦の相談できる知り合いをつくる取組を今後推進されるようですが、基本目標、基本的方向を踏まえ「子育てにやさしい風土づくり」「地域のつながりを深める」ことで相談できる環境をつくって下さい。妊産婦とその家族のつながりに加え、子育ての先輩の人たちの力を借りられるとか、世代を少しずつつないでいくとか、経験者が支える側になれるような仕組みを工夫して下さい。住民が自分たちの課題を他者と協力しながら解決する経験をするとは次の別の課題に地域で取り組む力になるでしょう。 ●③（施策の今後の取組）における「安心して妊婦期を過ごし、出産をしていただけるよう、引き続き妊婦健診の費用助成を行います」との表現ですが、「安心して」のためには①不安を解消することのできる相談相手がいること、②費用負担の心配がないことなどであると思います。費用助成は大切な仕事ですが、それ以外の非費用的な安心をつくることについて認識が弱そうにみえるので、表現もきめて工夫して下さい。支援を経済的支援としがけさせていけるようにつなげて下さい。 ●④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）において「まちに愛着を持つ子どもを育てる」「ワークライフバランスの実現」を視野に入れて施策を再検討して下さい。 ●個別の支援の充実だけでなく、まちぐるみでの支え合いをつくる施策を検討して下さい。 ●基本目標①施策№4との連携を検討して下さい。 ●日野野には「ほけっ」とに限らず子育て支援ができる施設がいくつかあります。ただ、「1人で初めて来る」というのは勇気がいると考えられるため、施設に来るきっかけづくりや取組が必要です。		
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	100.0%				
目標値【R5】	100 %														
目標値【R6】	100 %														
目標値【R7】	100 %														

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組み№	2	具体的な取り組み	様々な保育ニーズへの対応	担当部署	子ども支援課				
内容	・保育が必要なすべての子どもに対し、保育サービスが提供できるように取り組みます。								

数量的検証										質的検証								
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証				
指標名	孤立しない子育てサポートの充実 （保育園、幼稚園、認定子ども園、 子育て支援施設等利用率）			保育所等待機児童数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント					
基準値【R1】	82 %			1 件														
目標値【R7】	85 %			0 件														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率									
令和3年度	82	76	92.7%	5	3	100.0%												
令和4年度	82 %	76 %	92.7%	5 件	6 件	83.3%				施策②	②	③	A	・保育ニーズを提供するために施設を整備し、保育者を確保することが必要ですから基本的には適切な施策を進めたいと評価をします。R4は「あり方検討懇話会」を設置して、具体的な方向性について検討が進められる体制ができたと評価します。しかしながら、保育施設による保育以外の「子育てにやさしい風土づくり」など基本目標、基本的方向に関わる部分への取組は大変弱いようにみえます。 ・懇話会の活動が充実することを支持しますが、④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）で内部検証の求められている内容を踏まえて内部検証を行うとともに、懇話会でも議論して下さい。内部検証を踏むと保育ニーズへの量的充足に重点があり、保育内容の高度化、例えば「地域社会全体でまさに愛を待つ子どもを育てるまちづくりを進める」に保育がどうかめるのかなどの検討も必要ではないでしょうか。「みんなであえてかなえる」視点が弱いと思います。				
															基本目標 基本的方向を 踏まえての 状況④	④	⑤	・安定的な保育の提供を行えるよう、R4年度も早期に正規保育士等の採用試験を行い保育者の確保に努めました。 ・幼児教育・保育のあり方の協議を進めるため、担当課や関連する他課、各施設長等による検討懇話会を立ち上げました。 ・多様な保育ニーズに対応するため、幼児教育・保育の在り方検討懇話会において、保育検討会の開催、保育者アンケートの実施により会計年度任用職員の処遇改善を図りました。また保育ICTシステムの導入も実施しました。 ●実施していること ・幼児教育・保育のあり方検討懇話会を設置しました。これからの町の幼児教育保育の在り方等について具体的な方向性等を検討してまいります。 ・他の自治体の保育施設等を見学し、日野町がめざすべき幼児教育・保育施設の規模・体制等を確認しました。 ・地域の子育て支援機能を更に向上させるため、関係団体とのネットワークづくりを推進してまいります。 ●実施できていないこと ・子育て世帯やこれからの子育て世帯への委員の公募、意見収集ができていません。 ●実施が困難なこと ・特にありません。
目標値【R5】	83 %			3 件														
目標値【R6】	84 %			1 件														
目標値【R7】	85 %			0 件														

・安定的な保育の提供を行えるよう、R4年度も早期に正規保育士等の採用試験を行い保育者の確保に努めました。

・幼児教育・保育のあり方の協議を進めるため、担当課や関連する他課、各施設長等による検討懇話会を立ち上げました。

・多様な保育ニーズに対応するため、幼児教育・保育の在り方検討懇話会において、保育検討会の開催、保育者アンケートの実施により会計年度任用職員の処遇改善を図りました。また保育ICTシステムの導入も実施しました。

・安定的な保育の提供を行えるよう、今後も正規保育者の確保と併せて、会計年度任用職員（フルタイム）の確保に努めます。

・各施設の改修、修繕等を行う場合は、個別施設計画に基づき実施しますが、大規模な整備、改修については、「幼児教育・保育のあり方検討懇話会」の取組状況と併せ実施します。

・「幼児教育・保育のあり方検討懇話会」において、最適な幼児教育保育環境について方向性を更に協議・検討し、将来像の策定および整備計画の策定に取り組みます。

●実施していること

- ・幼児教育・保育のあり方検討懇話会を設置しました。これからの町の幼児教育保育の在り方等について具体的な方向性等を検討してまいります。
- ・他の自治体の保育施設等を見学し、日野町がめざすべき幼児教育・保育施設の規模・体制等を確認しました。
- ・地域の子育て支援機能を更に向上させるため、関係団体とのネットワークづくりを推進してまいります。

●実施できていないこと

- ・子育て世帯やこれからの子育て世帯への委員の公募、意見収集ができていません。

●実施が困難なこと

- ・特にありません。

●基本目標、基本的方向を踏まえて

- ・「幼児教育・保育のあり方検討懇話会」にて町における持続可能な子育て環境の在り方を検討し、将来に向けて地域の実情に応じた幼児教育保育の整備計画を策定するため、懇話会の活動の充実を図ります。
- ・様々な保育ニーズへ対応できるよう、子育て支援ネットワークの深化を図ります。

●今後の課題

- ・子育て環境全体の課題を多くの住民と共有し、近隣市町の事例調査を行い、町のめざす持続可能な施設整備計画および人材の育成・確保が必要です。

・保育ニーズを提供するために施設を整備し、保育者を確保することが必要です。基本的には適切な施策を進めていると評価します。R4は「あり方検討懇話会」を設置して、具体的な方向性について検討が進められる体制ができたことと評価します。しかしながら、保育施設による保育以外の「子育てにやさしい風土づくり」など基本目標、基本的方向に関わる部分への取組は大変難しいようにみえます。

・懇話会の活動が充実することを支持しますが、④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）で内部検証の求められている内容を踏まえて内部検証を行うとともに、懇話会でも議論して下さい。内部検証は保育ニーズへの量的充足に重点があり、保育内容の高度化、例えば「地域社会全体でまさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進める」に保育がどうかめるのかなどの検討も必要ではないでしょうか。「みんなで支えてかなえる」視点が弱いと思います。

④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で「意見収集が出来ていない」と率直に認めています。子育て世帯の意見を集めて「あり方検討会」での議論に反映させて下さい。子育て世帯の声や意見を集めて、子育て世代の希望や願いを正確にとらえて下さい。そして、それを「みんなで支えてかなえる」ためには何が必要なのかを検討して下さい。

・近年、全国的に保育ニーズが高まっています。なかには利用しなくても良いような状況の方もおられ、そうした方が「もう1年子どもと一緒にいようかな」となるなかには、子育て施設や地域のつながり、子育て支援団体などが重要です。「子育ては皆で一緒にしていける」と思ってもらえるような工夫があれば、保育ニーズも少し減っていくのではないのでしょうか。

・（公立）保育の場において、それぞれの地域特性を活かし、特有の取組を進めていく観点も必要ではないでしょうか。

32

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	コミュニティ・スクールの導入	担当部署	生涯学習課	学校教育課			
内容	・地域と学校が共有したビジョンのもとで、地域づくり・教育活動を実践していくため、コミュニティ・スクールの導入を推進します。								

令和4年度	310人	330人	100.0%	3校	2校	66.7%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
-------	------	------	--------	----	----	-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	子育て支援のネットワークづくり	担当部署	子ども支援課				
内容	・住民、関係団体等の相互の連携による地域の子育て支援のネットワークを構築し、地域における子育て支援機能の向上に取り組みます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	ファミリーサポートセンター会員数			子育てボランティア登録者数						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R1】	272 人			24 人											
目標値【R7】	290 人			25 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	270	251	93.0%	24	24	100.0%									
令和4年度	270 人	266 人	98.5%	24 人	24 人	100.0%				②	●ファミリーサポートセンター事業を委託する一般社団法人において、広報誌やSNSによる会員への呼びかけ、タウンメールにて利用拡大と事業周知のための広報を行っていただきました。 ●子育て支援施設でのつどいのひろば「ほけっと」事業や各公民館で実施されている子育てサロンにてお手伝いいただく子育てボランティア登録者の増員を図るため、広報、HP、チラシ等により周知しました。 ●町社会福祉協議会、少年センター、子ども食堂実施機関、ファミリーサポートセンターと連携し、「子育て応援フードドライブ＋α」を開催し、地域において安心して子育てできる環境づくりに取り組みました。	③	●ファミリーサポートセンターの会員は、子育て世帯が多いことから、引き続きSNS等を用いて登録者数の増加につながるよう周知します。 ●これまでの取組により、子育てボランティアの登録者数が増えてきましたが、引き続き町の子育て支援、登録者の高齢化などのため、様々な周知方法にて新たな登録者確保に取り組みます。 ●「子育て応援フードドライブ＋α」を多くの支援機関と一緒に開催し、子育て支援の更なる充実を図ります。	B	●子育てボランティアの活躍する場が十分確保されていますか？②③（施策の取組状況、今後の取組）では「ボランティア募集の周知をすれば人は集まる」と想定しているようですが、ボランティアを掘り起こす工夫が必要です。ボランティアの募集周知だけでなく、ボランティアをしても良いと思える人を増やし、ボランティアのすそ野を広げることが大切です。 ●KPIに引きずられて内部検証が行われていません。KPIにあらわれた数の達成が目的ではありません。基本目標①施策No.4の取組内容にある「地域の子育て支援のネットワークを構築」する姿がみえてきません。また、「ネットワーク」を作ることが目的ではなく、「ネットワーク」が地域における子育て支援機能を発揮して「切れ目のない支援を実現」することではないでしょうか。 ●昨年の外部検証を参考に施策を見直し、工夫して下さい。 ●基本目標①施策No.1、2、4の相互の連携も考えて施策を工夫して下さい。 ●「ファミリーサポートセンターの会員数が増えた」イコール「ネットワークづくりが増えた」というわけではなく、数字よりも内容が大切です。 ●最近では、ファミリーサポートセンターを過ぎずに、自主的にできるというつながりが増えてきたと実感しています。 ●子育て経験者の力を借りながら、次の世代が育っていくような「助け合いのサイクル」をつくることを意識する必要があります。（例：ファミリーサポートセンターで、サポートされた側がサポートする側に変わっていくといったサイクルをつくっていくなど）
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	99.3%	④	●実施していること ●妊娠から子育てまで切れ目のない支援を行うため、子育てを協力いただける方の増員を行うことができました。 ●子育てボランティア講座を行い、地域で子育てを行うことの必要性、子どもとの関わりの習得など行うことができました。 ●実施できていないこと・実施が困難なこと ●様々な活動の場で協力いただける方を呼び掛けていますが、会員登録に至らないことが多いです。社会全体で地域への関わりが希薄になっていると感じます。	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ●協力いただけるファミリーサポートセンターの会員や子育てボランティアの登録者数を増やし、子育ての希望をみんなで支えてかなえるため、広報紙を中心に世代に応じた周知（SNS、DM、組回覧、健康推進委員を通じたチラシ配布）に取り組みます。 ●今後の課題 ●子育てボランティアの高齢化や、登録いただいているが、事情等により活動に参加できていない状況もあります。子育てボランティアの若返りと、事業に参加し易い取組について検討が必要です。		
目標値【R5】	270 人			24 人											
目標値【R6】	280 人			25 人											
目標値【R7】	290 人			25 人											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№。	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組み№。	5	具体的な取り組み	地域ぐるみでの子どもの居場所づくり	担当部署	子ども支援課	生涯学習課			
内容	- すべての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動が行えるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を計画的に実施し、児童健全育成事業に取り組みます。 - 地域全体で子どもの成長を支えるため、地域人材の繋がりを促進し地域の教育力の向上を図ります。 - 公民館行事等での多世代交流の推進に取り組みます。 - 第2期日野町子ども・子育て支援事業計画に基づき、今後も需要が見込まれる各種子ども・子育て支援事業について、更なる事業拡充に取り組みます。								

数量的検証										質的検証						
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証		
指標名	放課後児童クラブ入所人数			子育てサポーター数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント			
基準値【R1】	369 人			9 人												
目標値【R7】	500 人			10 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率							
令和3年度	400	406	100.0%	10	10	100.0%										
令和4年度	400 人	430 人	100.0%	10 人	10 人	100.0%				②	●コロナ感染症対策を行った上で、放課後児童クラブ事業を実施し、クラスター等大きな混乱なく対応することができました。 ●放課後児童クラブの利用者が増加していることから、放課後児童クラブの増設（工事）について協議を行いました。 ●地域の拠点である公民館を中心として、地域団体やサークル、ボランティア等が連携し、子育て支援の場を提供しています。 ●地域における子どもの活動の場として、小中学校の体育館等を開放しています。 ●スポーツや文化を通して子ども同士の交流を促るため、地域の各種団体によるスポーツ活動、文化活動への支援や指導者の育成・確保に努めています。 ●子どもの自主性と主体性を尊重した活動を推進するため、子ども会活動や中心として各地域における活動の活性化に努めています。 ●地域社会全体で子育てに臨んでいくため、子育て家庭に対する身近な相談者・支援者となる「子育てサポーター」を養成しています。 ●「子育てサポーター」の協力により「親子ふれきて」を開催し、子どもの居場所づくりと保護者に対する家庭教育支援に努めています。 ●青少年の健全な育成を目的として、学校、地域、PTA、関係機関、各種団体が連携を図っています。	③	●放課後児童クラブの安定的な運営を行うため、引き続き支援員の確保に取り組む。 ●放課後児童クラブの利用者が増加しているため、日野町子ども・子育て支援事業計画の施設数や利用見込者の見直しを行います。併せて、利用者の確保を行えるよう、新たに施設の増設を実施します。 ●近年の急速な少子高齢社会の進展に伴い、地域社会や家庭を取り巻く環境が大きく変化する中において、「日野町子ども・子育て支援事業計画」の見直しに取り組む、市内関係課が連携して子育て支援・家庭支援に取り組んでいます。 ●子育ての幅が広がり、子育てに夢と希望ももてるよう、「幼児教育・保育のあり方懇話会」の取組において地域住民と各地域、各種関係団体・機関および事業者が連携した取組を進めています。 ●子育てサークルや他の子育て事業との連携を図り「親子ふれきて」にとどまらず、子育てサポーターの活躍の場を広げていきます。 ●社会問題となっている子どもの居場所づくりや仕事と家庭の両立などに向けて支援できる仕組みをつくり、安心して子どもを産み育てることができるよう取組を進めます。 ●青少年健全育成に契機して、より効果的な事業が展開できるよう、青少年育成町民会議の活動内容・方法の充実を図ります。	A	●KPIに設定されている「子育てサポーター数」は10人が日野町に必要な数でしょうか？実現可能性より、日野町の必要数で設定すべきだと考えます。 ●基本目標①施策№5は取組内容が4項目あるので、これに合わせて内部検証を行ってみて下さい。「地域の教育力の向上」について行ったことが判るように入記して下さい。 ●④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で大学生・高校生の短期雇用を利用している」と書いています。安定的運営のためでもあります。が、「地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりをすすめる」ためにもと位置づけ直す」と、服務上の指示・指導も変わるのではないのでしょうか？④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）では「町への愛着と今後の正規支援員確保につなげる」と想定していることは高く評価します。正規支援員の待遇改善も検討して下さい。 ●「町内で働いている人が地域社会のなかにいる」ということが、町にとっての戦力だという意識を持たなければいけません。その意識に則って給与施策などを考えていく必要があります。	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	100.0%	④	●実施していること ●コロナ禍において施設を運営するため、引き続き感染症対策の徹底や施設利用の自粛を求めました。自粛の際は保育料の返金を行いました。 ●児童の年齢に近い学生の短期雇用に取り組み、支援員の確保を行いました。また、学童保育所の卒園生を短期雇用することで町への愛着と今後の正規支援員確保につなげることができました。 ●青少年育成町民会議における「ラジオ体操」事業を通して、異年齢間の交流を深めるとともに、「あいさつ」を交わしながら顔が見えて互いが信頼できる地域づくりに努めました。 ●実施できていないこと ●地域全体で子育て支援意識を醸成し、世代間交流等を図ることにより、社会全体として子育てに対する理解・支援を図る必要があります。 ●地域における子育て支援・家庭教育の人材発掘・育成を図る必要があります。 ●実施が困難なこと ●特にありません。	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ●支援員の確保を行うため、大学生や高校生の短期雇用を利用し、安定的な運営が実現できるよう取り組みます。 ●日野町子育て支援チーム会議により、関係各課の子育て施策や事業の横断的連携を図るとともに、事業実施にあたっては相互に協力体制を構築します。 ●今後の課題 ●利用者の増加が見込まれる中、施設の増設等が必要で。 ●施設の老朽化が進む中、安全安心な施設管理に努める必要があり。 ●地域の高齢者や子育ての経験者などの様々な知識や経験を子育てに活かすことができるよう、地区社会福祉協議会等と連携を図り、地域における子育て支援活動の機会充実に努めます。 ●身近な地域で乳幼児とふれあう機会をもち、将来子どもを産み育てたいという意識を醸成できるよう、小学生から中学生までの幅広い年代の子どもを対象として夏休みや休日を活用して子育てイベント等への参加を促します。 ●保護者に対する各種の学習会の開催にあたっては、保護者が多く集まる機会を利用し、積極的に学習機会の提供に努めるとともに、保護者が関心をもてるように内容の見直し・充実を図ります。
目標値【R5】	500 人			11 人												
目標値【R6】	500 人			11 人												
目標値【R7】	500 人			12 人												

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	青少年の社会参画の促進	担当部署	生涯学習課				
内容	・青少年がボランティア活動や地域活動等に積極的に参加・体験できるよう活動の場や機会の提供に努めます。 ・青年団をはじめとする青少年が活動しやすい環境づくりや人材育成に向けた支援に努めます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	ミニスポーツ教室参加者数			カルチャー教室参加者数						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R1】	353 人			172 人											
目標値【R7】	350 人			170 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	350	314	89.7%	170	174	100.0%									
令和4年度	350人	329人	94.0%	170人	161人	94.7%				施策②	・野球、サッカーを含む10競技のミニスポーツ教室を開催しました。 ・子ども達が様々なスポーツを体験できる機会を提供し、スポーツに親しむ子ども達を増やすことを目的に日野町少年少女ミニスポーツ教室体験会を開催しました。 ・文化協会と協力して、いけばな、お琴を含む11教室のカルチャー教室を開催しました。 ・カルチャー教室で1年間頑張って活動した子ども達の成果を発表する発表会を開催しました。	③	・ミニスポーツ教室体験会を開催したこと、多くの子ども達がスポーツに興味を持ち、次年度のスポーツ教室に入会する子どもが増えたことから、体験会の質の向上を図ります。 ・カルチャー教室についても、多くの文化芸術活動に触れてもらう観点から、体験会の開催に向けて文化協会と調整を図ります。 ・スポーツや文化を通じて子ども同士の交流を促進するため、地域の各種団体によるスポーツ活動、文化活動への支援や指導者の確保・育成に努め、活動の充実を図ります。	B	・KPIが達成できているのは良いのですが、KPIの達成と「青少年の社会参画」をどのように関連づけて考えているのかが不明です。 ・②③④（内部検証）がKPIに引きずられて、ミニスポーツとカルチャー教室のこの中心の検証になっています。このことは、昨年の外部検証でも指摘しています。昨年の外部検証を読んでから内部検証することをおすすめします。大変残念な検証です。ミニスポーツ教室、カルチャー教室から青少年の社会参画にどうつながるのかみえません。 ・基本目標①施策No.6は取組内容が2項目ありますが、②③（施策の取組状況、今後の取組）の検証からは何をしているのか全く判りません。
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】			①	94.4%											
目標値【R5】	350 人			170 人											
目標値【R6】	350 人			170 人											
目標値【R7】	350 人			170 人											

B

①

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組み№	7	具体的な取り組み	社会教育の人材育成と活躍の推進	担当部署	生涯学習課				
内容	・社会教育団体が活性化するように支援するとともに新たな人材の発掘や育成に努めます。 ・学習機会と活躍の場づくりの充実を図ります。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証			
指標名	公民館利用者数									取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント		
基準値【R1】	86,695 人																
目標値【R7】	88,000 人																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	87,130	58,335	67.0%														
令和4年度	87,348 人	62,617 人	71.7%							②	・公民館の各種セミナーや講座を通して、様々な学習の機会の充実を図りました。 ・女性会、青年団等の社会教育団体へ補助金を交付し、活動を支援しました。 ・提案型活動事業補助金を交付し、公民館を起点に地域の課題解決を進め、多世代交流ができる新たな事業ができるよう図りました。（4地域6事業：日野地区多世代交流事業・おつけいふえす・さくらぼうさい428・コミュニティの輪「一股堂」・みんな集まれに西桜谷キッズフェス・西大路すまいるあくしょん2022） ・ミニスポーツ教室、カルチャー教室を実施し、子ども達に様々な経験の場を提供するとともに、指導者としてその経験を教えられる場を提供しています。	③	・各団体との連携を深めながら、活動を支援していきます。 ・人材育成の視点で学習の機会を提供します。また、学んだことを地域で活かすことができるよう、活躍の場づくりに努めます。 ・ミニスポーツ教室、カルチャー教室を実施し、子ども達に様々な経験の場を提供するとともに、指導者としてその経験を教えられる場を提供し、教えられた子ども達が指導者として再びかわれるよう継続していきます。 ・図書館、学校と連携し、読書ボランティアの活動の場の一つとしてふるさと絆支援事業での読み聞かせの実施を働きかけます。			B	・KPIは71.7%とコロナ禍の影響がまだ続いているものと推測します。R5は、コロナも5類になり通常モードになっていくと考えられますが、ポストコロナの社会教育のあり方を検討して下さい。 ・②③（施策の取組状況、今後の取組）で基本目標①取組№6のKPIにもなっているミニスポーツ、カルチャー教室のことも言及されています。基本目標①施策№6、7、8などともうまく関連づけ、施策の工夫を行って下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証からは、基本目標、基本的方向と結びつけての検討に苦労しているように推察します。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）において「サークルとして活動できるようサポート」の部分は、②③（施策の取組状況、今後の取組）の領域でしょう。さらに②③（施策の取組状況、今後の取組）としても、人材育成で活躍の場づくりとつながって下さい。 ・③（施策の今後の取組）において「読書ボランティアの活躍の場」について言及されており、具体的な場づくりとして評価しますが、④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）へ発展させる工夫が必要です。例えば、読書ボランティアの研修への支援を行うにしても「上手に朗読ができる」だけでなく、「読み聞かせの場」「絆支援事業での出席」を通じて、保護者や地域づくりにつなげる力量を養うなど工夫をして下さい。「生涯にわたる学びと活躍の推進」することで「まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくり」につなげる工夫をしましょう。 ・日野スリリングクラブなどの、「学ぶ側から人材育成をする立場にかわり、新たに学ぶ人につながる」という良いサイクルができていている事例に着目し、様々な分野で広げて下さい。
	目標値【R5】	87,565 人															
目標値【R6】	87,783 人																
目標値【R7】	88,000 人																

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	子どもの読書活動と学習活動の支援	担当部署	図書館			
内容	・子どもの旺盛な知的好奇心に応えられる魅力的で豊富な図書を準備し、より一層家庭や地域、園や学校、学童保育、子育てサクル等における読書活動の支援に取り組みます。 ・移動図書館サービスを定期的に幼稚園・保育所・こども園で実施し、家庭での子どもの読書環境の充実に取り組みます。 ・学校図書館と連携し、読書活動と学習活動の支援に取り組みます。							

数量的検証										質的検証								
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証			
指標名	授業におけるクラス別小学校図書館 使用状況（学校司書認知件数）			授業におけるクラス別中学校図書館 使用状況（学校司書認知件数）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント					
基準値【R2】	27 回			3.7 回														
目標値【R7】	52 回			12.0 回														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率									
令和3年度	32	26	81.3%	5.4	2.4	44.4%												
令和4年度	37 回	28 回	74.3%	7.0 回	1.3 回	18.6%				②	・市内すべての小中学校に学校司書を派遣し、先生方と協力し児童生徒が読書に親しむよう環境整備を行っています。 ・小学校と連携し新一年生向け図書館利用案内および促進を実施しています。 ・幼稚園や保育所、こども園では、絵本の読み聞かせが行われ、定期的に移動図書館が訪問し、園児たちがより多くの絵本に出会う機会を提供しています。 ・幼稚園や保育所、こども園、小学校では家族との読書の時間を共有する「ファミリー読書」が定期的に実施されています。 ・乳幼児向けの絵本コーナーを設置し、定期的に子どもと保護者向けのおはなし会を実施しています。 ・つどいのひろば「ほけっと」に絵本を設置し、定期的におはなし会を実施しています。 ・読み聞かせなどのボランティアを育成するため、絵本の読み聞かせ講座を開催しています。	③	・市内全ての小中学校に学校司書を派遣していますが、複数校兼務しており、子どもが1つ学校図書館に行っても対応できるよう、専任の学校司書がいる校数を増えるよう働きかけます。 ・小中学校の授業等で学校図書館をもっと活用する、本を全く読まない子どもを減らすための働きかけを行います。 ・中高校生の年代に対して、生涯にわたる図書館を利用する動機となる働きかけます。（例：マンガの提供やボードゲームを通じて本を紹介するなどYA世代の興味関心を引き出す取組等） ・読み聞かせなどのボランティア活動に参加する人を増やし、スキルアップする機会を提供します。 ・つどいのひろば「ほけっと」だけでなく子育てサロンの会場等に絵本や子育ての参考になる本を配置し、本や必要な情報に接する機会を増やします。 ・小学生から高校生までが参加する放課後図書館クラブを開催し、図書館を拠点として地域社会の中で子ども達同士のつながりを作り、子ども達が主体となった活動を促進します。また、利用の少ない年代の声を聴き、子どもの視点に立った読書活動を推進します。	B	・内部検証がKPIに引きずられてない点は評価しますが、KPIの値の変化（低下していること、目標値に達していないこと）も検証して評価して下さい。 ・読み聞かせなどのボランティアの育成、スキルアップの必要性が認識され取組がすすめられていることを評価します。しかし、現状ではボランティア等に参加する人を増やすという課題を解決するために施策の工夫が必要です。 ・放課後図書館クラブ活動を開催し、図書館を拠点とした子ども同士のつながりづくりや子どもを主体とした活動がなされていることを高く評価します。放課後図書館クラブ活動の小中高校生と読み聞かせボランティアの方々と交流する機会をつくるなど、図書館を拠点とした交流の輪をつくることも検討して下さい。			
																④	⑤	
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	46.4%								
目標値【R5】	42 回			8.7 回														
目標値【R6】	47 回			10.3 回														
目標値【R7】	52 回			12.0 回														

基本目標
基本的方向を
踏まえての
状況

④

- 実施していること
・幼稚園や保育園、こども園を訪問して絵本等の貸出をする移動図書館は好評を得ています。より多くの利用を促進するため、絵本を随時新しくしています。
・つどいのひろば「ほけっと」や保護センターに絵本、育児、復職支援等の本を設置し、施設を利用する方々へ情報提供しています。
・日野高校と連携してブックトークを行い、本に触れる機会を提供しています。
・学校図書館の役割や重要性について理解を深めてもらうため、小中学校教諭および学校図書館司書向けの研修を開催しています。
- 実施できていないこと
・読み聞かせなどのボランティア活動に参加する人を増やすことができていません。
・全般的に本の貸出が減少傾向にあり、また感染症の影響により幼稚園や保育所での移動図書館の利用も減っています。
- 実施が困難なこと
・裕にありません。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
・地域で活動するおはなしボランティアとの連携を強め、スキルアップする機会を提供し、より活発な活動となるよう支援を行います。
- ・つどいのひろば「ほけっと」等子育て世代が集まる場所・ニーズに合った本を設置し、必要とする情報を提供します。
- ・放課後図書館クラブ活動を通じて、図書館を拠点として地域社会の中で子ども達同士のつながりを作り、子ども達が主体となった活動を促進します。
- 今後の課題
・中高生の年代に対して、生涯にわたる図書館を利用する動機となる働きかけが必要です。
・読み聞かせなどのボランティア活動に参加する人を増やす取組が必要です。
・子ども達の読書の質を向上するために、学校と連携したきめ細かな支援が必要です。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	9	具体的な取り組み	住民の主体的な文化芸術活動への支援	担当部署	生涯学習課				
内容	・町民会館わたむきホール虹や公民館等を活用した、町民主体の各種文化・芸術活動の充実を推進するとともに、普段ふれることのできない芸術活動を提供していきます。 ・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館の文化・芸術活動の連携を強化し、日野町文化協会等の団体とともに、住民が主体的に取り組める文化等の普及を図ります。 ・少年少女ミニカルチャー教室を通して、子どもの文化芸術活動の充実を図るとともに豊かな人間性を育みます。								

数量的検証										質的検証						
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証	
指標名	文化祭の参加者数			文化祭の出演者数・出展者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント			
基準値【R1】	4,000 人			171 団体												
目標値【R7】	4,200 人			180 団体												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率							
令和3年度	4,066	4,000	98.4%	174	140	80.5%										
令和4年度	4,100 人	4,500 人	100.0%	176 団体	152 団体	86.4%				②	③	A	●基本目標①施策№6、7、9で年少少女カルチャー教室について言及されていますが、年少少女の社会参画を促したり、社会教育の人材育成につながりるようにするには何が必要なのか、あわせて、住民の主体的な文化芸術活動を盛んにする起点にするにはどのような工夫が必要なのか総合的に検討して下さい。個別事業の中で閉じるのではなく、関連する領域に広がりを持たせて下さい。 ・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）にて、教室から1年でサークル化して活動の継続をしている点を高く評価します。サークル化したグループの学びが、若者（青少年）のカルチャー教室との接点を持ちたりするなど、若者（青少年）の社会参画の入口となる施策の工夫を行って下さい。			
														●実施していること ■わたむきホール虹事業 ・ギャラリーでは、町の芸術家の展示場を確保しています。 ・カホン、三線、ウクレレ、色えんぴつ画教室を開催し、作品を文化祭にて展示発表しています。また、各教室は約1年でサークル化し、活動を継続しています。 ・芸術活動の発表の場や芸術活動に触れる機会を確保するため、ユースチューブチャンネルによる発表、観覧の機会を創出しています。 ・大ホール利用のない日に、ワンコイン(500円/1h)でペーゼンドラフォーを弾ける事業を展開しています。 ■年少少女カルチャー教室 ・14教室161名の受講者がありました。 ・カルチャー教室の発表会を開催しました。 ■町民大学は、健康をテーマに講座を3回開催し、延べ105名の受講者がありました。 ●実施できていないこと ・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館において日野町文化協会等の団体や町民主体の文化・芸術活動との連携を進める必要があります。 ●実施が困難なこと ・特にありません。		
														KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】		
	目標値【R5】	4,133 人			177 団体											
目標値【R6】	4,166 人			179 団体												
目標値【R7】	4,200 人			180 団体												

- ②

・町民会館わたむきホール虹と図書館を会場に日野町文化祭を、各地区公民館を会場に地区文化祭を町民主体に開催され、町民が創作した作品の発表の場と各種文化に触れる機会を提供しました。
・町民会館わたむきホール虹において普段ふれることのできない芸術作品を提供し、芸術活動の充実を推進しました。
・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館において文化・芸術活動を通して連携し、日野町文化協会等の団体とともに、住民が主体的に取り組める文化等の普及を図りました。
・少年少女カルチャー教室を通して、子どもの文化芸術活動の充実を図るとともに豊かな人間性を育みます。
・町民大学講座を実施し、多様な学びの場を提供し、広く町民の参加を促しました。
- ③

・コロナ禍においても文化を学び、発表できる場をDXを活用し、他課と連携して提供していきます。
・DXに対応できない人に対し、スマホ教室などを実施して文化を学び、発表する手段を提供します。
■わたむきホール虹
○アウトリーチ事業
・小中学生が優れた文化芸術を体験することができるよう、わたむきホール虹においてバイオリン・チェロ・ピアノの音色に触れることができる「子どものためのコンサート」を企画します。
・2022年に馬見岡稲向神社にて実施した「HINO BIG TIME GLOOVE」のようなライブイベントを実行委員会方式で開催します。
・このような事業を通して、若い世代が地域の若者と交流したり、多世代交流を促進することにより、地域で生活することに希望と愛着を持ち、次世代を育成しようとするモチベーションに繋がるような環境づくりを進めます。
- ④

●実施していること
■わたむきホール虹事業
「ギャラリー」では、町の芸術家の志上げを図るため、町内外の美術作家の展示会を開催しています。
・カホン、三線、ウクレレ、色えんぴつ画教室を開催し、作品を文化祭にて展示発表しています。また、各教室は約1年でサークル化し、活動を継続しています。
・芸術活動の発表の場や芸術活動に触れる機会を確保するため、ユーチューブチャンネルによる発表、観覧の機会を創出しています。
・大ホールの利用のない日に、ワンコイン(500円/1人)でペーゼンドルフォーを開催する事業を展開しています。
■少年少女カルチャー教室
・11教室161名の受講者がありました。
・カルチャー教室の発表会を開催しました。
■町民大学は、健康をテーマに講座を3回開催し、延べ105名の受講者がありました。
●実施できていないこと
・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館において日野町文化協会等の団体や町民主体の文化・芸術活動との連携を始める必要があります。
●実施が困難なこと
・特にありません。
- ⑤

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・生涯にわたる学びと活躍を推進するため、町民の文化を知る、文化を発表する場である文化祭への参加を促進していきます。
・少年少女カルチャー教室を通じ、学んだこと、得たものを地域社会全体で共有し、さらに育むことにより子どもたちがまちに愛着を持てるようなまちづくりを進めます。
●今後の課題
・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館において日野町文化協会等の団体や町民主体の文化・芸術活動を通じた連携を進めることが課題となっています。
・少年少女カルチャー教室を通して体験した成果を発表する場（カルチャー教室発表会・文化祭・納涼祭等）を創出することが課題です。
・住民の皆さんによる主体的な文化・芸術活動を支援するとともに、生涯にわたって学び、活躍することができる機会を創出することができるよう、日野町文化振興事業団や関係機関と連携した取り組みを進めていきます。

・基本目標①施策No.6、7、9で少年少女カルチャー教室について言及されていますが、少年少女の社会参画を促したり、社会教育の人材育成につながるようなするには何が必要なのか、あわせて、住民の主体的な文化芸術活動を盛んにする起点にするにはどのような工夫が必要なのか総合的に検討して下さい。個別事業の中で閉じるのではなく、関連する領域に広がりを持たせて下さい。

・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）にて、教室から1年でサークル化して活動の継続をしている点を高く評価します。サークル化したグループの学びが、若者（青少年）のカルチャー教室との接点を持ったりすると、若者（青少年）の社会参画の入口となる施策の工夫を行って下さい。

A

・文化芸術活動や社会教育活動を住民が主体的に取り組むことを通じて、まちづくりの担い手としての力を高める契機となるように施策の工夫を行って下さい。

・「生涯にわたる学びと活躍の推進」を行うことが、基本目標①の施策No.7～11の取り組みの方向性となっています。文化祭に多くの町民と多世代の町民が参加することは、まちづくりのエネルギーとなるでしょう。しかし、その日々の学びの取り組みが、自らの学習欲求の充足に留まれば、社会づくりの契機ではなく、「個人化」の契機になりかねません。学習が個別化・個人化するのではなく、まちづくりの原動力となる工夫を行って下さい。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	10	具体的な取り組み	ふるさと学習の充実	担当部署	生涯学習課				
内容	・学校、地域住民・団体と協働し、ふるさと学習、講演・出前講座を拡充させ、郷土意識・文化財保護意識の醸成に努めます。 ・各家庭で作られてきた日野菜漬けや郷土・伝統料理を大切な文化ととらえ、その伝承と情報発信をまちぐるみで推進します。								

数量的検証										質的検証						
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証	
指標名	ふるさと学習（学校向け出前講座・展示活動等）実施回数			ふるさと学習（地域向け講座・学習会等）実施回数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント			
基準値【R1】	6 回			4 回												
目標値【R7】	11 回			7 回												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率							
令和3年度	6	10	100.0%	5	6	100.0%										
令和4年度	10 回	13 回	100.0%	6 回	13 回	100.0%				施策 ②	③	A	・KPIは、目標を超過して達成していることを高く評価します。次の総合戦略では、アウトプットの指標だけのKPI設定はやめ、アウトプットとアウトカムの両方を設定しましょう。 ・超過達成をしている現状から「ふるさと学習」の充実といえますが、その成果として「郷土意識・文化財保護意識の醸成」「文化の伝承と情報発信」にもつながるだろうかとも内省して下さい。一方で、本内部検証が、KPIに引きずられた回数増のみに焦点をあてるような検証ではないことも評価します。 ・内部評価の文章から、様々な学習の機会を提供していることが判りました。しかし、少し気になるのが、受講者が学びの消費者（受け身の学び）になっていないだろうかという点です。住民の主体性を引き出す施策の工夫が必要です。 ・日野のたから大発掘ワークショップの開催を拡大しようとしていている点は高く評価します。高く評価する理由は、アクティブ・ラーニングの要素があり、主体的で深い学びが期待できるからです。日野地元学づくりの基礎として、まちについて調べる力・考える力を養い、主体性を涵養する学びとなるように工夫して下さい。あわせて④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で「実施が困難」としている保護者世代も巻き込んで下さい。公民館・図書館も共同して取り組むと事業効果は高くなるでしょう。 ・保護者世代を巻き込むためには、仕事の時間外で、かつ時間が合うこと、内容が魅力的であることが条件となるため、発信の仕方にも工夫が必要です。			
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	100.0%							
	目標値【R5】	10 回			6 回											
目標値【R6】	11 回			7 回						基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④	⑤		・コミュニティスクールの本格的な導入を受け、学校・公民館・地域住民と連携し、ふるさと学習の推進を図ります。 ・日野観光ボランティア協会が実施する子どもボランティア養成講座に協力します。 ・食文化に関する情報収集・発信を進めるとともに、近江日野交流ネットワークと協働し、食文化の継承と情報発信を促進させる事業を実施します。 ・学校給食やふるさと学習の場を活用し、郷土・伝統料理の継承と情報発信を図ります。 ・西大路地区以外の6地区において日野のたから大発掘ワークショップを開催します。 ●実施していること ・ふるさと学習に協力し、子ども達の地域への関心と郷土愛を育む取組を拡充しました。 ・日野のたから大発掘ワークショップの開催を通じ、町民の町に対する愛着や誇りを高めることができました。また、多世代間が交流する良き場となりました。 ・食文化に関する聞き取り調査を通じ、住民の食文化に関する関心を高めることができましたと同時に、情報発信を行うことができました。 ●実施できていないこと ・特にありません。 ●実施が困難なこと ・小中学生の保護者世代を巻き込んだ事業の実施。			
目標値【R7】	11 回			7 回												

④
●実施していること
・ふるさと学習に協力し、子ども達の地域への関心と郷土愛を育む取組を拡充しました。
・日野のたから大発掘ワークショップの開催を通じ、町民の町に対する愛着や誇りを高めることができました。また、多世代間が交流する良き場となりました。
・食文化に関する聞き取り調査を通じ、住民の食文化に関する関心を高めることができたと同時に、情報発信を行うことができました。
●実施できていないこと
・特にありません。
●実施が困難なこと
・小中学生の保護者世代を巻き込んだ事業の実施。

⑤
●基本目標、基本的方向を踏まえて
・令和4～6年度で策定する文化財保存活用地域計画の柱のひとつに「ふるさと学習の推進」を位置付け、地域総がかりで、まさに愛着を持つ子どもと大人を育てるための施策を検討します。
●今後の課題
・学校、保護者、地域住民、団体、公民館との連携を強化し、ふるさと学習が、学びと多世代間交流の場となるような仕組みづくりが必要です。
・ふるさと学習が、交流人口の増加や定住・移住促進につながるような施策の検討が急務です。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	11	具体的な取り組み	女性活躍の環境づくり	担当部署	商工観光課	企画振興課			
内容	・女性活躍支援施設「ほけっと」において、就労に役立つセミナー等を実施し、職場復帰や新たな就労を考えている女性の就労支援に取り組みます。 ・仕事と家庭の両立を目指し、ワーク・ライフ・バランスを普及・啓発することで、女性が安心して仕事を継続できる労働環境の整備に取り組みます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	女性活躍支援施設「ほけっと」における事業による出産後の女性の復職者の増加数（累計）			女性活躍支援施設「ほけっと」における事業による新規就労者数（累計）						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R1】	8 人			1 人											
目標値【R7】	27 人			27 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	14	14	100.0%	10	9	90.0%									
令和4年度	17人	19人	100.0%	14人	10人	71.4%				②	・女性活躍支援施設「ほけっと」で、子育て女性を対象とした、子育てと仕事の両立や社会復帰に関する就労セミナーを2回、相談会を1回開催し、社会復帰に向けた不安や悩みの解消を図るとともに、自身のキャリアを考え、学び、挑戦することができるよう学習機会を提供しました。 ・セミナーの開催時期を要望のあった保育所申し込み時期よりも早い時期となるよう2か月前倒し、子育て女性のニーズに沿った形で開催し、参加者の増加につながりました。（参加者延べ24人） ・人権にかかる企業訪問の際に、ワークライフバランスの推奨と育児休暇等の各企業での取り組み状況と法整備への対応を把握し、労働環境の整備に努めました。	③	・産後も社会とつながりを持ち、働き続けたいという女性は多く、その気持ちを就労や地域での活躍につなげる取組が必要です。 ・現状は女性活躍支援施設「ほけっと」で、子育て女性に対しての事業としていますが、今後は広くジェンダーの視点を踏まえ、商工会等との連携・協働による、真に効果の高い、女性デジタル人材や女性起業家を育成するためのセミナーや就労相談、ネットワークづくり等のマッチング支援や伴走支援を行っていくことが必要です。 ・女性の就労ニーズは多様で個別のかかわりにニーズが高いため、ハローワークの相談会も取り入れ、その機会の充実に取り組みます。	A	・地方創生交付金を活用して建物を整備した「ほけっと」は、日野町において女性の社会参画増進の重要な施設です。また、「ほけっと」に子育て親子が行きやすいように健診の後などにつなげるなど連携を強化して下さい。「ほけっと」で多くの親子がつながり、「ほけっと」を起点に子育てのネットワークの強化拡大や女性の復職者・新規就労者が増えるなど、波及効果が大きいと見込めます。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標・基本的方向を踏まえた内部検証を行っていることは評価します。多様なニーズをとらえ、切れ目のない支援を行うことは困難な仕事でもあります。公の役割、地域の役割、家族の役割をどう配分し、分担するのが日野の地方創生につながるのか検討して下さい。 ・近年は、働き方改革も進み育児休業で復帰先が決まっている方が多くなります。そうした社会情勢の変化から、セミナー参加者は限られた人しかいない状況です。時代のニーズにあわせたセミナーの開催や周知方法の検討が必要です。 ・「ほけっと」の利用者は、ハローワークの求人（フルタイム）とはマッチングしづらいため、短時間（パートタイム）の求人など、利用者の希望にあったものが閲覧できると良いのではないのでしょうか。
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】						①	85.7%							
目標値【R5】	20 人			18 人											
目標値【R6】	23 人			22 人											
目標値【R7】	27 人			27 人											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	農業経営・担い手育成への支援	担当部署	農林課				
内容	・農家等経営の合理化、生産体制支援の仕組みづくりの促進を実施し、法人営農、集落営農、および新規就農従事者等、意欲と能力のある経営感覚に優れた担い手の確保・育成に取り組みます。 ・集落の事情に応じた集落営農組織等を支援します。 ・貸し手と借り手をつなぐため、農業組合、農業委員会や農地中間管理機構との情報共有を実施します。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	人・農地プランの作成集落数									取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R2】	21 集落														
目標値【R7】	25 集落														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	21	21	100.0%												
令和4年度	22 集落	22 集落	100.0%							施策 ②	・「人・農地プラン」の作成、見直し、実行を進めるため、農業組合や自治会、農事組合法人等の寄り合いに伺い、話し合いを進めました。また、令和4年度はJAグリーン近江の秋・春季農談会にも同行し、連携した取組を進めました。法改正により、令和5年4月から大きく仕組みが変わることもあり、事前の周知も含めこれを行いました。 ・高齢化による農業者の減少、大型農業機械の買い替え等が課題となっており、集落営農組織設立を検討されている集落に対し、勉強会を開催しました。 ・農地中間管理事業による転賃は、担い手の経営農地の集約化に繋がるよう関わりました。	③	・令和5年4月から法改正により、「人・農地プラン」が「地域計画」となります。5年後、10年後の目標地図の作成が必要となり、全体・個別の周知啓発を進めます。 ・「地域資源」の活用等も視野に入れ、認定農業者や集落営農以外の多様な経営体の発掘、登用について検討を進めます。	A	・②③（施策の取組状況、今後の取組）で、「人・農地プラン」の作成をすることが重要であることは判りますが、プランを作ることが目的化しているようにみえます。昨年のコメントでも「作成するだけを目標とせず、プランが実行され、成果が出るようにフォロー・アップしてください」と述べました。プラン作成・実行によって、担い手の確保・育成の成果が出ているのが可視化して下さい。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標、めざす姿、基本的方向を踏まえなければなりません。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）の内容は②（施策の取組状況）に移しても良い内容も含まれています。④において、基本目標②のキーワード「地域資源」「住民主体の創業」「地域内経済循環の活性化」「雇用の創出」や基本的方向に示されている内容を踏まえて検証を行います。担い手を確保・育成することが、地域資源を活かし、創業につながり、雇用創出につながる道筋を検討してください。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標、めざす姿、基本的方向を踏まえなければなりません。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）の内容は②（施策の取組状況）に移しても良い内容も含まれています。④において、基本目標②のキーワード「地域資源」「住民主体の創業」「地域内経済循環の活性化」「雇用の創出」や基本的方向に示されている内容を踏まえて検証を行います。担い手を確保・育成することが、地域資源を活かし、創業につながり、雇用創出につながる道筋を検討してください。⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）で学校給食にオーガニック米の提供に取り組むことが地域内経済循環の活性化や創業、雇用の創出につながる経路を考えて下さい。
		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	100.0%		基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて「地域資源」を活かし、地産地消を進められるよう、試験的に学校給食でのオーガニック米の提供等に取り組めます。 ・町内外を含め、農業関係人口の創出に向けた取組の検討を進めます。 ●今後の課題 ・食料の生産基盤である農地を未来に繋ぐため、農業者、非農業者が協力し、農村集落の維持について考えていくことが必要です。	
目標値【R5】	23 集落														
目標値【R6】	24 集落														
目標値【R7】	25 集落														

基本目標
基本的方向を
踏まえての
状況

④

●実施していること
・担い手の経営継承に向け、関係機関、税理士等と連携し、結果、法人化に繋がりました。
・農業委員、農地利用最適化推進委員と連携し、複数集落の寄り合いへ伺いました。
●実施できていないこと
・集積率の向上に寄与する取組が停滞しています。
●実施が困難なこと
・中山間農業地域における農地利用については、担い手の確保、維持管理が難しい状況です。

⑤

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・「地域資源」を活かし、地産地消を進められるよう、試験的に学校給食でのオーガニック米の提供等に取り組みます。
・町内外を含め、農業関係人口の創出に向けた取組の検討を進めます。

●今後の課題
・食料の生産基盤である農地を未来に繋ぐため、農業者、非農業者が協力し、農村集落の維持について考えていくことが必要です。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	林業の振興	担当部署	農林課				
内容	・未利用資源が増加していることから、木材搬出を促し世代を超えて持続可能な産業となるよう振興を図ります。 ・未利用人工林の整備を進めます。 ・森林組合等に対して森林施策、木材搬出が実施できるよう林道・作業道整備等の支援を行います。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証						外部検証	
指標名	町産木材の搬出量									取り組み状況			今後の取り組み			検証結果	コメント
基準値【R2】	1,380 ㎡																
目標値【R7】	2,500 ㎡																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	1,604	1,831	100.0%														
令和4年度	1,828 ㎡	2,586 ㎡	100.0%							施策②	●昨年度に引き続き大字熊野（A=20ha）において、森林境界明確事業を実施しました。 ・大字佐久良において、災害に強い森林づくり事業（A=1.51ha）を実施しました。 ・木材搬出を促進するため、町内で行われた搬出間伐（V=250㎡）に対し、県の造林間伐補助金への上乗せ補助を実施しました。 ・森林組合が森林所有者から受託して行う森林施策（A=10.86ha）に対し、町で間伐対策補助を行いました。	③	●森林経営計画管理制度の実施に向けて、森林の境界及び、所有者を特定する必要があることから、引き続き、森林境界明確化事業の取り組みを推進します。 ・合わせて森林所有者に対し意向調査を行い、森林経営に繋げていきます。 ・林業事業体が行う木材搬出に対し引き続き補助を行うとともに、林業事業体の施策能力向上のため、機械・システムの導入や人材育成に対しても支援を行っていきます。 ・平成31年度に創設された森林環境譲与税について、町の森林行政における有効な活用方法を検討します。 ・引き続き、林業施策者と連携を図り、林道及び林内作業場の整備を促進します。	A	●森林環境譲与税を有効に活用して、林業の振興につなげて下さい。森林境界明確化事業が重要であり、林業振興のために必要なことであるのは認めますが、その先の林業振興のビジョンがみえません。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）は基本目標、基本方向を踏まえての検証ですが、②③（施策の取組状況、今後の取組）の繰り返しがあります。また、担当者が専門職でないことが、林業施策が政策的・実践的ではないことを認めています。そのような困難な状況の中でも何ができるのか？何が日野町に必要なのか調査・検討して下さい。		
																基本目標 基本的方向を踏まえての状況④	●実施していること ・森林境界明確化事業を平成31年度より実施し、大字奥之池、小野で実施をしています。 ・災害に強い森林づくり事業に多くの自治体を取り組んでおり、里山整備を推進しています。 ●実施できていないこと ・森林経営管理制度の実施へ向けた所有者等への意向調査。 ・森林境界明確化事業の更なる実施区域の拡大。 ・森林資源の地域内での消費促進 ●実施が困難なこと ・特にありません。
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	100.0%						
目標値【R5】	2,052 ㎡																
目標値【R6】	2,276 ㎡																
目標値【R7】	2,500 ㎡																

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	地域内経済循環の推進	担当部署	農林課	商工観光課			
内容	・町内の消費拡大と地域内経済循環につながるよう、商工会や関係団体と連携し、企業間取引の促進に取り組みます。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）																	
指標名	おさんぽカード利用ポイント数			住宅リフォーム等促進事業実績額													
基準値【R1・2】	473 万ポイント			329 百万円													
目標値【R7】	500 万ポイント			330 百万円													
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	480	1,171	100.0%	330	335	100.0%											
令和4年度	485 万ポイント	4,028 万ポイント	100.0%	330 百万円	379 百万円	100.0%				施策 ②	・町内の経済支援として、町内の消費拡大を図るため「ふるさと日野町がんばろう商品券」を発行しました（6,750万円分）。 ・住宅リフォーム工事に対して地域商品券で助成を行い、商業、工業両面にわたる地域内経済循環の推進に取り組み、計114件922万1千円の助成を行いました。 ・町内消費が進むようQRおさんぽカードへ転換する事業に補助を行うなどの支援に取り組みました。		③	・町内の個店への集客が増えるように「おさんぽカード」の使いやすさや町内消費のPR活動を商工会とともに連携して取り組みます。 ・引き続き町内の消費拡大を目指し、商工業など多方面で使用できる地域商品券発行事業に取り組みます。 ・引き続き、住宅リフォーム等促進事業の推進に取り組み、町内事業者や町民等への地域内循環型の経済支援を実施していきます。		B	・基本目標②施策No.4は、基本目標②の中でも重要な取組です。内部検証はKPIに関わる施策だけが取り上げられているようにみえます。この点は、昨年の外部検証でも指摘していますが、他の施策への言及がないことから、他の施策は取り組めていないものと判断します。今後は、直接的にKPIに関わる施策以外のことも検討し、実施して下さい。 ・重要な取組なのに施策が貧弱です。 ・まず、地域内経済循環の実態調査に着手して下さい。地域内経済循環の実態を調査し、住民が購買行動をする際に町内への波及効果を考えながら購買行動できる情報的基础も提供して下さい。ポイントによる誘導と情報に基づく行動とでは、消費に至るプロセスが違います。住民が自分の利益だけを考えてインセンティブに反応して町内消費するのと、町内波及効果を考えて町内消費するのには、郷土愛の涵養など質的違いがあるはずです。
											基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④	●実施していること ・商工会と連携を図り、町内で消費が生まれ地域内で経済が循環する仕組み、施策を実施しています。 ・QRおさんぽカードのマナーチャージ時にプレミアムポイントを付与するイベントを行い、新型コロナの影響を受けた商店等の集客支援並びに町内消費の拡大と地域内循環に取り組みました。 ●実施できていないこと ・町内企業の交流や連携への取組は実施できていません。 ●実施が困難なこと ・地域内の新たな雇用や創業まではすぐに結びついていません。		⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ・地域経済の活性化に向けては、引き続き商工会と連携して現場の声を聞きながら進めていきます。 ・地域内経済循環を進めるため、町内企業の仕入れの実態調査に取り組みます。 ・ふるさと応援寄附の取組の拡充させ、寄附を通じた町内の商工業者の特産品の販路拡大に取り組みます。 ●今後の課題 ・まちの地域資源を創業や雇用に結びつける手法を研究する必要があります。		
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	100.0%							
目標値【R5】	490 万ポイント			330 百万円													
目標値【R6】	495 万ポイント			330 百万円													
目標値【R7】	500 万ポイント			330 百万円													

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	創業・コミュニティビジネスへの支援	担当部署	商工観光課				
内容	・商工会と連携し、広報誌、ホームページや各種媒体を活用し「創業塾」や創業支援制度の周知に努めるとともに、創業後も経営等の相談を受ける伴走型支援に取り組みます。 ・コミュニティビジネス等の創業者との交流会を開催し、創業者ニーズの把握に取り組み、施策を展開します。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証						外部検証	
指標名	創業件数（累計）									取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント		
基準値【R1】	12 件																
目標値【R7】	25 件																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	15	16	100.0%														
令和4年度	17 件	20 件	100.0%							②	●商工会が主催される創業塾は、8回の講義が実施され、町の広報誌で周知に努め、4名の参加がありました。 ●また、創業塾受講後も経営指導などのバックアップに取り組まれました。 ●昨年度創設した「日野町空き家空き店舗活用支援事業補助金」制度の利用については新規で1名の方から申請があり、令和4年度中に営業を開始されました。	③	●今後も引き続き、創業塾は商工会と連携し、あらゆる情報媒体を活用し受講者が増えるよう取り組みます。 ●また、創業塾受講後も経営指導などの商工会による伴走型支援の取組を進めます。 ●資金面の観点から「日野町創業支援補助金」の活用を周知し、創業塾による経営のノウハウの支援との両面からの支援が行き届くよう取り組みます。 ●また、近年創業された方などを通じ昨今の創業者ニーズの把握に努めます。	A	●基本目標②施策№5の取組内容「コミュニティビジネス等の創業者との交流会」がみえませんが、創業者のニーズの把握もできておらず、ニーズの把握がないので効果的施策がとれていないものと推察します。 ●創業・コミュニティビジネスへの支援を行い、雇用創出などにつながるような工夫が必要です。KPI「創業件数（累計）」でR4実績が累計20件とありますが、創業・コミュニティビジネスの累計20件が、地域経済への貢献度がどの程度なのか調査するなど、地域内経済循環の効果測定を行って下さい。 ●⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において、若者・女性の創業への支援を行うことの意義を検討して下さい。 ●小スペースでお店を出す方が最近増えています。昨年度の創業件数が4件がすごく高い数字だと考えます。増えている要因を探り、今後の取組につなげて下さい。 ●町外からの創業者などに「日野の良さ」等を聞き取りすると、それを吸収して町内の方にも伝えていけるのではないのでしょうか。創業者のニーズ把握等に努めて下さい。		
																④	●実施していること ●創業者、空き家空き店舗活用者への支援により地域内経済循環の活性化するように取り組んでいます。 ●実施できていないこと ●企業や創業者との交流事業は実施できていません。 ●実施が困難なこと ●空き店舗は、住居と一体化しているケースが多く、店舗部分だけの活用が出来にくい状況です。
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	100.0%								
目標値【R5】	19 件																
目標値【R6】	22 件																
目標値【R7】	25 件																

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	企業誘致の推進と工場用地の確保	担当部署	商工観光課				
内容	・県等の関係機関と連携して情報発信に努め、空き用地への企業立地を促進するとともに、新たな工場用地の確保に向けて、民間企業との連携を推進します。 ・進出企業による町内雇用の促進や地元産品の利用等をはじめとする社会的責任（CSR）活動等の地域連携を推進します。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証						外部検証	
指標名	新規企業立地数									取り組み状況				今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R2】	1 件																
目標値【R7】	3 件																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	1	1	100.0%														
令和4年度	1 件	1 件	100.0%							施策②		③			A	・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）における日野高校と地元企業の職業体験への支援、キャリア教育への補助が行ったことは高く評価します。 ・念頭にある企業誘致が工業団地に入る事業所のようなですが、工業団地以外に立地可能な企業がないのか調査・研究して下さい。 ・⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において「工業団地企業協議会との連携促進に努める」とのことですが、基本目標を実現するためにどのような工夫ができるのか検討して下さい。 ・企業は人材確保に非常に苦戦している。この地域を中心としたジョブフェアなどを実施して下さい。 ・町の姿勢として、「待ち」ではなく、「同じ方向に向かってやっていきましょう」という姿勢がないのは残念です。企業協議会などもあるので、ニーズを把握するためのアンケートをとるなどのアクションを起こすだけでも何か一つ取っ掛かりになるのではないのでしょうか。 ・国が作った制度などは、地域の求めるものと少しズレが生じる可能性があります。「国でこういった施策ができたかどうか」というやり方ではなく、企業や地域にとって必要なものをくみ取ることが大切です。	
																	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】
目標値【R5】	1 件																
目標値【R6】	2 件																
目標値【R7】	3 件																

・事業者や商工会、金融機関、県企業立地推進室等と企業誘致に向けた情報発信に取り組みました。
・工業団地の空き用地がほぼ無い中、現在民間で予定されている新たな工業団地開発（鳥居平松尾地先）が順調に進むよう関係機関との連携に努め、令和4年度中に市街化区域（工業地域）への変更手続きが完了しました。
・企業懇談会の中で、地元企業間の商品利用や取引の促進を進めました。

・鳥居平・松尾地先の工業団地が今年度に関係を終って造成工事が進んでいく予定であるため、当該地への企業立地に向けて多方面へPRを行います。また、引き続き事業者や商工会、県産業立地推進室等と情報共有し、当初に持続的な経済効果や雇用創出をもたらす企業の誘致に努めます。
・企業の社会的責任（CSR）活動の幅広い地域連携を進めるための研究を進めます。

●実施していること
・既存の工業団地での雇用創出に向けて、商工会や事業者、ハローワーク等と情報共有を図りました。
・地元日野高校と地元企業の職業体験への支援とキャリア教育に対する補助を行い人材育成の支援に努めました。
●実施できていないこと
・豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会を実施できていません。
●実施が困難なこと
・現在開発計画中の用地以外では工業団地の空き用地がほとんど無い状況です。

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・企業、商工会との情報共有を図るため、工業団地企業協議会との連携促進に努めます。
・商工会と連携して企業の先進的な技術や魅力ある商店の情報発信を行い、地域内連携と町内雇用の拡大に結び付けます。
・企業誘致にあたっては、若者の就労ニーズを把握し、若者が町内から通える企業の誘致に取り組みます。
●今後の課題
・創業者に寄り添った支援策を検討していく必要があります。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	新たな産業分野の誘致と創出	担当部署	商工観光課	企画振興課			
内容	・県、県産業支援プラザ、金融機関等と連携するとともに、新たな産業分野の企業進出にかかる優遇制度の拡充を検討し、誘致を進めます。 ・空き店舗等を活用し、時代の変化に対応した新しい産業創出に努め、サテライトオフィス誘致等に取り組みます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	サテライトオフィス等の設置									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R2】	0 件														
目標値【R7】	1 件														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	1	0	0.0%												
令和4年度	1 件	1 件	100.0%							施策 ②	③	A	・サテライトオフィスの設置ができたことは高く評価します。今後は、利用の利便性向上にとどまらず、地域内経済循環の活性化につなげるなど、基本目標、基本的方向性を踏まえた施策を検討して下さい。 ・近江日野商人サミットを開催し、ゆかりのある企業とのつながりが持てたことを高く評価します。つながりを大切に育み、まちの力につなげるための工夫が必要です。 ・サテライトオフィスや近江日野商人サミットの今後の展開は行政のコーディネート次第のため、尽力いただきたいです。		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	100.0%						
										基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④	⑤				
目標値【R5】										1 件					
目標値【R6】										1 件					
目標値【R7】										1 件					

②
施策

④
基本目標
基本的方向を踏まえての状況

・近江日野商人サミットを令和4年11月に開催し、関東方面で日野町にゆかりのある企業へ町の取り組みを説明するとともに、情報収集を行いました。
・デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生テレワークタイプ）を活用し、町内の伝統的な住宅・商家等を活用したサテライトオフィスの開設を進める民間事業者に補助金を交付しました。
・開設されたサテライトオフィスに進出する事業者（3社）に進出支援金を交付しました。

●実施していること
・近江日野商人サミットを開催し、関東方面で日野町にゆかりのある企業へ事業内容の説明や情報収集を行いました。
・サテライトオフィスの開設支援を実施するにあたり、近隣市町でサテライトオフィスを運営されている事業者を視察するとともに、開設事業者とも連絡を取り合い、日野町の地域資源を活かしたサテライトオフィスの運営について検討しました。
●実施できていないこと
・特にありません。
●実施が困難なこと
・特にありません。

③
・県、県産業支援プラザ、商工会、金融機関等の情報収集に努め、優遇制度の創設の検討と誘致を進めます。
・昨年度に引き続き関東方面で近江日野商人サミットを開催し、日野町にゆかりのある企業へ日野町でのサテライトオフィスの進出を促すよう働きかけます。
・サテライトオフィス運営事業者や進出事業者と連携し、開設されたサテライトオフィスがより利用しやすいよう、意見交換をおこなうとともに、地域との交流、また、多様な利用者間の交流につなげます。

⑤
●基本目標、基本的方向を踏まえて
・近江日野商人サミットが一過性のイベントとにならないよう継続した取り組みを行い、日野にゆかりのある企業とのつながりやひとの流れが生まれるよう、連携をすすめます。
・サテライトオフィスに進出する企業と地域との交流により、まちの地域資源を活かした新たな取組やひとの流れが生まれるよう、連携をすすめます。
●今後の課題
・近江日野商人サミットにより生まれた日野にゆかりのある企業との繋がりを大切にしつつ、地元企業や商工会等との交流や連携ができる体制づくりをおこなう必要があります。
・サテライトオフィスを拠点とした新たなひとやしことの流れの創出、更なる地域経済の活性化につなげるためには、地元企業や商工会等との交流や連携が深まる体制づくりをおこなう必要があります。

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	町内雇用の促進と雇用機会の拡充	担当部署	商工観光課				
内容	・ 商工会等関係機関と連携し、町内企業との懇談会や企業協議会、企業訪問等により、町内雇用を促進します。 ・ 職業安定所等関連機関と連携し、求職者のニーズに基づく雇用機会の拡充を図り、女性や高齢者等の幅広い年齢層に対して就職情報や就労相談の場を提供します。 ・ シルバー人材センターも含めた地域雇用の創出と求職者のニーズに沿った就業を支援します。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証						外部検証	
指標名	町内企業に勤務する従業員のうち町内居住者の割合									取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント		
基準値【R2】	21.5 %																
目標値【R7】	27.0 %																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	22.0	26.0	100.0%														
令和4年度	26.5 %	26.4 %	99.6%							②	●町内企業との懇談会や企業訪問等の機会に町内者雇用（日野高校生採用）を促進しました。 ●日野高校が行う就業支援を目的としたキャリア形成教育や地域との連携事業に補助を行い、郷土愛の醸成と人材育成につながりました。 ●ハローワークなど関係機関の求人情報や技能取得の情報等を誰でも閲覧できるよう役場1階ロビーおよび「ほけっと」に配架するなど情報提供に努めました。 ●高齢者の雇用拡大につながるようシルバー人材センターの運営に対し支援を行いました。	③	●町内企業との懇談会や企業訪問等の機会に町内者雇用（日野高校生採用）を促進します。 ●町の人材育成に繋がるよう日野中学校や日野高校が行う職場体験事業を通じて地元の企業の良さを感じてもらえる取組を支援します。 ●ハローワークの情報等を役場1階ロビーおよび「ほけっと」に配架します。 ●高齢者の雇用拡大と生き甲斐づくりにつながるシルバー人材センターの運営に対し支援を行います。	B	●②③④（内部検証）が昨年とほぼ同じでした。町内雇用を促進するための施策の工夫を行って下さい。 ●日野高校生採用を促進すること、日野高校におけるキャリア形成教育などに関与していることを評価します。 ●②③（施策の取組状況、今後の取組）のハローワークなどの求人情報を役場1フロビーおよび「ほけっと」に配架されていますが、役場以外の公共の場で積極的に配架できるように検討して下さい。 ●製造業の多い滋賀県特有の人手不足もあると推察します。一方で産業構造の転換（サービス経済化）による若者の就業希望先の変化など起きていないか実態把握をする必要があります。地元にある製造業への就職を若者が考えるようなキャリア観形成のためにキャリア教育などに工夫をして下さい。 ●企業では、日野高校の生徒も毎年雇用しているが、なかなか人材確保ができず、町内雇用が少ない現状です。 ●町内の企業は技術力が高く、身近な生活に携わっている仕事が多いです。そういった内容を、就職を希望する若い世代に届くような動きが大切です。世の中の最先端技術を支えているという誇りを持って働けるよう町とタイアップを組んで企業雇用を促していきたいです。 ●若者が日野町に住んで日野で働くことと考えるよう、受け身ではなく能動的に取り組んでいただきたい。		
																KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】	
	目標値【R5】	26.5 %															
目標値【R6】	27.0 %																
目標値【R7】	27.0 %																

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付け、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組み№	1	具体的な取り組み	商工業の活性化	担当部署	商工観光課				
内容	・商工会と連携し、大型店にはない商店の強みや魅力を磨き、発信することで、商店や商店街に人が集まり町が活気づくような施策を実施します。 ・商工会と連携し、第三者承継も含めた事業承継に取り組み、事業継続の支援をします。 ・観光施設や地域イベント等への誘客を促進し、※交流人口の創出と賑わいのあるまちづくりを進めます。 ・住宅リフォーム等促進事業の継続により、商工業の活性化を図ります。 ・ふるさと応援寄附制度や観光との連携を通して、地元商業の活性化に取り組みます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	住宅リフォーム等促進事業による空き家リフォーム助成件数			ふるさと応援寄附の返礼品額						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R2】	0 件			1,489 千円											
目標値【R7】	5 件			9,000 千円											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	2	2	100.0%	3,000	2,867	95.6%									
令和4年度	2 件	4 件	100.0%	4,500 千円	7,512 千円	100.0%				施策 ②	③			B	・②（施策の取り組み状況）において、取組内容に示されている「随店の強みや魅力を磨き」の部分がみえてきません。また、R3内部検証の③（施策の今後の取組）で事業継続について「進めます」としているのに、R4内部検証では、②（施策の取り組み状況）では記述がなく、③（施策の今後の取組）では前年と同じ記述になっています。事業承継・事業継続のための具体的な施策を検討・実施して下さい。 ・商工業の活性化施策が「1.町内需要を商品等で町内事業者に向かわせる」の2点に重点がおかれています。町内外の需要が町内事業者の事業に向かったことで、「（町内）商店の強みや魅力を磨く」ことになったのかを検証したり、直接町内雇工業者の強みや魅力を磨く施策を検討・実施して下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）においては、基本目標・基本的方向を踏まえて内部検証を行って下さい。同じ指標をR3でも行いましたが、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）に至っては昨年と全く同じ記述です。昨年度の外部検証においても、商品等、リフォーム等促進、ふるさと納税などの町内経済への波及効果の測定を提案しています。 ・③（施策の今後の取組）において、交流人口の創出、ふるさと応援寄附などと観光との連携、磨くいのあるまちづくりの有機的連関がみえてきません。昨年も同じ指摘をしています。 ・商工会に入る方は、近年増えており、小資本で小売りをしたいという町外の方は多くいます。新しいとにチャレンジしたい人ができる環境を整えることや、「相談してください」といったアピールが必要ですよ。
							KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】								
	目標値【R5】	3 件		6,000 千円											
目標値【R6】	4 件		7,500 千円												
目標値【R7】	5 件		9,000 千円												

・コロナ禍ならびに原油等の物価高騰により影響を受ける住民の生活支援ならびに町内事業者への消費喚起のため、町単独で事業を実施しました。
・ふるさと日野町がんばろう商品券発行事業
・住宅リフォーム助成においては、商工会と連携しながら、商工業者の利用を促進しました。
・ネット広告の活用や返礼品の拡大などのふるさと応援寄附の推進に努め、地元商業者の活性化に取り組みました。

●実施していること
・住宅リフォーム助成において、令和3年度からの制度拡充において、転居・転入者の移住・定住促進に取り組みました。
●実施できていないこと
・特にありません。
●実施が困難なこと
・特にありません。

●物価高騰等の影響を見据えた、町民の消費が小規模事業者に向く施策を検討します（地域商品券の発行等）。また、商工会や商業協同組合が実施する町内の個店への集客が増える各種キャンペーン事業を補助金交付にて支援します。
・商業・工業の両面に波及効果のある住宅リフォーム等促進事業の推進に引き続き取り組み、移住・定住についても促進します。
・事業承継を検討している事業者には支援機関を通じたネット上での募集などを商工会とともに進めます。

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・商工業者の活性化のため、住宅リフォーム助成等促進事業の助成額など制度の拡充を検討します。
・ふるさと応援寄附のポータルサイトの拡充および特産品増加、有効な広告宣伝により、関係人口の増加に取り組みます。
●今後の課題
・他課とも連携して、将来の移住につながる情報発信に取り組み必要があります。

・②（施策の取り組み状況）において、取組内容に示されている「商店の強みや魅力を磨き」の部分がみえてきません。また、R3内部検証の③（施策の今後の取組）で事業継続について「進めます」としているのに、R4内部検証では、②（施策の取り組み状況）では記述がなく、③（施策の今後の取組）では初年と同じ記述になっています。事業承継・事業継続のための具体的施策を検討・実施して下さい。
・商工業の活性化施策が「1.町内需要を商品券で町内事業者に向かわせる」、「2.ふるさと納税で町内需要を町内事業者に向かわせる」の2点に重点がおかれています。町内外の需要が町内事業者の事業に向かったことで、「（町内）商店の強みや魅力を磨く」ことになったのを検証したり、直接町内商工業者の強みや魅力を磨く施策を検討・実施して下さい。
・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）においては、基本目標・基本的方向を踏まえて内部検証を行って下さい。同じ指標をR3でも行いましたが、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）に至っては昨年と全く同じ記述です。昨年度の外部検証においても、商品券、リフォーム等促進、ふるさと納税などの町内経済への波及効果の測定を提案しています。
・③（施策の今後の取組）において、交流人口の創出、ふるさと応援寄附などと観光との連携、賑わいのあるまちづくりの有機的連関がみえてきません。昨年も同じ指摘をしています。
・商工会に入る方は、近年増えており、小資本で小規模をしたいという町外の方は多くいます。新しいことにチャレンジしたい人ができる環境を整えることや、「相談してください」といったアピールが必要ですよ。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる			取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出		
めざす姿	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。								
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。								

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	まちぐるみでのおもてなし	担当部署	商工観光課				
内容	・まちなか等の町民の自主的なイベントを応援するとともに、町民自らがまちのたからに誇りを持ち、その魅力を楽しみながら、おもてなしの心で観光受入に関わる人を増やします。 ・商業面と連携した誘客確保や観光協会等と連携した観光ガイド等観光受入体制の充実を図ります。								

数量的検証										質的検証									
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証				
指標名	観光入込客数（年間）過去3年平均									取り組み状況		今後の取り組み			検証結果	コメント			
基準値【R1】	623,900 人																		
目標値【R7】	650,000 人																		
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率										
令和3年度	550,000	535,948	97.4%																
令和4年度	550,000 人	458,202 人	83.3%							施策②	・日野ひなまつり紀行など住民主体の実行委員会形式で開催され、地元、事業者の皆さんの協力もあり、多くの観光客をもてなすことができました。 ・また、町民の方に、ひなまつり紀行の魅力を再認識してもらう為、元NMB48の内木志さんにアンバサダーとして起用し、外からの発信にも力を入れました。 ・周遊アプリ「ぐるりん日野ナビ」を活用しデジタルスタンプラリーを実施しました。また、本事業実施にあたり、期間中、地元飲食等事業者の皆さんの協力により、アプリを提示すれば商品の割引制度を実施、まち全体で新たな観光誘客に務めました。 ・街の賑わいを創出するイベント等を住民の方や民間企業の方が中心に担い、行政の施策にフックする形をとることにより、後方支援出来る形を作りました。	③	・令和5年度に実施される、町民の自主的な街の賑わいに繋がる事業等に対し検証し、町の支援制度について検討を行います。 ・町民等が自ら、町の魅力を発信し、本町への観光誘客に繋がる仕組みづくりに努めます。 ・周遊アプリ「ぐるりん日野ナビ」の内容を充実させ、商工事業者とも連携をはかり、本町への誘客と周遊促進に努めます。 ・本町出身以外の方にも、日野町の魅力を発信して頂き、町民の方に我が町日野の良さを再発見して頂けるよう努めます。	B	・住民主体のイベント等を町役場が支援していることは良く判りました。基本目標③施策№2の重要な点は「観光受入に関わる人を増やす」こと。「観光受入体制の充実」を図ることです。この点に関わる取組が見えてきません。住民主体の新たなイベントが企画・立案・実行されるのを支援する仕組みもみえてきません。 ・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の評価は、基本目標・基本的方向を踏まえて内部検証を行って下さい。「移住希望者の視点に立ち」「移住を後押し」する情報発信とはどのようなものかについて検証と支援制度の検討に際して工夫をして下さい。 ・観光などの交流から関係人口になり、移住・定住に結びつくのはどのような展開が必要なのか調査・検討を行って下さい。 ・②～⑤（内部検証）からは、住民主体のイベントに町役場は支援をする役割を果たしている和自己評価し、自らの仕事の範囲を限定しているようにみえます。移住・定住に結びつけるにはどうしたら良いのか検討して下さい。 ・本取組を通じて、住民自身がまちの魅力を認識していくような工夫が必要です。「観光受入に関する人を増やす」こととあわせて、住民の皆さんに知ってもらい、再認識してもらう方法を工夫して下さい。 ・町外の方が観光で訪れるきっかけはSNSでの情報源が主流です。懇話会に限らず、様々な場でSNSでの情報発信の重要性が意見されていますが、未だ町の公式アカウントがない状況です。もっと情報発信を大切にして下さい。 ・移住者に限らず、地元の方でも、創業等をする人が増えてきました。そうした人たちに対して、必要とされていることを把握することが大切です。 ・若い人たちが事業をはじめ、そこから「どうしたら町になってほしいか」というビジョンを描きながら取組を進めることが重要です。				
																基本目標 基本的方向を踏まえての状況④	⑤		
																		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】	
目標値【R5】	580,000 人																		
目標値【R6】	610,000 人																		
目標値【R7】	650,000 人																		

・日野ひなまつり紀行など住民主体の実行委員会形式で開催され、地元、事業者の皆さんの協力もあり、多くの観光客をもてなすことができました。
・また、町民の方に、ひなまつり紀行の魅力を再認識してもらう為、元NMB48の内木志さんにアンバサダーとして起用し、外からの発信にも力を入れました。
・周遊アプリ「ぐるりん日野ナビ」を活用しデジタルスタンプラリーを実施しました。また、本事業実施にあたり、期間中、地元飲食等事業者の皆さんの協力により、アプリを提示すれば商品の割引制度を実施、まち全体で新たな観光誘客に務めました。
・街の賑わいを創出するイベント等を住民の方や民間企業の方が中心に担い、行政の施策にフックする形をとることで、後方支援出来る形を作りました。

●実施していること
・住民主体イベントや農村体験事業は、まさに日野の資源を活用したおもてなしを主体としたイベントであり、交流人口の増加につながっています。また郷土愛の醸成にも寄与しています。
●実施できていないこと
・観光による魅力発信は実施しているものの、そこから移住につながる仕組みづくりは出来ていません。
●実施が困難なこと
・将来の移住につながる情報発信

・令和5年度に実施される、町民の自主的な街の賑わいに繋がる事業等に対し検証し、町の支援制度について検討を行います。
・町民等が自ら、町の魅力を発信し、本町への観光誘客に繋がる仕組みづくりに努めます。
・周遊アプリ「ぐるりん日野ナビ」の内容を充実させ、商工事業者とも連携をはかり、本町への誘客と周遊促進に努めます。
・本町出身以外の方にも、日野町の魅力を発信して頂き、町民の方に我が町日野の良さを再発見して頂けるよう努めます。

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・新たな顧客を増やせるよう、アプリ、SNS等を活用した観光誘客による人と人との出会いの機会の創出に取り組みます。
・町の移住施策と連携した観光事業の実施に努めます。

●今後の課題
・まちの魅力を住民が認識されていないこともあるため、定住促進のためにも様々な形で日野の町の魅力を発信していくことが必要です。

・住民主体のイベント等を町役場が支援していることは良く判りました。基本目標③施策№2の重要な点は「観光受入に関わる人を増やす」こと、「観光受入体制の充実」を図ることです。この点に関わる取組が見えてきません。住民主体の新たなイベントが企画・立案・実行されるのを支援する仕組みもみえてきません。
・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の評価は、基本目標・基本的方向を踏まえて内部検証を行って下さい。「移住希望者の視点に立ち」「移住を後押し」する情報発信とはどのようなものかについて検証と支援制度の検討に願って工夫をして下さい。
・観光などの交流から関係人口になり、移住・定住に結びつくのはどのような展開が必要なのか調査・検討を行って下さい。
・②～⑤（内部検証）からは、住民主体のイベントに町役場は支援をすると役割を果たしているとは自己評価し、自らの仕事の範囲を限定しているようにみえます。移住・定住に結びつけるにはどうしたら良いのか検討して下さい。
・本取組を通じて、住民自身がまちの魅力を認識していくような工夫が必要です。「観光受入に関わる人を増やす」こととあわせて、住民の皆さんに知ってもらい、再認識してもらう方法を工夫して下さい。
・町外の方が観光で訪れるきっかけはSNSでの情報源が主流です。懇話会に限らず、様々な場でSNSでの情報発信の重要性が意見されていますが、未だ町の公式アカウントがない状況です。もっと情報発信を大切にして下さい。
・移住者に限らず、地元の方でも、創業等をする人が増えてきました。そうした人たちにに対して、必要とされていることを把握することが大切です。
・若い人たちが事業をはじめ、そこから「どうした町になってほしいか」というビジョンを描きながら取組を進めることが重要です。

51

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	地域資源を活かした体験型観光の推進	担当部署	商工観光課					
内容	・ 近江日野商人、自然、歴史文化、町並み等の地域資源を活用した取り組みへの観光誘客を促進します。また、地元商店等と連携した観光の取り組みの促進により、関係人口の増加を図ります。 ・ 体験型観光については、日野の魅力を生かした体験を推進し、更なる誘致を進めます。また、都市農村交流の意義等を住民に理解してもらえよう、情報発信に積極的に取り組みます。									

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	農泊受入人数									取り組み状況	今後の取り組み		検証結果	コメント	
基準値【R1】	3,563 人														
目標値【R7】	4,000 人														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	300	0	0.0%												
令和4年度	1,000 人	166 人	16.6%							②	・新型コロナウイルス感染症の影響は緩和されつつあった令和4年の観光客は約50.6万人となり、令和3年（約46.5万人）と比較し、4万人の増加となりました。2年ぶりとなる氏郷まつりの開催などの町内イベントの開催を、感染症対策を万全に講じることで実施することができました。 ・町が今まで取り組んできた農村体験事業については、日帰りの受け入れを推進し、完全な受入再開とはなりませんでした。完全な再開を見据えたの受入家庭との結びつきや情報発信に取り組みました。	③	・町の資源（歴史、自然、文化等）を活用した観光誘客を観光協会等の関係機関と連携して推進していきます。また、コロナ後の観光客誘客に向け、観光指針を定め、増客に努めます。 ・体験型観光は、宿泊を伴う教育旅行の再開を実施することとなったため、リピーター校の回帰のために営業活動や受入家庭拡大に向けた取り組みを推進していきます。	B	・R4は、コロナ禍の影響があり、農泊も完全な受入ができていないこともあり、①（施策の取組状況）のKPIが低いのはいたしかたないと考えます。 ・農泊以外で地域資源を活用した取組がみえてきません。「観光指針」を定めることで、何が改善されるのか、どう改善されるのか説明して下さい。 ・⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において「農村体験の受入家庭の高齢化」が指摘され、「受入家庭数の確保が困難になる」との課題が示されています。今後の課題は「受入家庭」を増やすことではないでしょうか？受入家庭を増やす施策を検討・実施して下さい。受入家庭を増やすことを実現するためにも、住民自身が日野の良さを再認識したり、「観光受入」に関わったりと、関心を持ってくれる住民の裾野を広げる総合的・体系的な政策思考と施策の連携を工夫して下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の検証は、基本目標・基本的方向を踏まえ、移住・定住に結びつく魅力あるまちづくりを検討して下さい。
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】								①		16.6%		④		●実施していること ・ウィズコロナの観光推進として、感染症対策を講じることで、屋内外問わず、観光イベントを実施することができました。 ・体験型観光では、日帰りの受入を再開することができ、宿泊の受入再開に向け、受入家庭への研修やモチベーション維持につながる活動を実施しました。 ●実施できていないこと ・交流型観光の実施が困難であったため、移住につながる事業は出来ていません。 ●実施が困難なこと ・特になし。
目標値【R5】	2,000 人														
目標値【R6】	3,000 人														
目標値【R7】	4,000 人														

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる			取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備		
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。								
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。								

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	地域の移動手段の充実	担当部署	交通環境政策課				
内容	・潜在的な公共交通の需要を掘り起こすため、調査・意見交換など実態の把握を進めます。 ・路線バス・町営バス・デマンドタクシーなどの交通インフラの整備をめざし、だれもが社会生活を快適に送れるよう持続可能な公共交通の仕組みを構築します。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	町内の公共交通機関の住民1人あたりの年間利用回数									取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R1】	12.8 回/人														
目標値【R7】	14.0 回/人														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	12.8	11.4	89.1%												
令和4年度	13.0 回/人	12.6 回/人	96.9%							施策②	・公共交通への転換に向け、工業団地での通勤バス実証実験のほか、自転車通勤体験事業を行いました。 ・公共交通の利用促進と環境保全について考えるカーフリーデーを実施し、併せてにぎわいづくりのイベントを開催しました。 ・昨年度に引き続き住宅地での通学バスの実証実験を行いました。 ・町営バスの利便性が低いエリアでAIオンデマンド交通の実証実験の運行を3月から開始しました。 ・人流データを用いた事前調査や需要確認、また実証実験の効果について可視化し、検証を行いました。	③	・実証実験結果や人流データを活用し町営バス等の交通インフラ整備に向け検討を進めます。 ・バス路線がなく、自家用車の通勤の多い企業へ新たにニーズ調査を行い、一定の利用者が見込めれば路線化に向け、工業団地での通勤バスの実証実験を行います。 ・AIオンデマンド交通の実証実験の効果検証を行い、生活移動等のニーズを反映した本格運行やエリア拡大の検討を進めるほか、「おたすけカゴヤ」とも連携を図ります。 ・日野駅やまちなかでのにぎわいづくり、町内周遊の取り組みを進め、公共交通の利用促進を図ります。	A	・移住実態や住民ニーズを把握するためのデータ収集、アンケート調査、通勤バスの実証実験など持続可能な公共交通の仕組みづくりに向けて活発な取組がなされていることが判ります。積極的な取組は高く評価します。「調査→路線化」の可能性を積極的に探っていることを高く評価します。 ・一方で「調査→路線化」の動き以外のデマンドタクシーや「おたすけカゴヤ」などの領域は少し後方に退いているようにみえました。住民主体の取組である「おたすけカゴヤ」は先駆的であり、住民自身が地域の公共交通を守ろうという意識の涵養にもつながります。 ・基本目標③施策No.4「地域の移動手段の充実」は、地方共通の悩みです。交通需要、住民ニーズに対応した公共交通バス路線化は「住民ニーズの充足」「だれもが社会生活を快適に送れる」という意味で良いことですが、それに伴う財政負担、住民の負担状態を精査する必要があります。町営バス、路線バスの空白を埋める仕組みを住民の主体的取組である「おたすけカゴヤ」なども活用してつくる必要があります。 ・マイカー通勤から公共交通への転換はメリットが見えないとなかなか難しいのではないでしょうが、在住外国人も増えてきており、自転車通勤をしている人も多くいるなかで、バス通勤できる環境があればと思うが、バスに合わせて就業時間を調整しなければならないことや、残業で遅くなったときに帰る術がなくなってしまうことなど課題が多いように感じます。 ・また、学生インターンや採用募集の段階で、公共交通がないという理由で応募の対象から外されることもあります。人材確保の面からみても重要なので、第二工業団地内でも協議していきたいです。
目標値【R5】	13.3 回/人														
目標値【R6】	13.7 回/人														
目標値【R7】	14.0 回/人														

KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】

①

96.9%

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	U・Jターン受入の充実	担当部署	企画振興課	建設計画課			
内容	・地域の特色ある取り組み等を通じて、子どもたちにまちへの誇りと愛着を持たせ、転出しても継続的に地域と関わることができるつながりづくりを創出します。 ・U・Jターン受け入れの充実が図れるよう、町民への理解を働きかけます。 ・日野町空家等対策計画に基づき、適切な対応に努めるとともに、空き家の利活用の補助制度に取り組みます。								

数量的検証										質的検証									
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証					
指標名	定住に関する相談件数			空き家・空き地情報登録制度での移住定住者数（累計）						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント				
基準値【R1】	22 件			142 人															
目標値【R7】	27 件			230 人															
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率										
令和3年度	23	27	100.0%	170	188	100.0%													
令和4年度	27 件	15 件	55.6%	185 人	200 人	100.0%				②	・日野町への移住・定住を希望される方へ地域特性や行事、自治会活動の紹介等まちの魅力を伝えるとともに、移住・定住に必要な情報である子育て情報、求人情報等を活用し、相談に応じました。 ・オンライン移住セミナーの開催や移住希望者からの相談対応、移住専用サイトや移住スカウトサービス「SMOUT」を活用してまちの魅力を伝えました。 ・空き家等の所有者向け、家屋敷課税の通知にチラシを同封する等、空き家等の流通促進を図りました。 ・住民向け、広報紙やチラシ等で制度の周知を図るとともに、自治会役員との顔合わせの場を設定し、移住者の自治会活動への理解や地域住民が移住者を迎えやすい体制づくりを図りました。 ・日野高校で出前講座を行い、空き家の問題や空き家バンク等に関する地域の特色ある取り組みについて紹介しました。	③	・引き続き、出前講座や行政懇談会、自治会との懇談の機会に、空き家情報登録制度を通じて、移住者を受け入れることへの理解を促すとともに、自分たちが暮らす地域の魅力を考え直す機会となるよう働きかけます。 ・空き家家利用希望者数に対して、空き家登録物件数が不足している状況が常態化していることから、空き家物件登録数の増加に向け、さらに地域との協力体制を構築するほか、空き家物件を手放す際の課題を解決できるような取組を進めていきます。 ・SMOUTやホームページ、移住専用サイト等のさまざまな媒体を通じて、移住施策に関する情報発信を行います。	A	・KPI「定住に関する相談件数」が昨年より12件減っているのは少し気になります。このような時は分析しましょう。移住定住者も目標より超過達成していることは高く評価しますが、空き家不足のためか、移住者も鈍化しているかもしれません。動向をしっかりと分析して下さい。 ・②（施策の取組状況）で日野高校への出前講座を行い、空き家問題を若い人知ってもらえる機会をつくったことを高く評価します。また、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての今後の取組）において、外国人労働者が増加している現実を踏まえ、「誰もが住んで良かった」と思えるまちにしようと考えている点を高く評価します。 ・相談窓口にとどりつく人を増やすために、基本目標・基本的方向を踏まえた移住・定住につながる情報発信に努めて下さい。全体的に町外への発信に重点があるようにみえます。町外への発信そのものが、町内在住の住民の心に響くものとなり、愛着を高め、定住を促すように工夫して下さい。 ・所有者不明の家や住めないような家の処分・活用などを検討して下さい。（お試し居住等） ・住民が「増えること」に重きを置いて、思い切った施策が必要ではないでしょうか。 ・日野高校への出前講座など、空き家の問題や危険性を伝え「どう感じたか」というのも大切です。空き家を早く活用することで地域の財産になり、まちを良くすることにつながるといった「まちの可能性」を見つければいいところまで結びつけることが大切です。				
																④	●実施していること ・移住スカウトサービスSMOUTやホームページ等で移住者の体験談や短編映画「ひのくらし」等を紹介し、日野町での暮らしをイメージしやすくなるよう工夫しました。 ●実施できていないこと ・移住に関する問題把握や移住者同士のつながりをつくるために実施していた移住者懇談会が、コロナ禍ということもあり、開催できませんでした。 ●実施が困難なこと ・日野町での暮らしを具体的にイメージできるようにするためには、移住の総合相談窓口のほか、移住体験できる仕組み、移住後のアフターフォローなど一体的な体制づくりが必要であると考えますが、人的、財政的な課題から、体制の確立ができていません。	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ・まちの「たから」を生かした人と人の交流や子育て支援の充実を積極的にPRするとともに、日野町での暮らしがイメージしやすくなるよう関係課と連携し、さまざまな機会を通じて情報発信していきます。 ●今後の課題 ・地域の行事やイベントの情報発信や移住者のネットワーク等から、地域住民とつながり、日野に住みたいと思うような取組をすすめるとともに、実際に日野町での暮らしが体験できるお試し住宅等の取組を行う体制づくりが必要です。 ・町内の外国人入居者数が増加するなか、誰もが日野町に住んで良かったと思えるまちとなるよう、外国人労働者を多く雇用する町内企業や関係団体と連携した受け入れ体制の整備とともに、地域への理解を促す体制づくりが必要です。
							KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】												
目標値【R5】	27 件			200 人															
目標値【R6】	27 件			215 人															
目標値【R7】	27 件			230 人															

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信	担当部署	企画振興課				
内容	・町の様々な取り組みやイベント、おすすめスポット等、町民自らがこの町の良さを知り、発信できるための情報を共有する仕組みづくりに取り組みます。 ・収集した情報を、住民や企業と行政が連携し、SNSを活用したタイムリーな発信ができるよう仕組みづくりに取り組みます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	「日野め〜る」の登録者数			町ホームページアクセス数						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R2】	3,157 人			3,065,615 アクセス											
目標値【R7】	4,000 人			4,400,000 アクセス											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	3,200	3,954	100.0%	3,400,000	4,232,402	100.0%									
令和4年度	3,970 人	3,740 人	94.2%	4,250,000 アクセス	4,571,919 アクセス	100.0%				施策②	・ホームページ管理システムの最新版へのバージョンアップを行い、常時SSL化等によるセキュリティ強化やモバイル端末での利用の最適化、自動翻訳サービスの翻訳対象の拡充を図りました。 ・滋賀県で導入された移住スカウトサービス「SMOUT」等を活用して移住施策の情報発信を行いました。	③	・誰しもが使いやすいホームページとなるようトップページのデザイン修正を行います。 ・組織を横断して総合的・戦略的にアプリやWebサイト等を活用できるよう検討を進めます。	A	・KPI「日野め〜る」の登録者数が214名減っています。電子メールによる情報提供は情報発信メディアの多様化の中でも重要な位置を占めていると思われます。メール登録者数を増やすための工夫をして下さい。行政懇談会や日野高校の出前講座の機会など役場が住民のもとに行った時には登録を呼びかけたりしてみてください。 ・住民の使用するSNSの多様化にも対応して下さい。 ・基本目標③施策№6の取組内容は、町役場による情報収集と発信にとどまらず、町役場の発信した情報を住民がさらに発信することを想定していたり、SNSを通じて、住民・企業・行政の連携したタイムリーな発信まで考えているようですが、そうした住民側の動きまでは全くみてこない内部検証です。 ・滋賀県の「SMOUT」を活用した情報発信に注力している点は評価しますが、住民・企業・行政との連携など広がりのある取組を検討し、実施して下さい。 ・移住施策等の情報発信は組織を横断した「横のつながり」が重要です。
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	97.1%							
目標値【R5】	3,980 人			4,300,000 アクセス											
目標値【R6】	3,990 人			4,350,000 アクセス											
目標値【R7】	4,000 人			4,400,000 アクセス											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活弁な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活弁な自治活動につながる、人と人につながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	次代を担う人材の発掘	担当部署	生涯学習課	企画振興課			
内容	・まちへの愛着や誇りを感じ、地域の困りごとを解決するため、住民一人ひとりが社会活動や生活のなかで培ってきた豊かな経験や知識を活かし、共に知恵を出し合い、共に汗をかく人づくりを推進します。 ・ボランティア活動の楽しさ、やりがいを感じてもらふ機会を増やすため、小・中・高等学校や大学と連携し、ボランティア事業、地域づくり事業の開拓と、人材の発掘と育成に努めます。								

55

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	まちづくり計画の策定自治会数（累計）			公民館利用者数						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R1】	16 自治会			86,695 人											
目標値【R7】	24 自治会			88,000 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	20	21	100.0%	87,130	58,335	67.0%									
令和4年度	21自治会	22自治会	100.0%	87,348人	62,617人	71.7%	施策②			③	A				
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	85.8%	基本目標 基本的方向を踏まえての状況④	⑤					
目標値【R5】	22 自治会			87,565 人											
目標値【R6】	23 自治会			87,783 人											
目標値【R7】	24 自治会			88,000 人											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり	担当部署	生涯学習課	企画振興課			
内容	・住民団体やボランティア、企業・事業所等多様な担い手による主体的なまちづくりを推進するため、団体同士の交流ができる仕組みを作り、地域の課題解決に向けた、協働のプロジェクトの創出等に取り組みます。								

数量的検証										質的検証						
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証		
指標名	団体同士の交流の機会の創出（累計）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント			
基準値【R2】	0 回															
目標値【R7】	5 回															
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率							
令和3年度	1	2	100.0%													
令和4年度	2回	2回	100.0%							②	・令和3年度から各公民館を利用する各種団体、個人が実行委員会を組織し、地域の課題解決のため、多世代交流ができる提案型活動事業を日野、東桜谷、西桜谷、西大路の4地区が実施しました。 ・子育て環境がよりよくなるよう孤立しがちな人や家庭をつなぐこと、町内で活動されている団体同士をつなぐことを目的に（一社）こそだてがめっちゃたのしくなる会、NPO法人スーブル、少年センター、社協、子ども支援課の共創による日野町FUDO DRIVE+α実行委員会が立ち上げられ、日野町子育て応援フードドライブや日野町子育て応援プロレス等の取組が行われています。	③	・「提案型活動事業」を7地区とも取り組めるよう、推進していきます。 ・地域で活躍している団体等の取組について、積極的に接点をもち、地域で活躍している人同士が、地域課題を共有し、課題解決に向けた、協働のプロジェクトの創出をめざします。	A	・KPIの設定がアウトプットのためのため、実質的に前進したかどうかとは無関係に達成度が測定されてしまいます。さらに累計なので、昨年度は実施しなくても昨年度までの経過達成で達成しているのはいかなるものでしょうか。 ・提案型活動事業の取組地区が拡大していること、全地区に拡大しようとしている意気込みは高く評価します。こうした活動から地区横断、全町規模の活動団体が育つように支援をして下さい。 ・公民館起点の「提案型活動事業」のためか、④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）に列挙されている取組が、地域活動色がやや強く出ているような印象です。こうした活動から基本目標④施策№1で取り組む「次代を担う人材の発掘」や人材育成になるように施策の工夫が必要です。 ・基本目標④施策№2の取組は、町内の取組団体同士の交流をすることで、相互に学びあい、自分たちの取組のバージョンアップを図ったり、創意工夫を促すことが目的です。交流の場づくりは重要です。また、内部検証が、各種の取組の追跡にとどまっておき、様々な取組から、住民が主体的に動き出す学びと成長の実質化もみつけ出し、相互の学びに結びつけてください。 ・公民館でのサークル活動により、参加者が公民館との関係性を深め、趣味から地域活動への参加者につながるようになると良いのではないのでしょうか。 ・公民館が、人が有機的につながる場となることで、自身の課題が社会の課題であることに気づき、地域の課題解決につながる流れをつくる素地があり、どのように仕向けていくかが大切です。 ・住民自らが地域の課題解決に取り組むまちをめざすため、まずは公民館にきてもらう工夫が必要です。	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	100.0%				
目標値【R5】	3 回															
目標値【R6】	4 回															
目標値【R7】	5 回															

●実施していること
・日野：日野地区多世代交流事業（花いっぱい運動、防災かまどベンチ体験）、東桜谷：おうけいふえす（シャボン玉フェス、カフェストリート演奏）・さくらほうさい428（飛び出し坊や作成、防災ランタンづくり）、西桜谷：コミュニティの輪「一服堂」（まるやま席席、カホンサークル&弾き語り）・みんな集まれに西桜谷キッズフェス（キッズフェス、子ども工作会）、西大路：西大路すまいるあくしょん2022（花の名所づくりとマフリ、イルミネーションづくり）を実施しました。
・住民組織が実施する地域課題の解決、地域資源の活用等につながる地域活動への補助金制度を設けています。
●実施できていないこと
・7地区のうち、3地区が事業に取り組めていません。
・団体同士の交流ができる仕組みづくりが進められていません。
●実施が困難なこと
・特にありません

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・地区それぞれの団体や地域の特性を生かしながら、地域課題解決に向けた取組を進めます。
・少子高齢化、人口減少が進むなか、誰もがまちづくりの主体となれるよう、各種団体やNPO等の法人、少人数グループによるさまざまな活動を支援し、協働のしくみづくりを進めます。
●今後の課題
・地域の人口差により人材の数が異なり実施できる事業にも差が出ます。地域外からの人材の活用も含め地域の規模にあった事業を行うことが重要です。
・協働のしくみづくりを進めるうえで、企業・事業所等も含めた多様な担い手を巻き込んで進めていくこと、また、次代を担う学生にもつなげることが必要です。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	多文化共生の推進	担当部署	企画振興課				
内容	・在住外国人の方が地域の一員として安心して暮らせるための相談体制づくりと地域づくりのための啓発活動や交流の場づくりに取り組みます。								

数量的検証										質的検証									
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証				
指標名	「語学講座」の受講者数									取り組み状況		今後の取り組み			検証結果	コメント			
基準値【R1】	23 人																		
目標値【R7】	30 人																		
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率										
令和3年度	25	20	80.0%																
令和4年度	25 人	13 人	52.0%							施策②	・在住外国人が安心して暮らすとともに、地域住民と交流するきっかけづくりとして、広報ひので母国語の簡単なあいさつや文化を紹介しました。また、HPで「やさしい日本語」の自治会活動に役立つ例文集を紹介しました。 ・英会話教室を10回、韓国語講座を5回開催し、多文化共生の促進と外国人との交流の場づくりを行いました。 ・国際親善協会と連携し発行した機関紙「友好の輪」で外国人と住民がともに暮らすために取り組んでいる地域や学校の取組を掲載し、地域で活かしていただけるよう啓発しました。 ・国際親善協会と連携し、在住外国人と一緒に海外の料理を調理・販売することで、在住外国人と地域住民が交流できる場を提供しました。 ・多文化共生の推進として、多文化共生講演会を開催しました。 ・HPの自動翻訳システムの対応言語を4か国語から6か国語に増やしました。	③	・引き続き、在住外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、外国の文化や慣習等を「広報ひの」やHPで周知し、理解促進を図るための啓発を行います。 ・外国人に必要な情報を引き続き提供できるよう、情報発信の強化に努めます。 ・引き続き、外国語講座を開催すると共に外国人向けの日本語講座の開催に向けて検討をしていきます。 ・引き続き、多文化共生の促進を図るため、在住外国人等と地域住民との交流の場づくりに取り組みます。	B	・KPIの「語学講座」の受講者数が減少したことは、コロナ禍の影響など複合的要因によるものと推察しますが、講座開催のあり方を再検討して下さい。講座の目的と効果を検討し、効果的な事業に改善を図って下さい。講座の受講をきっかけとした外国人との交流を促す住民側のコミュニティ（団体）づくりにつなげて下さい。 ・④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）で「外国人のニーズ把握や困り事の相談体制づくりが確立していない」とありますが、これを確立することを急いで下さい。 ・今後、急速な移民社会になり、製造業以外にも外国籍の労働者が頼りにしていくことが予想されます。そうした流れに早急に対応して下さい。 ・啓発活動や場づくりから、多文化共生の推進を行うだけでなく、外国人のコミュニティづくり、そのコミュニティの日常的交流を行える住民のコミュニティ（団体）等を育成する施策を工夫して下さい。そうした施策から基本目標④施策№1、2への波及効果も起きるように施策を工夫してください。 ・在住外国人と地域の人々が、地域でお互いがどのように関わることが大切です。行政としても地域となじめるようなきかけづくりに取り組んで下さい。				
																基本目標 基本的方向を踏まえての状況④	●実施していること ・日野町国際親善協会と連携し機関紙「友好の輪」に取組を掲載し啓発を行いました。また、自治会で活用いただけるように、HPで「やさしい日本語」の自治会活動例文集を掲載し、地域のコミュニティ活動を支援しました。 ・在住外国人と一緒に海外の料理を調理・販売し、在住外国人と地域住民が交流できる場を提供することで、人と人とのつながりと食育を推進しました。 ・在住外国人が地域住民と交流し新たな人と人のつながりを生むために、日本語教室が有効と考えます。外国人のニーズをはじめ開催手段や運営方法等仕組みの検討を始めています。 ●実施できていないこと ・外国人のニーズ把握や困りごとを相談できる体制づくりが確立できていません。 ●実施が困難なこと 特にありません。	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ・引き続き、在住外国人と地域住民がともに安心して暮らしていくため、講演会等を開催し、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係のもと地域の中でともに生きていく「多文化共生社会」について考えるきっかけを提供します。 ・引き続き、交流から新たな人と人のつながりを育むため、外国人等と住民との交流の場づくりに取り組みます。 ・外国人と住民がともに暮らすために取り組んでいる地域の取組を周知・啓発することで、安心して住み続けられるまちをめざします。 ●今後の課題 ・外国人の方が地域の一員として暮らせるように、「多文化共生社会」についての更なる理解が促進する取組が必要です。 ・外国人と住民が交流できる場等の情報を外国人に提供できる情報伝達手段を検討する必要があります。 ・外国人が安心して住み続けられるよう、外国人の困り事やニーズ把握や困りごとを相談できる体制づくりを検討する必要があります。
目標値【R5】	27 人																		
目標値【R6】	30 人																		
目標値【R7】	30 人																		

KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】

①

52.0%

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組み№	5	具体的な取り組み	支え合いの仕組みづくりの促進	担当部署	福祉保健課	長寿福祉課			
内容	・住み慣れた地域での暮らしを守るため、地域の住民みんなで助けたり助けられたりの「おたがいさま」の意識を高め、地域の福祉の関係者が地域福祉を気軽に担える体制づくりを推進するとともに、社会福祉協議会や地区社協等と連携し、助け合いの地域づくりを推進します。 ・生活支援コーディネーターを中心に地域での話し合いに取り組み、地域の商店や民間事業者の協力のもとで、地域の実情に見合った体制の整備に取り組みます。 ・地域住民、多様な関係者とともに、高齢者、障がい者、子ども、子育て家庭、生活困窮者、悩みをかかえる若者等を「丸ごと」支え合う地域づくりに取り組みます。								

数量的検証										質的検証						
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証	
指標名	ひきこもってしまった人が居場所を通して就労（福祉就労含む）につな がった人数			ひきこもってしまった人の居場所を 利用する人数			ボランティアの方が障がいのある方 と共同で事業を行う回数			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント			
基準値【R2】	0 人			5 人			0 回									
目標値【R7】	3 人			7 人			1 回									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率							
令和3年度	1	1	100.0%	3	4	100.0%	1	0	0.0%							
令和4年度	1人	0人	0.0%	4人	14人	100.0%	1回	0回	0.0%	施策②	③	B	・R4もコロナ禍の影響から実施できなかった企画・事業が多数あったものと推察します。ボランティアの方と障がいのある方との共同事業も実施できず、KPIが達成できなかったことはいたしかたないと思います。KPIの達成率が低かったこともいたしかたないと思います。 ・KPIの数値目標を達成することを直接的な取り組みによって、実現することも必要でしょうが、「丸ごと」支え合う地域づくりの取組全体から実現できるように視野を広くもち戦略的にすすめて下さい。 ・東桜谷、西大路、西桜谷における先駆的取組を町内全体に地域特性に合致した形で広められるように様々な取組を工夫して下さい。 ・ひきこもりの実態調査の実施など、サポートの必要な方を適切に把握しようとしていることを評価します。町社協、生活支援コーディネーターの活躍に大いに期待するとともに、基本目標④施策№1、2とも連携して、支え合いの風気を高め、支え合いに加わる住民の裾野を広げる取組を工夫して下さい。 ・「隠れた引きこもり対象者」発掘のためのインターネットのアンケート調査は、人権に配慮した形で実施して下さい。			
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】													①	33.3%	
目標値【R5】	2 人			5 人			1 回									
目標値【R6】	2 人			6 人			1 回									
目標値【R7】	3 人			7 人			1 回									

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み 食育・地産地消の推進	担当部署 福祉保健課	農林課			
内容	- 子どもから高齢者まですべての年代の方が望ましい食習慣を実践するとともに、地場産物を活用した取り組みを実施し、地域の食文化や伝統を学ぶための食育に取り組みます。 - 安心安全な農産物を生産し安定供給できるよう生産者の技術向上の促進に取り組むとともに、直売所や学校給食への地場農産物の供給拡大が図れるよう農業振興の支援を行います。 - 子どもや消費者に対して、食育や農薬体験等を通じて地産地消への認識と理解を図ります。 - 安定した地産地消を推進するため、供給体制の確立に向け、町内生産者や関係機関との連携を図ります。						

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	生活習慣の改善に関心を持っている、または実施している住民の割合（健診アンケートより）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	72.6 %														
目標値【R7】	75.0 %														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	73.0	74.0	100.0%												
令和4年度	73.5 %	74.0 %	100.0%							②	・わたむきの里が、中山間地域の空いた田を中心的に引き受けお米作りを行うことで、農地が豊地として利用され、耕作放棄地の発生防止に繋がっています。また、作業所の工費アップが図れています。 ・わたむきの里が味や品質にこだわった米作りを進め、小学校の給食に使用しています。また保育園児が障がいのある方と交流する中で田植え体験を行いました（収穫体験は天候により中止。本来は田植えから収穫、収穫した米を食べることで食について学ぶ取組となっています）。 ・地域の作業所による日野菜の加工作業（ひげとり）に取り組んでいます。 ・地産産物を使用した献立や、郷土料理の献立を取り入れ、給食を通じて地元の食文化・歴史・伝統を学ぶ取組を行っています。 ・農業委員会の特産・食育委員会活動や、たんぼのご体験授業を通じ、小学校と連携し、農作業の栽培から収穫までの体験や収穫された作物を使った調理体験により、地域の伝統的な食文化、地産地消について学ぶ取組を行っています。	③	・障がいのある方による農業の取組や作った米の給食での使用、保育所との米作り体験を通して、子ども達が食について学ぶ取組を継続して進めます。 ・引きつづき、わたむきの里や地域農業者の共同により、優良な農地を未来に繋いでいくための取組を支援します。 ・保育・幼稚園、小・中学校と連携し、将来農業に従事される方を増やせるよう取り組みます。 ・食育学習と啓発活動を通じ、住民の皆様が、幼児期から成人期まで、繰り返し食に関心をもち、考える機会を作っていきます。 ・農業委員会の特産・食育委員会や小学校と連携し、農作業体験を通じ、地域の伝統的な食文化、地産地消について学ぶ取組を行います。 ・東近江地域農業センターを通じて、県・JA・市町村と連携し、営農・農作業安全・風水防止等の啓発、近江米や野菜等の栽培技術研修会に取り組みます。	A	・基本目標4 施策№6の取組は、生産側に働きかける供給側の施策（生産力の向上、品質向上につなげる施策）、消費者側に働きかける消費者としての住民側への施策（食育等により食習慣の改善に取り組むこと）とに分かれ、後者の消費者側の変化が、町内産を選ぶように需要増大につながらなければなりません。需要増大につながる道すがりにみえにくいことです。 ・地産地消で、町内産を購入することで地元への経済波及効果を可視化するなど知識から行動につなげるためにも必要な情報を提供して下さい。消費者側への施策は、情報提供などを行って行動変容を促す手法が多いので、一層の工夫が必要です。 ④（基本目標・基本的方向を踏まえた取組状況）でできていないと認めている「生産者、販売者と消費者をつなぐ取組」は重要です。消費者に町外の方も入ってもらえる和交流人口、関係人口の増えをきっかけとするので、マルシェ企画などを住民主体で実施できるように努めて下さい。 ・「すべての世代が望ましい食習慣を実践すること」は難しい取組でしょうが、食習慣の確立のためにあらゆる機会を上手に活用して下さい。 ・基本目標4 施策№7との連携を検討して下さい。 ・安定した地産地消を進めるため、庁内生産者やJAなどの関係機関と連携を図って下さい。
		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】						①	100.0%	④	●実施していること ・わたむきの里が担い手のなくなったたんぼを借り受け米作りを行うことで、耕作放棄地の解消という地域課題解決の一助となっています。また、米作りの体験や給食における使用により、子ども達が食を学ぶことができます。 ・わたむきの里が日野菜栽培から加工・販売を行いました。 ・地場産週間・給食週間で、献立を通じて地産地消や町の食文化を学習しました。 ●実施できていないこと ・住民が自身の経験、知識を活かし、未来の担い手を発掘、育成していく取組ができていません。 ・生産者、販売者と消費者をつないでいく取組ができていません。 ●実施が困難なこと ・生産者の技術向上の促進について、町には農業技術の専門知識を有する職員がおらず、営農指導に長けた果農産普及課やJA等関係機関と連携した取組が必要不可欠です。	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ・障がいのある方が過半数を占める作業所と地域農家が共同で実施する農地を守り続けるための取組を継続しています。障がいがある方が地域に出て、地域課題解決の一助を担うことで、障がい者理解の促進や顔の見える関係の構築による障がいのある方の見守り等により、安心して住むことのできる地域づくりを進めます。また、障がいのある方と子どもが交流する機会を生かし将来福祉を担う人材育成の視点を大切にします。 ・すべての世代が望ましい食習慣を実践するには、食に関する知識や意識だけでなく、食材の購入（経済的困窮、移動手段の問題）、調理者の生活実態等、さまざまな要因があります。住民の実態を知り、考えることが大切です。 ・今後子ども達にまちへの愛着や誇りを感じてもらおう、地元の食文化・歴史・伝統を学ぶ仕組みによって、学校だけでなく家庭・地域で、次代を担う人材づくりを進めていきます。 ●今後の課題 ・地産地消を進めていくには、生産者が安定継続して栽培出荷できる体制はもちろん、消費者が地元食材を安心して利用いただく供給体制の周轉が大切です。また、食品の選択の際、消費者が自立的に地産地消を意識できるよう工夫を進める必要があります。		
目標値【R5】	74.0 %														
目標値【R6】	74.5 %														
目標値【R7】	75.0 %														

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきすなはもとより、地域の人と人のつながり（きすな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	心身の健康づくり	担当部署	福祉保健課				
内容	・健康推進員の養成とその活動を支援し、「自分の健康」、「家族の健康」、「地域の健康」へと健康の輪を広げ、住民全体の健康意識を高めていけるよう取り組みます。 ・健（検）診の実施と生活習慣病を予防し、健康でいきいきと暮らせるよう、住民の健康意識を高め、生涯にわたり継続した健康づくりに取り組みます。 ・心の健康や精神疾病に関する正しい知識や対策等の普及に努めるとともに、悩んでいる人に寄り添い、かわりを持つことで「孤立・孤独」を防ぐことができるよう取り組みます。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	特定健診受診率									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	39.4 %														
目標値【R7】	39.9 %														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	39.5	34.1	86.3%												
令和4年度	39.6 %	38.7 %	97.7%							②	③	A	・基本目標④施策No6、7を連携させる工夫をして下さい。食生活習慣の改善から心身の健康づくり、そして地域への愛着や誇りにつながるような取組を期待します。 ・特定健診受診率を引き上げる取組は、独自の意味も持つ重要な取組です。未受診者への健康状態の把握の取組も含めてあらゆる方法、効果的な方法を検討し、実施して下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証は、基本目標、基本的方向を踏まえて行います。④（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況）の「実施できていないこと」で挙げている「健診未受診者」の件でも、住民の自主的な学びあい、自治活動を基盤にした取組の中で、健診の受診を促すなど施策の工夫を行っています。		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】								①	④	⑤				
目標値【R5】	39.7 %														
目標値【R6】	39.8 %														
目標値【R7】	39.9 %														

●実施していること
・健康推進員養成講座を実施し、17名が終了しました。健康推進員の皆さんが、公民館や学校、幼稚園で活躍いただき、健康についてロコミで広めていただくことで、住民の健康への意識向上が図れるよう支援します。
●実施できていないこと
・健診未受診者で健康状態の未把握の層に対する取組ができていません。
●実施が困難なこと
・生活習慣病での定期通院は、食生活や運動習慣等の生活習慣の改善も重要です。しかし、医療機関も多忙を極めており、予防的な医療についての連携が進みにくい状態です。

●基本目標、基本的方向を踏まえて
・ご自身の健康を大切にする意識を高めるため、町の健康課題にそった改善策の情報提供、健診の受診率向上をめざした啓発、医療機関や町の健康相談などの相談機会等の周知を行います。
・健康推進員においては、地域と親しい人にもロコミで、自然と健康の話ができるよう進めます。
・家庭の中で、子どもから大人へ食についての話ができるよう、幼・保育園、小学校等への食育に取り組みます。
●今後の課題
・健康推進員については、地域からの推薦が難しい状態が続いています。地域の健康を支えるボランティアとして、やりがいを持っていただけるよう、自主的な参加者が増加するよう、健康推進員の活動をPRすることが必要です。また、既存の会員のモチベーションのアップのため、活動支援の充実が必要です。
・国保加入者以外の働く世代（職域）においては、各保険者が健診と事後指導を行うこととなっており、健康課題が把握できていません。職域と町との健康課題の共有、健康づくりの連携が必須です。

62

取り組み№	8	具体的な取り組み	高齢者のいきがいづくり	担当部署	長寿福祉課				
内容	・高齢者が、年齢を重ねても、いつまでも活躍できるよう社会参加が継続できる環境づくりを進めます。								

目標値【R5】	26 個体			
目標値【R6】	28 個体			
目標値【R7】	24 個体			

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	9	具体的な取り組み	健康づくりと介護予防の一体化	担当部署	長寿福祉課				
内容	・地域での介護予防の取り組みを進めるとともに、保健事業と一体となった専門職や住民リーダーとの連携による、健康づくりや介護予防の取り組みを進めます。								

数量的検証										質的検証														
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証									
指標名	介護予防ボランティア養成数（延べ）									取り組み状況					今後の取り組み					検証結果		コメント		
基準値【R2】	319 人																							
目標値【R7】	385 人																							
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率															
令和3年度	319	319	100.0%																					
令和4年度	329人	339人	100.0%							②	・介護予防ボランティア養成講座は、町社協とともに広報に努め、合計で数十名の受講があり、ほとんどが修了されました。自身の健康寿命への関心を通じ、地域の高齢者の健康維持に関するボランティア活動の意義を伝えたことで、多数が運動指導サポーターの新規登録をされました。 ・介護予防に係る出前講座に協力いただく等、ボランティアの活躍の場を増やす取組を行いました。 ・保健事業と介護予防の取組のため、運動教室や地域のサロンに専門職が出席し、フレイル（虚弱）予防に係る健康指導を実施しました。	③	・介護予防ボランティア養成講座の開催をはじめ、既存ボランティアへの研修を充実し、介護予防における様々な知識を習得いただくことで、各地域の運動教室に自信を持って参加ができる取組を進めます。		A	・昨年も指摘しましたが、「おたっしサポーター」を増やす取組を強化して下さい。基本目標④施策№8の「高齢者のいきいきづくり」施策№7「心身の健康づくり」とも関連のある取組です。連携を深め効果的な施策となるように工夫して下さい。おたっしサポーターの高年齢化対策にもつなげて下さい。 ・また、より若い世代に参画してもらえると基本目標④施策№1の「次代の担い手育成」につながると考えられます。④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の検証で、基本目標・方向性を踏まえた検証をする際には、そのようなことなどを検証して欲しいのです。高齢者の健康づくりだけでなく、基本目標④施策№9を実現するためにも「次代の担い手育成」が必要であるとの認識のもとで参画する裾野を広げる取組を行って下さい。								
																	④	●実施していること ・地域で介護予防の取組が促進できるよう、運動指導サポーター（おたっしサポーター）の養成を行いました。 ・「おたっしサポーター」から指導員の養成を行い、運動指導士に準じて教室指導を担っていただき、他の介護予防教室（男性の運動教室など）でも活躍いただきました。 ●実施できていないこと ・「おたっしサポーター」の活躍の場を増やす取組が必要です。 ●実施が困難なこと ・「おたっしサポーター」の高年齢化における対策が困難となっています。	⑤	●基本目標、基本的方向を踏まえて ・引き続き介護予防ボランティアの養成を図るとともに、指導員の養成・活用を推進し、地域における介護予防の取組を進めます。 ●今後の課題 ・社会福祉協議会等の関係機関、おたっしサポーター等の地域のボランティアと協力し、活動に寄り添いながら、一歩ずつ取組を進めることが必要です。				
①		100.0%																						
目標値【R5】	339 人																							
目標値【R6】	349 人																							
目標値【R7】	385 人																							

●実施していること
・地域で介護予防の取組が促進できるよう、運動指導サポーター（おたっしゃサポーター）の養成を行いました。
・「おたっしゃサポーター」から指導員の養成を行い、運動指導士に準じて教室指導を担っていただき、他の介護予防教室（男性の運動教室など）でも活躍いただきました。
●実施できていないこと
・「おたっしゃサポーター」の活躍の場を増やす取組が必要です。
●実施が困難なこと
・「おたっしゃサポーター」の高年齢化における対策が困難となっています。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる				取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成					
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。												
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。												
取り組みNo.	10	具体的な取り組み	障がい者の支援体制の充実				担当部署	福祉保健課					
内容	・障がいのある人が地域や就労等、社会参加において自分らしくいきいきと暮らし続けられるよう、障がい福祉サービスを拡充します。 ・障がいのある人の個性やライフステージに応じて、医療や保健、福祉、教育等のサービスを効果的に受けられるよう、東近江圏域障害児（者）サービス調整会議により、総合的な調整を行います。 ・障がいのある人の地域生活を支える仕組みとして、「相談」「緊急時の受け入れ・対応」「体験の機会・場」「専門人材の確保・養成」「地域の体制づくり」の機能を備えた拠点の整備を進めます。												

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	町内グループホームの定員数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R2】	29 人														
目標値【R7】	44 人														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	34	39	100.0%												
令和4年度	39 人	44 人	100.0%							施策②	③	A	・KPIが超過達成されていることを高く評価します。計画的に整備が進み障がいのある方の生活の場が確保されたことを高く評価します。 ・今後は、一人暮らしの実現や地域全体で支え合えるように次の段階に進むことを期待します。 ・②③（施策の取組状況、今後の取組）では、取組内容に即して評価を行って下さい。拠点整備の現状と今後の取組を「見える化」して下さい。		
														④	⑤
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	100.0%				
目標値【R5】	39 人														
目標値【R6】	39 人														
目標値【R7】	44 人														

・KPIが超過達成されていることを高く評価します。計画的に整備が進み障がいのある方の生活の場が確保されたことを高く評価します。
・今後は、一人暮らしの実現や地域全体で支え合えるように次の段階に進むことを期待します。
・②③（施策の取組状況、今後の取組）では、取組内容に即して評価を行って下さい。拠点整備の現状と今後の取組を「見える化」して下さい。
・④⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）では、基本目標④施策No.5「支え合いの仕組みづくり」とも関連づけ、基本目標・方向性を踏まえて検討を行っています。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	11	具体的な取り組み	住民のくらしを支える知識・情報の提供	担当部署	図書館				
内容	・住民の知る権利、学ぶ権利を保障するため、住民の求める資料の積極的な収集・提供に取り組みます。 ・図書館の利用が困難な住民へのサービスの充実に取り組みます。 ・日本語以外の言語の資料を拡充し、誰もが利用できるよう取り組みます。 ・住民の抱える諸課題に向き合い解決の手助けができるよう、暮らしを支える情報サービスを充実させます。 ・住民が適切に情報を利活用できるよう取り組みます。								

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証						外部検証	
指標名	図書館を利用（貸出）した町民の割合									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント				
基準値【R1】	18.4 %																
目標値【R7】	19.6 %																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和3年度	18.8	16.3	86.7%														
令和4年度	19.0 %	16.5 %	86.8%							施策②	③	B	・在住外国人の方も含め、住民が必要とする情報が入手できるように多様な資料の収集が行われていること、多言語資料の充実に努めていることを高く評価します。そうした資料が十分に活用されるように多言語の広報を行うなど大いに活用されるように努めて下さい。 ・図書館利用が増えるように、基本目標・基本的方向を踏まえて、自治活動を基盤とした人材育成、食育、まちづくり等にとって必要な情報を得られるようにサービスの充実を図って下さい。 ・図書館を利用する機会が増えるように、他部署とも連携した取組が必要です。				
														基本目標 基本的方向を踏まえた状況	④	⑤	
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】			①	86.8%													
目標値【R5】	19.2 %																
目標値【R6】	19.4 %																
目標値【R7】	19.6 %																

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	人と豊かな自然との共生
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	12	具体的な取り組み	ごみの減量化の実現	担当部署	R3：住民課、R4：交通環境政策課				
内容	・循環型社会（3R）の実現のため、日野町エコライフ推進協議会等の関係団体と連携し、広報や出前講座等によりごみ減量化の啓発に努め、住民意識の向上に取り組みます。 ・資源回収に対する補助を実施するとともに、生ごみの水切りや堆肥化、プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進します。 ・家庭から出る廃食油の回収を行い、回収量拡大の啓発に努めます。								

数量的検証										質的検証						
KPI（重要業績評価指標）										内部検証					外部検証	
指標名	一日一人あたり可燃ごみ量 ※可燃ごみ・・・家庭ごみの委託分、資源ゴミを除く			生ごみ処理容器購入件数（年間）						取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント	
基準値【R1】	495 g			10 台												
目標値【R7】	474 g			10 台												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率							
令和3年度	488	502	97.2%	10	9	90.0%										
令和4年度	485 g	499 g	97.2%	10 台	37 台	100.0%				②	●実施していること ・町内の関係団体と連携し、広報や出前講座により家庭で取り組むごみ減量化についての啓発・住民意識の向上に取り組みました。 ・町内各団体で実施された資源回収の取組や、生ごみの自家処理容器購入世帯に対し補助しました。 ・プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進しごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進しました。 ・わたむきの里で家庭から出る廃食油の拠点回収を実施しました。(4,300リットル) ・7月からモデル事業として女性団体等と連携し生ごみの堆肥化に向け、生ごみ回収をはじめました。	③	●循環型社会（3R）実現のため、引き続き町内関係団体と連携し、広報や出前講座により、ごみ減量の啓発に努め、住民意識向上に取り組みます。 ・資源回収に対する補助を実施するとともに、プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進します。 ・家庭から出る廃食油の回収量拡大の啓発に努めます。 ・ごみ減量、リサイクルを含めた環境保全を進めるため、環境基本計画の策定を進めます。 ・生ごみの堆肥化に向けた生ごみ回収について、西大路地区をモデル地区として進めます。	A	●啓発と補助金によって、ごみ減量化を進めるだけではなく、住民の主体的な行動変容による減量化がすすむように施策を工夫して下さい。 ・ごみの減量化の取組が進んでいることを高く評価します。ごみ減量化のためにも生ゴミの堆肥化や3Rの推進、分別回収の推進、廃食油の回収も必要とされるのかと思います。そうした取組は、個々人の取組に大いに依存するわけですが、基本目標④施策№12取組の方向にある「人と豊かな自然との共生」のためには、地域の絆や自治会活動の展開の中で実現するものでもあります。④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の内部検証は基本目標、方向性を踏まえて深める検証を行って下さい。 ・住民の意識の向上のための啓発活動をされていますが、3R、減量化、生ごみ堆肥化、分別回収など様々な取組の環境への効果も可視化して、住民の単なる知識としてだけではなく、行動変容につながる情報提供など、学びによる行動変容をみずえた取組を行って下さい。 ・住民自らが日野町のごみ問題を発見、解決のために行動する、そういった取組を検討して下さい。 ・ごみの回収量の実態を分析して、地域に情報を返すことで、現状に合った対応を一緒に考えることが大切です。	
																KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】
目標値【R5】	481 g			10 台												
目標値【R6】	477 g			10 台												
目標値【R7】	474 g			10 台												

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	人と豊かな自然との共生
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組み№	13	具体的な取り組み	環境保全の推進	担当部署	R3：住民課、R4：交通環境政策課、建設計画課			
内容	・国や県、関係団体等と連携し、自然環境や野生動物等の保全・保護に努めます。 ・学校や地域、団体と連携した幅広い世代への環境学習を推進し、生物多様性への理解や環境保全の啓発に努めます。							

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	清掃活動の参加人数			河川愛護事業参加人数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1・2】	250 人			3,870 人											
目標値【R7】	250 人			3,700 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	250	280	100.0%	3,800	3,664	96.4%									
令和4年度	250 人	286 人	100.0%	3,800 人	2,905 人	76.4%				施策②	③	B	・作業への参加者の高齢化が大きな問題のようですが、それへの対応が十分になされているようにはみえません。環境学習の推進が参加者の若がいり、若い世代の参加の増につながるよう工夫して下さい。 ・基本目標④施策№13「環境保全の推進」は幅広い内容があるはずですが、②、③（施策の取組状況、今後の取組）の内部検証では、KPIにあらわれる取組に関わる部分しかみえてきませんでした。KPIには関わらない部分の環境保全の取組についても内部検証して下さい。 ・環境学習の推進、環境保全の啓発は、基本目標④のめざす姿の実現に資するように、住民が主体的に考え行動するようになるプログラムになるよう工夫して下さい。 ・除草活動の機械化によって、省略化された河川愛護事業の余った労力を地域の別の活動に生かす工夫の提案を行うことで、共同体意識の醸成や地域力の向上を図って下さい。 ・清掃活動に社会貢献として企業から参加される方は大事な関係人口であり、さらなる関係性づくりを行って下さい。 ・次代を担う人材づくりを進めるため、地域の環境保全の取組から、様々な課や団体と協力して次代についていく工夫して下さい。		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	88.2%	基本目標 基本的方向を踏まえての状況④	⑤				
目標値【R5】	250 人			3,760 人											
目標値【R6】	250 人			3,730 人											
目標値【R7】	250 人			3,700 人											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	災害や危機への備えの強化
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組み№	14	具体的な取り組み	交通安全対策と防犯体制の推進	担当部署	R3：住民課、R4：交通環境政策課	建設計画課			
内容	- 警察、東近江地区交通安全推進会議、東近江地区交通安全協会等と連携し、交通安全教育や啓発を行い、交通安全意識の高揚を図るとともに、住民による、自主的な取り組みを支援します。 - 高齢者に対する交通安全意識を高めるため、シルバーキャラバン隊を委嘱し、街頭啓発、推進大会等の参加を呼び掛けていきます。 - 警察等の関係機関と連携し、危険度の高い通学路や生活道路等の交通安全施設の点検を行い整備に努めます。 - 警察、日野町防犯自治会との連携のもと、各地区の地域ぐるみの自主防犯団体や、学校、PTA等との協働により、人と人のつながりのなかで、顔の見える地域防犯活動を継続し、犯罪のないまちづくりを実施します。								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	刑法犯認知件数			消費相談件数			交通事故件数			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	55 件			41 件			40 件								
目標値【R7】	55 件			45 件			21 件								
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和3年度	55	69	79.7%	45	34	100.0%	21	21	100.0%						
令和4年度	55 件	81 件	67.9%	45 件	45 件	100.0%	21 件	22 件	95.5%	施策②	③	B	・基本目標④施策No.14の取組は、シルバーキャラバン隊の活動に象徴されるように、高齢者に依存する構造によっており、高齢化がすすみ、従来のやり方では困難に直面しているように見受けられます。③（施策の今後の取組）において「若い世代にも活動に参画いただけるよう取組を進めます」としていますが、これを実現しなければなりません。④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえての取組状況、今後の取組）の検証は、「若い世代の参画」を実現するための検証となり、基本目標と方向性を踏まえたものになると考えられます。 ・交通安全や自主防犯団体の活動に若い世代の参画を進めるための具体的な手立てを考える必要があります。		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	87.8%	基本目標 基本的方向を踏まえての状況④	⑤				
目標値【R5】	55 件			45 件			21 件								
目標値【R6】	55 件			45 件			21 件								
目標値【R7】	55 件			45 件			21 件								

66

[illegible]

数量的検証										質的検証											
KPI（重要業績評価指標）										内部検証										外部検証	
指標名	消防団団員数			自主防災組織の組織数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント								
基準値【R2】	185 人			15 組織																	
目標値【R7】	185 人			25 組織																	
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率												
令和3年度	185	185	100.0%	17	15	88.2%															
令和4年度	185 人	185 人	100.0%	19 組織	19 組織	100.0%				施策 ②	③	A	・②、③（施策の取組状況、今後の取組）では、体制づくり、啓発活動については普及されており、「地域防災力の向上」に向けた取組がなされていることが分かります。KPIも体制の整備を図るので、基本目標④施策No.15の取組内容の2つ目の「住民の防災意識の高揚を図ります」については、啓発活動を行っているため、向上ができていますとみなすしかありません。住民の主体的な活動としてどんなことが行われているのかなども検証して下さい。また、住民側の意識の変化につながるような取組を検討して下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向を踏まえた取組）の内部検証は、基本目標、基本的方向を踏まえて、住民目から、日野町の防災上の課題を発見、解決のために行動する、そういう取組を検討して検証を行って下さい。 ・消防団の団員数が定数確保できているのは、団結力の賜物である一方、消防団活動は日常生活の負担となり、まちを離れてしまう人がいる現実があります。” 郷土を守る” 意識を持った人づくりが大切です。								
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	100.0%	基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④	⑤										
目標値【R5】	185 人			21 組織																	
目標値【R6】	185 人			23 組織																	
目標値【R7】	185 人			25 組織																	

6. 地方創生交付金事業の検証

地方創生交付金事業の検証について

No	①	②	③	④					⑤		⑥		⑦		
	交付対象事業の名称	交付金の種類	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				本事業終了後における実績値		外部有識者からの評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由		
1	子育て女性の活躍応援プロジェクト	拠点整備交付金	36,241,000	指標①	事業を通じた「働き方改革」に取り組む企業の増加数	12	件	R5.3	8	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	・今後も地元企業に対して働き方改革に取り組むようしっかりと働きかけを行ってほしい。 ・町外からの移住者や結婚を機に移ってきた女性の就労支援という点で効果が大きいという声が現場から挙がっている。 ・働き方改革も進み、育児休業を取得される方も増えているなかで、利用者が伸び悩んでいる面もあるが、女性の出産後の就労にとって重要な役割を果たしている。 ・着実に新規就労者が増えるように努力を願いたい。整備した拠点を地域全体でより一層活用することによって事業効果をさらに高めていただきたい。	予定通り事業終了	・引き続き、地元企業に対し、働き方改革への取り組みを推進できる体制づくりをおこないます。 ・女性活躍支援施設の取り組みを現状に合わせ、継続した取り組みとなるよう工夫します。	
				指標②	事業による出産後の女性の復職者の増加数	15	人	R5.3	19						
				指標③	事業を通じた新規就労者数	15	人	R5.3	9						
				指標④											
				指標⑤											
2	「DX(デジタルトランスフォーメーション)」と「グリーン」「官民共創」で築くポストコロナ時代の地方都市「近江日野商人」ふるさとプロジェクト	推進交付金	34,433,278	指標①	交流人口増加(まちなか交流拠点等への来場者数増加)による経済波及効果の増加額	210	百万円	R5.3	137	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①が目標値には達していないが、一定の成果を上げたという点は評価する。引き続き交流人口の増加を着実に図る方法を検討し、工夫してほしい。 ・指標②が、目標に比べて著しく効果が低調であった要因を分析し、マイカーに依存しない交流人口の増加について、引き続き検討を行ってほしい。 ・指標③の目標を達成していることは高く評価するが、提供する情報の豊富さなどを通して、より一層生活アプリの充実を図ってほしい。	事業の継続	・事業を通じ、交流人口が増加するよう、事業内容を検討し、工夫します。 ・マイカーに依存しない移動の可能性を拡げられるよう、公共交通体系の見直しを進めます。 ・生活アプリを通じて、町内の飲食店や施設等を利用を促し、町内周遊につながるよう、内容の充実を図ります。	
				指標②	マイカーではない移動等によるCO ₂ 排出量の削減量	116	t-CO2	R5.3	5.5						
				指標③	町が提供する生活アプリのダウンロード数	1,000	件	R5.3	1,052						
				指標④											
				指標⑤											
3	風の人と土の人がつながるプロジェクト～移住者の増加による地域活性化にむけて～	推進交付金	5,509,069	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標 (KPI) が無い事業です。										
				指標②											
				指標③											
				指標④											
				指標⑤											
4	健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト	推進交付金	6,389,458	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標 (KPI) が無い事業です。										
				指標②											
				指標③											
				指標④											
				指標⑤											
5	滋賀ならではの価値ある資源と観光を掛け合わせてつくる「シガリズム」推進プロジェクト	推進交付金	6,105,286	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標 (KPI) が無い事業です。										
				指標②											
				指標③											
				指標④											
				指標⑤											

※事業効果:①地方創生に非常に効果的であった／②地方創生に相当程度効果があった／③地方創生に効果があった／④地方創生に効果がなかった ※事業の評価:①総合戦略のKPI達成に有効であった／②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

7. 検証のまとめ

1) 量的 (KPI) 検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標 (KPI) について、町が定めている年度別の目標値に対する実績値の達成率についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。

(詳細は P.8～9 参照)

KPI の検証結果	重要業績評価指標 (KPI) の達成度	施策数	比率
量 S	100% ～ 90%以上	24 施策	60%
量 A	90%未満 ～ 70%以上	11 施策	27%
量 B	70%未満 ～ 50%以上	2 施策	5%
量 C	50%未満 ～ 30%以上	2 施策	5%
量 D	30%未満 ～ 0%以上	1 施策	3%

検証した施策の中で最も多いのが量 S (達成度 100%～90%以上) で 24 施策 (60%) 次いで、量 A (達成度 90%未満～70%以上) が 11 施策 (27%) という結果になっています。

総合戦略の計画期間は、令和 3 年度から令和 7 年度の 5 年間であり、計画で定める年度別の重要業績評価指標 (KPI) の目標値は、計画期間の最終年度 (令和 7 年度) に定められています。量 S の評価の割合が高い要因は、目標値に向かって段階的に高くなっているものが多いことが挙げられます。

このほか、すでに計画期間の最終年度に定める重要業績評価指標 (KPI) の目標値を超過達成している施策もあり、当初の見込みが低く設定されていたことが考えられます。超過達成している重要業績評価指標 (KPI) は、適切な目標値への見直しが必要です。

重要業績評価指標 (KPI) の目標値の設定は、実施している施策の背景にある課題に対して、取り組み状況やその効果が読み取れるように定めます。また、目標値を達成することが基本目標・基本的方向の実現につながり、町全体がよくなるような指標となる必要があります。

一方、C もしくは D 評価であった 3 施策は次の施策です。一部の施策では、コロナ禍の影響により事業実施が困難であったことが、重要業績評価指標 (KPI) の目標値を達成できなかった要因として考えられます。そうした外部環境による要因以外の施策については、本来の目標に向け、どのような事業実施が妥当であるかをよく検討し、次年度以降の事業実施につなげる必要があります。

○ C もしくは D 評価であった 3 施策

・(1) - 8「子どもの読書活動と学習活動の支援」 【評価 C】 達成率：46.4%

KPI「授業におけるクラス別小学校図書館使用状況 (学校司書認知件数)」

目標：37 回 実績：28 回 (達成率：74.3%)

KPI「授業におけるクラス別中学校図書館使用状況 (学校司書認知件数)」

目標：7.0 回 実績：1.3 回 (達成率：18.6%)

・(4) - 5「支え合いの仕組みづくりの促進」 【評価 C】 達成率：33.3%

KPI「ひきこもってしまった人が居場所を通じて就労（福祉就労含む）につながった人数」

目標：1人 実績：0人 達成率：0%

KPI「ひきこもってしまった人の居場所を利用する人数」

目標：4人 実績：14人 達成率：100%

KPI「ボランティアの方が障がいのある方と共同で事業を行う回数」

目標：1回 実績：0回 達成率：0%

・(3) - 3「地域資源を活かした体験型観光の推進」 【評価D】 達成率：16.6%

KPI「農泊受入人数」 目標：1,000人 実績：166人 達成率：16.6%

2) 質的（取組内容）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）だけでは計れない、取組内容の質的な充実についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。

（詳細は、P.10～11 参照）

質的検証結果	質的検証結果の内容	施策数	比率
質S	内容を十分に理解し、取組により達成している	0施策	0%
質A	内容を理解した取組を実施し、課題解決や達成に向けた取組ができている	2施策	5%
質B	内容を理解し、取組ができている	36施策	90%
質C	概ね内容を踏まえているが、取組が不十分	2施策	5%
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	0施策	0%

検証した施策の中で最も多いのが、質B（内容を理解し、取組ができている）で36施策（90%）、次いで、質A（内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている）が2施策の5%、および質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）も2施策の5%となりました。

質Bの評価を受けた施策は、施策の内容、基本目標・基本的方向の趣旨に沿って取組を順当に進めたことによるものと考えられます。

一方、C評価となった2施策は、重要業績評価指標（KPI）に掲げる取り組みの内部検証にとどまり、施策の取組全体における内部検証ができなかった施策となっています。

令和5年度以降の施策の推進にあっては、単に目標値として設定している重要業績評価指標（KPI）の取り組みを展開するだけでなく、総合戦略に掲げる取り組み内容、ひいては基本目標・基本的方向を十分に理解し、めざす姿を実現するための施策の展開が求められます。

3) 基本目標別のまとめ

基本目標（１）まちのたからで雇用を創る

検証結果では、A（優れている）が6施策（55%）、B（実施できている）が5施策（45%）という結果になりました。

A（優れている）とされた施策

- (1) - 1 「安心して妊娠・出産・子育てができるための支援」
- (1) - 2 「様々な保育ニーズへの対応」
- (1) - 5 「地域ぐるみでの子どもの居場所づくり」
- (1) - 9 「住民の主体的な文化芸術活動への支援」
- (1) - 10 「ふるさと学習の充実」
- (1) - 11 「女性活躍の環境づくり」

B（実施できている）とされた施策

- (1) - 3 「コミュニティ・スクールの導入」
- (1) - 4 「子育て支援のネットワークづくり」
- (1) - 6 「青少年の社会参画の促進」
- (1) - 7 「社会教育の人材育成と活躍の推進」
- (1) - 8 「子どもの読書活動と学習活動の支援」

『基本目標（１）まちのたからで雇用を創る』にかかる取組では、社会情勢の変化にあわせた子育て施策の工夫が求められています。

また、子育て経験者の力を借りながら次の世代が育っていくような「助け合いのサイクル」をつくることを意識する必要があります。

情報発信の意識改善が求められています。情報発信の際は、町内に留まらず、近隣市町に住む人や企業なども巻き込んで実施することで、日野町の魅力発信につなげることが大切です。

スポーツやカルチャー教室などの地域内における学びのなかで、レスリングや合唱などの好循環に学びながら、そのほかのスポーツやカルチャーも充実していくことが求められています。そのときに、個人の学びにとどまらず、その学びが地域づくり・社会づくりに繋がるように成熟させる必要があります。

生涯学習事業全体において、次世代を育てて好循環を作っていく取組が求められています。

基本目標（２）出会いと発見で人の流れを作る

検証結果では、A（優れている）が6施策（75%）、B（実施できている）が2施策（25%）という結果になりました。

A（優れている）とされた施策

- (2) - 1 「農業経営・担い手育成への支援」
- (2) - 2 「農業生産・特産品の振興」

- (2) - 3 「林業の振興」
- (2) - 5 「創業・コミュニティビジネスへの支援」
- (2) - 6 「企業誘致の推進と工業用地の確保」
- (2) - 7 「新たな産業分野の誘致と創出」

B（実施できている）とされた施策

- (2) - 4 「地域内経済循環の推進」
- (2) - 8 「町内雇用の促進と雇用機会の拡充」

『基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る』にかかる取組は、そのすべてが「地域内経済循環の推進」に関わります。まず、地域内経済循環の実態調査に着手する必要があります。実態調査の成果をもとに、住民自身が町内経済の活性化につながる消費行動を行うなど、補助金に頼らずとも、地域内経済循環が起きるような工夫が求められています。

工業団地の工場誘致（企業誘致）のような町内雇用に大きく創出する取組はもちろんのこと、コミュニティビジネスの促進やサテライトオフィスを起点とした新しい町の雇用創出につながる取組が求められています。

基本目標で設定している「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」という目標は極めて重要な目標です。一方で、個別の取組が基本目標との間で乖離があるため、各個別の施策を着実に進めるとともに、基本目標の達成に向けて個別施策のレベルアップが必要です。

基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる

検証結果では、A（優れている）が3施策（50%）、B（実施できている）が3施策（50%）という結果になりました。

A（優れている）とされた施策

- (3) - 4 「地域の移動手段の充実」
- (3) - 5 「U・I・Jターン受入の充実」
- (3) - 6 「地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信」

B（実施できている）とされた施策

- (3) - 1 「商工業の活性化」
- (3) - 2 「まちぐるみのおもてなし」
- (3) - 3 「地域資源を活かした体験型観光の推進」

『基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる』にかかる取組は、町外向けの取組に加えて、住民自身がまちの魅力を認識していくことが必要です。住民が日野町での暮らしの良さを知る・楽しむための方法を検討し、日野町に訪れた方と住民との交流により移住・定住に結びつくまちづくりを推し進めることが求められています。

また、SNS やアプリが乱立すると、発信する情報に濃淡が生じたり、受け手に混乱を招いたりする恐れがあります。組織を横断して、総合的・戦略的な検討を行い、住民の使用する SNS の多様化に対応することが求められています。SNS 等の情報発信に限らず、実施している施策の先にあるビジョンを描きながら取組を進める必要があります。

日野の魅力である、日野ならではの取組・住民の長きにわたる取組を町民が知ること、まちを知ること、よりよく暮していく実感につながります。住民主体の取組が住民自身でまちを守ることにつながるため、住民自身の関わる取組を大切にする必要があります。

基本目標（４）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

検証結果では、A（優れている）が９施策（６０％）、B（実施できている）が６施策（４０％）という結果になっています。

A（優れている）とされた施策

- （４）－ １ 「次代を担う人材の発掘」
- （４）－ ２ 「市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり」
- （４）－ ３ 「関係人口の創出」
- （４）－ ６ 「食育・地産地消の推進」
- （４）－ ７ 「心身の健康づくり」
- （４）－ ９ 「健康づくりと介護予防の一体化」
- （４）－ １０ 「障がい者の支援体制の充実」
- （４）－ １２ 「ごみの減量化の実現」
- （４）－ １５ 「地域防災力の向上」

B（実施できている）とされた施策

- （４）－ ４ 「多文化共生の推進」
- （４）－ ５ 「支え合いの仕組みづくりの促進」
- （４）－ ８ 「高齢者のいきがいづくり」
- （４）－ １１ 「住民のくらしを支える知識・情報の提供」
- （４）－ １３ 「環境保全の推進」
- （４）－ １４ 「交通安全対策と防犯体制の推進」

『基本目標（４）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる』にかかる取組では、住民の主体性を引き出す工夫や、ボランティアや生活支援コーディネーターに参加する人の裾野を広げるための工夫が求められています。

高齢者の主体性を引き出していくためにも、若い世代のうちから「自分達の課題を自分達で解決していく」という気風を育てる工夫が必要です。

地域における自治活動を基盤とした様々な取組が、高齢化によって弱体化している状況です。機械化等で効率化をすると同時に、様々な取組の質的な転換を行い、次世代を育てる・つなげることに注力することが求められています。

4)総合戦略の 検証の実施に ついて

PDCAサイクルの確立

1年間
(4月～3月)

執行
総合戦略に掲げる「めざす姿」の実現に向けて、住民満足度を捉えながら施策を推進していきます

**政策能力の
向上**

予算編成

さらに効果的・効率的な施策を推進していくために、検証結果を踏まえて来年度の施策展開および予算を検討します

3月

内部検証

施策の取り組み状況や今後の取り組みについて、基本目標や基本的方向を踏まえて振り返り、今後の取り組みを検討します

4月～9月

外部検証

総合計画懇話会にて、重要業績評価指標（KPI）の量的検証に加え、施策の取り組み内容の充実度を評価する質的検証を行います

10月～2月

総合戦略の取り組みは、毎年度の施策の取り組み状況を外部有識者等の参画のもとに効果検証することにより、その検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行うPDCAサイクルを確立し、取り組みを着実に推進するために実施するものです。

5) まとめ

1. はじめに

「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略(第2期)(以下、「総合戦略第2期」と表記)」は、2021年度(令和3年度)から2025年度(令和7年度)の5年間を計画期間としています。2022年(令和4年)度は、「総合戦略第2期」の2年目でした。「総合戦略第2期」は、「第6次日野町総合計画」と同時に2021年(令和3年)にスタートしました。第1期の「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」は、1年延長して6年間の取組を行いました。6年間の絶え間ない検証結果を踏まえ、施策の統合などの見直しを行い、現在の国の総合戦略の柱立てに対応しながら、第2期計画が策定されました。

本報告書は、四つの基本目標、40本の施策の検証を行っています。40本の施策につきまして、「量的検証」と「質的検証」を行い、その合計点を検証結果としています。そして、四つの基本目標につきましては、40本の施策の検証結果を踏まえて、総合的な評価を行いました。本報告書は、検証結果を数値化していますので、多くの人々がその「数値」とその変化に注目していることでしょう。数値化によって取組の成果とその変化を捉えやすくなります。検証の過程では、数値的な変化だけではなく、行政の内部検証詳細に検証し、主管部署からの説明とヒアリングを通じて取り組みの在り方も検討してきました。本報告書の最後に、総合計画懇話会(以下、懇話会)による検証の過程と検証結果から見てきた今後の課題について、若干のコメントを記して、まとめにかえたいと思います。

2. 評価方法について

本報告書の検証結果は、総合戦略に関わる施策がどの程度成果を上げているのかを総合的に評価するために、「量的検証項目として重要業績評価指標(KPI)(以下、KPIとする)の達成度の評価」と「その施策の中身がどの程度充実したものであったのかを4つの観点から評価する質的検証項目の評価」を行い、これら量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。この評価方法は、数値で測れる「外形的な達成度」にとどまらず、「質的・内容的な充実度」も検証しようとする工夫です。一般的に、KPIを設定するとその達成度に目が行きがちですが、設定された数値目標の達成にとどまらず、施策の質的・内容的な充実を図り、効果的な施策の展開をすすめて欲しいので、このような量と質の両面からの評価方法を取り入れました。つまり、公共サービスがどの程度供給されたのかという供給量だけでなく、その供給された公共サービスはどのような内容であったのかを検証して、質的な向上・内容の充実をあわせて評価し、量と質を統合した総合評価をしています。

具体的には、KPIの達成度で測る量的評価(満点10点)、四つの検証観点からの質的評価(1観点5点満点の4つの観点、満点20点)の二つの評価点を出し、その量的検証と質的検証の合計点数によって、5段階の「検証結果」としました。量的検証10点と質的検証20点と配点し、質的検証の配点を2倍にしています。しかし、例年、KPIの達成度が高けれ

ば、検証結果も高い評価を得ています。質的検証で難があっても、KPI が高得点であれば、高い評価を受けている場合もあります。

施策の総合評価には、量的評価と質的評価という異質な検証結果の合計点数を使っており、施策の評価には少し注意が必要ですが、これまでおこなってきた町役場による内部検証を踏まえた、懇話会による外部検証を継続するのであれば、適切な評価を行うとともに、施策の改善も図ることが出来るのでは無いかと考えます。

3. 予算への反映と今後の改善への取り組み

先に述べましたように、量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。それらの結果は「3. 基本目標別検証結果」において、「基本目標別量的 (KPI) 検証結果 (p8)」「基本目標別質的 (取組内容) 検証結果 (p10)」の二つの総括表とこの二つの数値を合算した総合評価結果である「基本目標別検証結果 (p16)」としてまとめてあります。初年度 2021 年 (令和 3 年) 度、2022 年 (令和 4 年) 度の数値が入っていますが、今後第 2 期の 5 年間の検証結果の数値が入り、全体の動向を掴めるように工夫しています。

具体的に検証結果を見てみましょう。「基本目標別量的 (KPI) 検証結果」をみますと、40 施策のうち、「量 S」は 24 (前年比 1 減)、「量 A」は 11 (前年比 3 増)、「量 B」は 2 (前年比 2 減)、「量 C」は 2 (前年比 1 増)、「量 D」は 1 (前年比 1 減)となっており、多くの施策が量的な目標は達成していました。

第 1 期の検証においても、KPI の値が高いと総合評価も高い評価を得られる傾向もありましたので、KPI 設定の適切さは検証において重要なポイントとなります。KPI 設定の適切さには、二つの観点からの適切さを考えなければなりません。第一の観点は、施策の指標としての適切性の観点です。施策の事業効果を表す指標として適切であるのかどうかをしっかりと考える必要があります。事業実施体制の整備や事業実施の利用者数などアウトプットを示す KPI 指標もありましたが、アウトプットの KPI にとどまらず、事業効果の実質を表すアウトカム指標を導入することが必要です。アウトプットの KPI の場合、供給体制の整備を行うだけで目標が達成されてしまいます。測定されるべきことは、その公共サービス供給体制によって、住民の福祉が向上したのかどうなのかが測定されなければならないでしょう。または、その事業の住民満足度を直接測るか、住民満足度の向上を示すような代替りの指標を設定することも考えられます。アウトプットよりアウトカムの指標を設定することが適切ではないでしょうか。第二の観点は、設定された指標の数値目標が、事業効果を測る水準として適切であるかを考える必要があります。目標値が低ければ、達成は容易であり、目標値が実態とかけ離れて高すぎれば、達成は困難になり、せっかくの取り組みの成果が見えにくくなってしまいます。

次に、「基本目標別質的 (取組内容) 検証結果」をみますと、40 施策のうち「質 A」は 2 (前年比 2 増)、「質 B」は 36 (前年比 5 増)、「質 C」は 2 (前年比 7 減)となっています。施策の 5%は「質 A」の「内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り

組みが出来ている」、90%は「質 B」の「内容を理解し、取り組みができている」との判定でした。今後も引き続き、取り組みの質的な向上を期待します。

そして、量的評価と質的評価を合計した総合評価を見ますと、40 施策のうち「総合評価 A」が 24 施策（前年比 4 増）、「総合評価 B」が 16 施策（前年比 1 減）、「総合評価 C」が 0 施策（前年比 3 減）となっています。

検証を行い、アウトプット指標が多く、目標値が少し低いのではないかとされる KPI も散見されます。また、内部検証が KPI の達成を目標に施策を展開しているように見受けられる事例も散見されました。基本目標を見失うことなく、施策に取り組んでください。

今回の総合戦略の評価は、量的評価と質的評価の両面から評価するので、量的にも質的にも事業の進展を評価することが出来ていると考えられます。また、四つの観点からの内部検証を行う内部検証作業を通じて、事業を担当する職員の皆さんには施策の広がりと深さを考えてもらう工夫として導入しています。行政の政策能力の向上を期待します。

以上のことから今後の取り組みと検証に活かして欲しいことを 5 つあげます。

① KPI の適切さの検証

KPI については国・県の総合戦略の改定に合わせて考え方の整理を行っていると思料しますが、KPI の適切さを検証し、施策の展開を再考してください。KPI を超過達成している施策も幾つか存在しており、当該年度の前進がなくても 100%達成で 10 点となっている施策もありました。また、内部検証が KPI に引きずられた検証になっている施策は、施策の取り組み内容を吟味して検証してください。施策の取り組み内容は KPI の向上に直接つながる取り組みだけではないことを理解してください。

② 施策のアウトカムや住民の実態を的確に掴む

KPI がアウトプット指標になっている施策は、施策の取り組みがどのような「変化」をもたらすのかを考えながら施策を工夫し展開してください。その変化の広がりや深さに想像力をめぐらせて、施策のアウトカムを掴む力を養ってください。

行政情報の発信から住民の行政サービスの受容に至る全体像を知り、住民の実態を的確に掴んでください。住民の実態を把握する想像力やアンテナを張り巡らせてください。例えば、子育て施策でファミサポの利用に関わる項目がありましたが、利用者数が減少しているのですが、自分達でファミサポを通さずにやっていると言う実態を見過ごす展開する施策は異なってくるでしょう。担い手概念を変えて現実を見なければならず、実際の動きを的確に掴む必要があります。

③ 行政の政策能力の向上

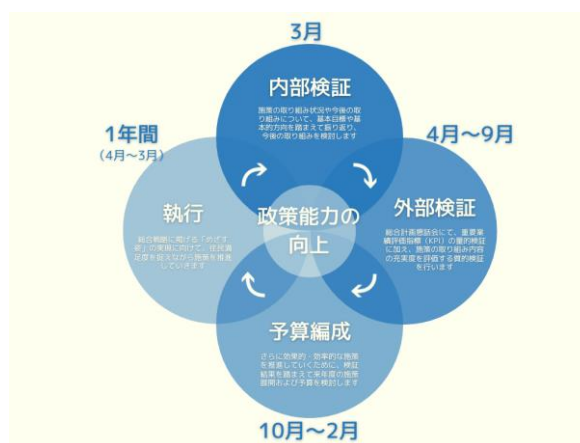
内部検証を通じて、行政の政策能力の向上を図るために、組織的な取り組みを行ってください。とりわけ、「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業調整会議」「重層的支援体制整備事業準備会議」を核とした組織的な取り組みを進めてください。

④ 職員の意識改革

住民からは「情報発信が足りない」との声を多数聞くのですが、それに比して、職員側では「情報発信は重要」との認識が弱いように思われます。行政情報の発信から住民の行政サービスの受容に至る全体像を知り、住民の実態を的確に掴むセンスが求められます。あらゆる施策にまちづくりの意識をめぐらして、施策の工夫を行ってください。例えば、「河川愛護」の取り組みで、機械化が許容されて、参加者が700人減少したのですが、機械化で浮いた労力を単に作業を免除するのではなく、浮いた人員を次世代の子どもたちに郷土の河川環境を知ってもらう河川環境学習の取り組みに振り向けるなど、まちづくりの新しい取り組みへと転換することだって可能はずです。新しい発想でまちづくりの可能性を追求してください。

⑤ 予算編成への反映

本懇話会は、2022年（令和4年）度分の検証を10月から始まる予算編成に反映させるために例年よりも時期を早めて検証を行ってきました。本報告書は11月に発行予定ですが、10月段階で未定稿の検証結果を各部署に渡し、来年度予算編成に反映してもらう予定です。内部検証の各部署への説明段階から予算への反映についても説明を行ってきました。検証結果を次年度予算編成に反映し、日野町役場の政策能力の構築と効果的な事業の展開を図ってください。



4. 人口動態と総合戦略

日野町の人口動態を見ておきましょう。日野町の人口は、2023年8月末現在で2万874人でした。2020年8月末現在で2万1,355人でしたから2年間で481人の減少となります。

総合戦略は、人口減少に歯止めをかけることを目的としたものです。今回の検証からは施策は、概ね順調に進んでいると評価できるものでしたが、人口減少は進んでいます。この二つの事実を事実として認識しなければいけません。この事実を真摯に受け止めることが必要

です。また、この二つの事実から「総合戦略は人口減少の歯止めになっていないのではないか」との見方をされる人もいるでしょう。またある人は、「施策が概ね順調に進捗しても人口減少がすすむのは、施策や戦略の立て方が間違っているのではないか」と考える人もいるでしょう。しかし、そのような単純化した推測が難しいのが現実でもあります。単純化できない三つの理由があります。

第一の理由は、日本の出生数減少の現実です。2022年の全国出生数は、77万747人で過去最少を更新、2021年の81万1622人より4万875人の減少、2020年の全国出生数84万832人に比べて7万85人減っています。減少は7年連続でした。2020年に政府の推計よりも3年早く84万人台に突入しましたが、急速に全国の出生数が減少しています。さらに、婚姻件数は前年より3740組増えましたが、50万4778組でした。新型コロナウイルスの影響も重なり、日本の少子化が加速している状況にあります。全国の出生数が、7年連続で100万人を割り込み、2022年について80万人を割り込みました。80万人割り込みは、国立社会保障・人口問題研究所の推計では2033年とされていたので、11年の前倒しとなりました。こうした全国の下況で日野町だけが出生数が飛び抜けて増える考えるのは幻想ではないでしょうか。

第二の理由は、日本全体の少子化・高齢化のなかで、日本中の市町村が総合戦略に取り組んでいるのですから今や人の奪い合い状態に陥っているという状況にあるという事実です。人口増を実現するのは困難な仕事です。

第三に挙げられる理由は、「総合戦略の成果」が強力な磁場となり、人々を引きつけ、日野町の人口増（自然増と社会増）に直接的な結果としてあらわれるとはなかなか言いがたいところがある点です。総合戦略にできることは、「総合戦略の成果」によって、住みやすい日野町、住み続けたい日野町でありつづけることで、人口の流出の抑制やUIJターンなどの移住者を増やすこと、子育て世帯を支えることで、子育てのしやすい環境をつくり、出生増につながる基本的な環境をつくりだすことなどでしょう。そうしたことを実現することにこそ、人口減少に立ち向かう基本的環境を整える総合戦略の果たすべき役割であると言えるでしょう。

5. 総合戦略の効果を高めるための提言

日本全体が少子化と人口減少に歯止めがかからない中で、農村的な地域の地方自治体において、少子化と人口減少はより一層深刻な問題です。総合戦略は、少子化と人口減少に直面する日野町にとって、住みよいまちづくり、住み続けたいまちづくりのためにも重要な施策となっています。今後、総合戦略の事業効果を高めるための4つの提言を行います。

① 地域経済の質的転換を目指す。

基本目標②は、「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」というものです。この基本目標②において、「基本目標・基本的方向等を踏まえての状況」の内部検証が、基本目標・基本的方向等を十分に踏まえられていないものが散見されま

した。基本目標・基本的方向等を十分に踏まえた検証と今後の施策の工夫を行ってください。しかし、踏まえていないのには理由があると推察します。この基本目標の中で、施策 No.4 は、「地域内経済循環の推進」というものであり、基本目標②の中でも最も重要な施策とも言えるでしょう。しかし、施策 No.4「地域内経済循環の推進」の取り組みの最大の欠陥は、地域内経済循環の実態を把握していないことです。地域内経済循環の実態が把握できていないので、他の施策も目指す姿を十分に踏まえることなく、施策を展開しているように見受けられます。地域内経済循環の実態を把握し、基本目標の目指す姿を踏まえて施策を展開するように努めてください。

② 住民自治の質的転換を目指す。

基本目標④の施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」、施策 No.8「高齢者のいきがいづくり」は、これからの地域における住民自治のバージョンアップを促すきっかけになると思われます。例えば、施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」は、直面している地域課題に対応しようとする新たな住民の自治活動の領域が広がろうとしています。基本目標④施策 No.8 は、外部検証で述べていますように基本目標④施策 No.5 とも関係しており、重層的支援につながるような施策の工夫がなされていくと、従来の地域自治活動を基盤としながらも、新しい地域自治活動が育まれることが期待できます。新しい地域自治活動を育む、地域自治活動の質的転換が必要となってくるでしょう。

③ 担い手育成に努める。

「住民自治の質的転換を目指す」ためには、基本目標④の施策 No.4「多文化共生の推進」基本目標④の施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」、No7「心身の健康づくり」の取り組みは鍵となるかもしれません。内部検証の中で、質的転換の芽を見出すことができます。施策 No.4 では、「日野高校生徒と日野在住外国人の方との交流の場づくり」に言及されていますが、次世代の育成という観点からも注目に値する取り組みです。施策 No.5 にでてくる「生活支援コーディネーター」、施策 No7 にでてくる「健康推進員」などは、地域における担い手育成の起点になるのではないのでしょうか。基本目標①施策 No.4「子育て支援のネットワークづくり」の中などで感じたのですが、ボランティアの掘り起こしにつながる取り組みが弱いように感じられます。担い手の育成の前段階として、ボランティアを掘り起こせる工夫を行って下さい。

④ 他の施策との連携と施策の総合性を意識した事業展開を図る。

総合戦略の施策の中には、相互に関連性が高い施策があります。外部検証でも具体的に相互関連性が高い施策は指摘をしています。第6次日野町総合計画の実施にあたり、役場内で「総計連携会議」をもち、効果を高める取り組みを行っているとしています。総合戦略においても、「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事

業調整会議」「重層的支援体制整備事業準備会議」を核とした組織的な取り組みを進めてください。施策間の連携を強め、施策の総合性を意識した事業展開ができるように工夫を行って下さい。

以上

8. 資料編

1) 用語解説

用語	解説
KPI	「重要業績評価指標」という意味の英語「Key Performance Indicator」の略語であり、目標の実現にあたって、業務の進捗状況や成果の評価に用いる指標のこと。
U・I・Jターン	地方から都市へ移住したあとに再び地方へ移住するUターン、地方から都市または都市から地方へ移住するIターン、地方から都市へ移住したあとに地方近くの中規模な都市へ移住するJターンの総称のこと。
超高齢社会	65 歳以上の人口の割合が全人口の 21%以上を占めている社会のこと。
PDCAサイクル	Plan-Do-Check-Action の略称。Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。
ワーク・ライフ・バランス	やりがいのある仕事と充実した私生活を両立させるという考え方。仕事と生活の調和。
コミュニティ・スクール	学校と保護者や地域の人たちとともに知恵を出し合い、学校運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みのこと。学校運営に地域の声を積極的に生かすことで、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めていくことができる。
ファミリーサポートセンター	子育ての手伝いをしてほしい人（依頼会員）と子育てのお手伝いができる人（協力会員）が会員登録し、センターのアドバイザーが橋渡し役となって、会員同士が子育てを応援しあう組織のこと。
放課後児童クラブ	小学校および特別支援学校小学部に就学している児童の保護者が労働等により昼間家庭にいない場合に、家庭に代わる生活の場を確保し適切な遊びや指導を行うことにより、その児童の健全な育成を図ることを目的としている場のこと。学童保育所。

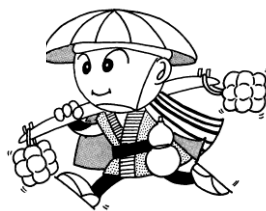
用語	解説
放課後子ども教室	子どもたちの安全・安心な居場所をつくるため、学習支援員（地域住民）の協力のもと、子どもたちに勉強やスポーツ等、地域住民との交流の機会が提供されている。
人・農地プラン	集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための未来の設計図のこと。
おさんぽカード	日野町商業協同組合が発行するカードのこと。組合加盟店での商品の購入や飲食等によりポイントがたまる。
コミュニティビジネス	地域住民自らが地域の課題解決に取り組み、やがてビジネスとして成立させていくことであり、地域コミュニティの元気づくりの事業活動のこと。
社会的責任（CSR）	収益を上げ、法令を遵守するだけでなく、人権や環境問題への配慮、地域社会への貢献を行うなど、企業が市民として果たすべき責任のこと。
サテライトオフィス	企業本社や団体の本庁舎・本部から離れたところに設置されたオフィスのこと。
交流人口	定住人口とは異なり、通勤、通学、文化、スポーツ、買い物、観光などの人々の交流により、地域の活性化に結び付く人々のこと。
デマンドタクシー	指定の場所から目的地まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望に、バス並みの料金で利用できる公共交通サービスのこと。
SNS	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略語であり、友だちなどと繋がり、文章や写真、動画などで自分を表現したり、コミュニケーションするサービスのこと。
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と継続的に多様に関わる人のこと。

用語	解説
リモートワーク	従業員がオフィスに出社することなく、会社以外の遠隔の場所で業務を行うこと。
二拠点居住 (二地域居住)	都会に暮らす人が、一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすこと。
ワーケーション	「ワーク (work)」と「バケーション (vacation)」を組み合わせた造語であり、観光地やリゾート地でリモートワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のこと。
多文化共生	国籍や民族の異なる市民同士が互いに違う文化を尊重し合いながら対等な関係で共に生活していくこと。
3R	ごみの発生や資源の消費をもとから減らすこと (Reduce)、繰り返し使うこと (Reuse)、資源として再び利用すること (Recycle) の総称。
アウトプット (指標)	施策・事業そのものの結果 (を表す指標)
アウトカム (指標)	施策・事業の実施によって得られる効果・成果 (を表す指標)

日野町のキャラクター



「氏郷くん」



「天秤ぼうや」



原産日野菜キャラクター
「あなのひのな」



「クリンとキコロ」

2) 日野町総合計画懇話会の開催

実施日	実施内容	場所
令和5年 5月22日	第1回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和5年 6月19日	第2回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和5年 7月10日	第3回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和5年 7月21日	第4回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和5年 8月10日	第5回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和5年 9月 1日	第6回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和5年 9月29日	第7回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室

3) 日野町総合計画懇話会委員名簿

※敬称略

委員区分	氏名	所属・推薦団体等
学識経験者	会 長 只友 景士	龍谷大学政策学部教授
団体等推薦	副会長 山本 身江子	日野町地域女性団体連合会
	田中 嘉浩	農業関係団体（R5.7.19 まで）
	福井 美智子	農業関係団体（R5.7.25 から）
	岡 永治郎	日野町商工会
	齊藤 雅史	日野町企業協議会
	間瀬 克	日野町青年代表
	本居 節子	子育て関係代表

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期）

— 人と人がつながりいきいきと輝くまち —



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期） 施策検証結果報告書（令和4年度）

令和5年（2023年）11月

【発行】日野町総合計画懇話会
事務局 日野町企画振興課
〒529-1698 滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地
電話：0748-52-6552
FAX：0748-52-2043
